

DH57  
17

×  
複写



0026611-000

DH57-17

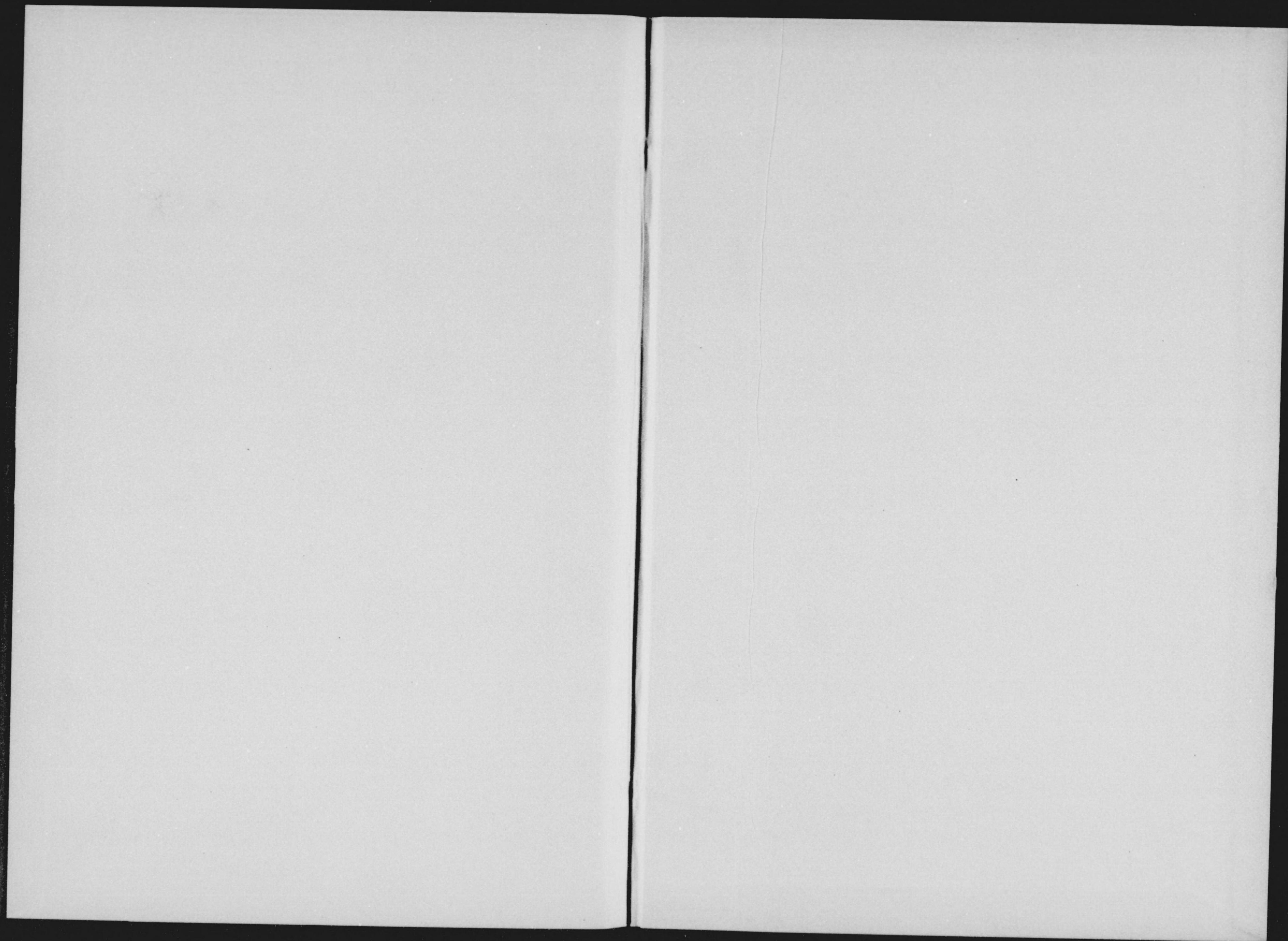
業務概要

満州拓植公社

1944

ADF







2484-54



# 業務概要

昭和十一年十二月

滿洲拓植公社



DH57  
17

凡 例

- 一 本編ハ昭和十九年十二月開院セラル、第八十六回帝國議會ニ對スル公社業務ノ説明資料トシテ編集セルモノナリ
- 一 前項ノ趣旨ニ依リ選擇シタル事項ハ簡潔ヲ主トシ能フ限り最近ノ事實ヲ掲記スルニ務メタルヲ以テ調査時期ノ如キハ各項必ズシモ一様ナラズ

昭和十九年十二月  
康徳十一年十二月

滿洲拓植公社

總裁室 文書課



335.7

1006003



# 帝國議會說明資料

(滿洲拓植公社)

## 目次

第一章 公社ノ設立及監督機關	(一)
第一節 公社ノ沿革	(一)
第一款 公社設立ノ經過	(一)
第二款 滿鮮拓植株式會社統合ノ經緯	(三)
第三款 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル條約及附屬書	(六)
第二節 公社ノ監督機關	(一四)
第一款 滿洲拓植委員會	(一四)
第二款 滿洲拓植委員會規程及滿洲拓植公社監督命令事項	(一四)
第三款 許認可及承認事項	(一六)
第三節 定款及株主總會	(一五)
第一款 定款	(一五)
第二款 株主總會	(一三)

第二章 公社ノ組織及從事員	(三)
第一節 公社ノ組織	(三)
第二節 役員及社員	(四)
第一款 役員	(四)
第二款 社員	(四)
第三款 社員ノ給與	(四)
第四款 社員ノ鍊成及厚生福祉	(五)
第三章 公社ノ資本金	(四六)
第一節 資本及株式	(四六)
第二節 株式拂込ノ經緯	(四八)
第一款 滿洲拓植株式會社財產引繼ノ經緯	(四九)
第二款 株式ノ拂込	(四九)
第四章 公社ノ社債	(五一)



第一節 社債ノ現況	(五)
第二節 社債發行ノ限度及餘力	(五)
第三節 政府ノ保證	(五)
第四節 社債ノ引受先	(六)
第五章 公社ノ會計	(六)
第一節 會計年度	(六)
第二節 事業費	(六)
第一款 事業費款項別	(六)
第二款 事業費認可豫算	(七)
第三節 營業收支	(七)
第一款 營業收支及益金累年比較	(七)
第二款 營業收入内譯累年比較	(七)
第三款 營業支出累年比較	(七)
第四款 昭和十九年度(康徳十一年度)營業收支豫算	(七)
第四節 利益金	(七)
第五節 公社ノ資産及負債	(七)
第一款 貸借對照表	(七)

第二款 財産目録	(七)
第六章 公社ノ業務	(八)
第一節 開拓地建設經營ノ助成輔導ニ關スル業務	(八)
第一款 入植ニ關スル輔導	(八)
第二款 開拓農村建設經營基本計畫ノ樹立	(八)
第三款 開拓地建設ニ關スル助成輔導	(八)
第四款 開拓地經營ニ關スル輔導助成	(八)
第五款 開拓民ノ營農ニ關スル輔導助成	(八)
第六款 開拓民ノ生活ニ關スル輔導助成	(八)
第七款 朝鮮人開拓民ニ關スル助成輔導	(八)
第八款 其ノ他開拓地建設經營ニ關係アル業務	(八)
第二節 金融ニ關スル業務	(八)
第一款 金融業務	(八)
第二款 預金業務	(八)
第三款 經理指導並ニ監査	(八)
第四款 金融實績	(八)
第五款 朝鮮人開拓民ニ對スル金融業務	(八)

第三節 土地ノ取得及管理ニ關スル業務	(一七)
第一款 土地ノ取得	(一七)
第二款 土地ノ管理	(一七)
第三款 土地ノ處分	(一七)
第四節 需品ニ關スル業務	(一七)
第一款 業務ノ運管	(一七)
第二款 主要物資需給狀況	(一七)
第三款 一般物資ノ需給狀況	(一七)
第四款 物資ノ輸送	(一七)
第五款 物資ノ貯藏並配給方針	(一七)
第五節 工務ニ關スル業務	(一七)
第一款 工務ノ業務	(一七)
第二款 業務ノ實績	(一七)
第三款 資材及勞務	(一七)
第七章 投資事業	(一六)



# 第一章 公社ノ設立及監督機關

## 第一節 公社ノ沿革

### 第一款 公社設立ノ經過

滿洲へノ日本内地人開拓民ノ入植ハ古クハ日露戰後ヨリ滿洲事變ニ至ル間ニ於テモ關東州廳、滿鐵等ノ斡旋ニ依リ小規模ナガラ行ハレタルモ當時ノ特殊事情ニ依リ成功ノ域ニ達スル者ハ尠ナカリキ。

滿洲建國ト共ニ日本國民就中土地ニ定着スル農民ノ滿洲移住ハ日滿兩國ヲ統合セシメ其ノ不可分關係ヲ永遠ニ強固ナラシムル根本的國策ナリトノ主張ガ各方面ニ提唱サレ、昭和七年（大同元年）當時ノ拓務省ノ所謂第一次武裝移民ガ現在ノ彌榮ニ入植シテ以來第二次第三次ト逐年試驗移民ノ入植ガ行ハレ、之ニ伴ヒ入植地入手ノ問題生ゼルモ、曩ニ大正十一年一月商租權ニ依ル土地ノ利用、水田開拓、在滿鮮農ノ指導保護ヲ目的トシテ奉天ニ設立セラレアリタル東亞勸業株式會社（資本金二千萬圓）ノ手ニ依リ取り敢ヘズ舊吉林省（現在ノ三江省及東滿總省東安地區方面）ニ百萬町歩ノ土地商租ヲ完了シタリ。コノ初期東亞勸業時代ハ未ダ國策トシテ開拓政策ハ採リ上ゲラル、ニ至ラズ、會社ハ直營農場（約七千陌）管理土地（約九萬陌）安全農村（約九千陌）ニ約一萬戸近クノ鮮農ヲ收容シタリ。

他方内地人開拓民ニ對シテハ關東軍司令部ニ日滿關係者參集「日滿開拓會議」ヲ開催ソノ答申ニ基キ昭和九年（康德元年）頃ヨリ對滿開拓事業遂行ノ根本方策ガ要望セラレ既入植開拓民ノ助成及十ヶ年二萬戸入植ノ實行機關トシテ翌昭和十年（康德二年）資本金一千五百萬圓（日滿兩國、滿鐵、日本民間出資）ノ滿洲拓植株式會社ガ設立セラレ（康德二年十二月公布滿洲國勅令第一四五號）、之ト同時ニ東亞勸業株式會社ハ日本内地人開拓關係業務ヲ新會社ニ引繼ゲリ。

東亞勸業株式會社ハ前述ノ如ク在滿朝鮮人ノ指導保護ニ任ジキタルモ、昭和十一年（康德三年）八月「在滿朝鮮人指導要綱」ニヨリ



在滿朝鮮人ハ民族構成分子トシテ統制撫育サレル方針ガ闡明サレ鮮農取扱ノ方針確立シ、ソノ實踐指導機關トシテ昭和十一年（康德三年）六月二十六日（勅令第九十七號）滿鮮拓植株式會社ガ設立セラレ、東亞勸業株式會社ハ新會社ニ買收合併サレテ其ノ業務ヲ引繼ギ解消スルニ至レリ。

斯ル間ニ内地人試驗移民ノ好成績ニ依リ大量入植ガ計畫セラレ昭和十一年二十箇年百萬戸入植計畫ガ日滿兩國ヲ通ズル一體的重要國策トシテ採擇セラレ、日滿兩國間ニ其ノ實行機關タル滿洲拓植公社設立ニ關スル條約ノ締結ヲ見、從來ノ滿洲拓植株式會社ヲ改組擴充シテ其ノ業務一切ヲ繼承シ、昭和十二年（康德四年）九月一日日滿兩國法人タル滿洲拓植公社（資本金五千萬圓）ガ設立セラレルト共ニ、日滿兩國政府ハ新京ニ滿洲拓植委員會ヲ設置シテ公社業務ヲ監督スルコト、ナレリ。

更ニ昭和十四年（康德六年）十二月「滿洲開拓政策基本要綱」ガ日滿兩國政府ニ於テ決定サル、ヤ、ソノ方針ニ基キ同附屬書第十一項「滿洲拓植公社ノ改編及滿鮮拓植株式會社統合ニ關スル件」ニヨリ公社ハ更ニ資本金一千五百萬圓ヲ増資シテ、從來鮮農ノ移住助成ニ專念シ來タリタル滿鮮拓植株式會社トノ統合ヲ行ヒ、茲ニ內鮮人ニ關スル開拓事業ハ一元的ニ滿洲拓植公社ガ其ノ任ニ當ルコト、ナレリ。其ノ後昭和十六年（康德八年）十二月三十一日第二期五ヶ年計畫ノ策定ヲ見、昭和十八年（康德十年）六月ニハ第二回ノ資本増加ヲ行ヒ倍額ノ一億三千萬圓トナシ爾來引續キ銳意使命ノ達成ニ邁進シツ、アリ。公社設立迄ノ經過ヲ摘記スレバ次ノ如シ。

- 一 設立準備委員會ノ設置 昭和十二年（康德四年）四月九日、關東軍ノ發議ニ依リ設立準備委員會設置セラレタリ。
- 二 設立準備委員會ノ開催 五月十三日以降同月末日迄ニ前後六回ノ委員會ト數回ノ幹事會トヲ開催シ、日滿兩國ノ「協定案」、「公社定款案」、「公社設立要綱案」等各般ノ事項ニ互リ現地案ノ作成ヲナシタリ。
- 三 日本國政府當局トノ折衝 六月五日以降七月二十九日ニ至ル間準備委員長外六委員東京ニ赴キ、滿洲國政府當局ト密接ナル連絡ヲ執リツ、日本國政府當局ト協議折衝ヲ進メタリ。
- 四 「滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定」調印及公布 「滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定」ハ八月二日滿洲國國務總理大臣室ニ於テ植田特命全權大使ト張國務總理大臣トノ間ニ調印ヲ了ヘ、滿洲國ニ於テハ八月二日附、日本國ニ於テハ八月三日附、日本國側條約第十一

號、滿洲國側條約第一號ヲ以テ夫々協定全文ノ公布ヲ見タリ。

- 五 滿洲拓植公社設立委員ノ任命及委囑 八月五日、日本國側十五名並ニ滿洲國側十五名ノ委員夫々任命並ニ委囑セラレタリ。
- 六 設立委員會開催 八月二十七日、新京日滿軍人會館ニ於テ設立委員會ヲ開催シ、設立委員長ノ互選、幹事ノ任命アリタル後設立準備委員長ヨリ設立委員長ニ事務引繼ヲナシ、定款案、設立趣意書案、事業目論見書案、創立費豫算案及滿洲拓植株式會社營業財產買收要項案ヲ審議決定シ、日滿兩國政府ヘノ認可、許可ノ申請及諸報告ノ件ヲ決議セリ。
- 七 定款ノ認可 八月二十八日、日本國拓務大臣並ニ滿洲國產業部大臣宛認可申請ノ手續ヲ爲シ同日附ヲ以テ認可ノ指令アリタリ。
- 八 第一回株金拂込 八月二十八日、設立委員長宛各株式申込人ヨリ株式申込書ノ提出アリ、同月三十一日各引受株ニ對スル株金ノ第一回拂込ヲ完了セリ。
- 九 設立ノ許可 八月二十八日、日本國拓務大臣並ニ滿洲國產業部大臣宛許可申請ノ手續ヲ爲シ同日附ヲ以テ許可アリタリ。
- 十 創立總會ノ終結 八月三十一日、創立總會終結セリ。
- 十一 設立登記 八月三十一日、設立登記完了セリ。
- 十二 營業開始 九月一日、公社ノ營業ヲ開始セリ。

#### 第二款 滿鮮拓植株式會社統合ノ經緯

滿鮮拓植株式會社ノ統合ニ關シテハ前述ノ如ク昭和十四年（康德六年）末決定ノ「滿洲開拓政策基本要綱」附屬書第一項「滿洲拓植公社ノ改編及滿鮮拓植株式會社ノ統合ニ關スル件」ニヨリ「滿洲拓植公社ト滿鮮拓植株式會社トヲ統合シ以テ開拓事業ノ一元化ヲ圖リ開拓地ノ建設及經營並ニ之ニ關聯スル原住民ノ輔導ニ關シ各民族ニ對スル公正妥當ナル助成ニ當ラシメ開拓政策ノ統制的遂行ト民族協和ノ積極的達成ニ寄與セシムルモノトス」ノ根本方針明示セラレ且ツ統合ハ滿洲拓植公社ノ増資ニヨル滿鮮拓植株式會社ノ營業買收ニ依ルコトト決定セラレタルヲ以テ右ニ基キ昭和十五年（康德七年）九月ヨリ諸準備ニ着手シ統合手續ヲ進捗セシメタリ。其ノ經過左ノ如シ。



一 統合準備委員會ノ設置

昭和十五年(康德七年)九月ヨリ兩者幹部社員ヲ以テスル統合準備委員會開催セラレ準備ヲ進メタル處、同年十一月ニ至リ日本大使館、滿洲拓植委員會、滿洲國政府及滿拓、滿鮮拓兩者關係者ヲ網羅スル「統合準備委員會及幹事會」設立セラレ本格的統合準備ニ着手セリ

二 統合實施要綱ノ決定

右委員會及幹事會ハ統合ノ要領及此ニ伴フ諸事項ニ協議ヲ重ネタル結果昭和十五年(康德七年)十二月一應現地案ノ作成ヲ了シ、同年末ヨリ現地關係者東上シ、日本側關係當局ト協議折衝ヲ進メ、昭和十六年(康德八年)一月統合ニ關スル實施要綱及實施日程決定セラレタリ。

主ナル事項次ノ如シ。

- (1) 滿洲拓植公社ヲシテ滿鮮拓植株式會社ノ營業全部ヲ買收セシメ滿鮮拓植株式會社ハ之ヲ解散セシムルモノトス
  - (2) 前號ノ買收金額ハ別ニ設ケル評價委員會ノ決定スル所ニ依ル
  - (3) 買收資金ハ滿洲拓植公社ノ増資ニ依ラシメ其ノ増資額ハ千五百萬圓トシ、日滿兩國政府折半出資、昭和十六年度ニ於テ其半額昭和十七年度以降ニ於テ残り半額ヲ拂込ムモノトス
  - (4) 日本政府出資分擔額七百五十萬圓ハ朝鮮總督府特別會計ノ所屬トス
- 日本政府出資分擔額七百五十萬圓ハ朝鮮總督府特別會計ノ所屬トス
- 滿鮮拓植株式會社ノ借入金ニシテ滿鮮拓植株式會社ノ社債ニ因ルモノハ其ノ社債ニ付滿洲拓植公社ニ於テ之ヲ承繼セシメ、日滿兩國政府ニテ保證スルモノトス

附 則

本統合ハ昭和十六年六月一日ヲ目途トシ實施スルモノトス

三 營業讓渡假契約ノ締結

昭和十六年四月一日附ヲ以テ兩社間ニ「滿鮮拓ハ五月三十一日現在ニ於ケル營業全部ヲ其ノ儘六月一日ヲ以テ滿拓ニ讓渡スルコト」及「滿鮮拓讓渡價格決定方法及評價委員會ノ構成」ニ關スル事項ヲ主タル内容トスル營業讓渡ニ關スル假契約締結セラレタリ。

四 滿鮮拓財産評價委員會ノ設立ト財産評價

前項假契約ノ條項ニ基キ昭和十六年(康德八年)四月滿洲拓植委員會長及移民事務處理委員會長ヨリ六名ノ委員ガ夫々任命又ハ委囑セラレ右委員ハ四月七日、八日及同月二十二日ノ三回ニ互リ新京ニ於テ委員會ヲ開催、昭和十六年(康德八年)三月三十一日現在ニ於ケル滿鮮拓ノ財産評價額ノ決定、引續キ營業全部ノ讓渡價格ヲ決定セリ。

五 滿拓公社ノ資本増加及定款變更

滿鮮拓統合ノ具體的方策決定セラレタルヲ以テ公社ハ之ニ對應シテ昭和十六年(康德八年)四月二十三日第九回臨時株主總會ヲ開催、資本増加(從來ノ五千萬圓ヲ六千五百萬圓ニ増加)及定款變更ノ決議ヲ爲シ夫々日滿兩國政府ニ申請、同年四月二十八日附ヲ以テ兩國政府ヨリ認可セラレタリ。

右ニ依リ増加資本金ヲ一株五拾圓ノ株式參拾萬株ニ分チ、滿洲國經濟部大臣及朝鮮總督ニ對シ各拾五萬株ヲ割當テタル處夫々全株ノ引受けアリ、次デ五月六日新株第一回拂込一株貳拾五圓ノ割合ヲ以テスル七百五拾萬圓ノ拂込ヲ完了セリ。

六 營業讓渡契約ノ締結

昭和十六年(康德八年)六月一日新京日滿軍人會館ニ於テ兩者間ニ營業讓渡契約締結セラレ茲ニ滿洲開拓史上特記セラルベキ滿拓、滿鮮拓ノ統合ハ無事終了セリ。

七 鮮滿拓植株式會社發行社債ノ承繼

公社ハ滿鮮拓植株式會社ガ負擔シタル借入金中鮮滿拓植株式會社ニ對スル借入金ニシテ鮮滿拓植株式會社發行社債額面總額貳千四百萬圓ヲ引當トシタルモノニ關シテハ其ノ社債ニ付發行條件ト同一條件ヲ以テ公社ニ於テ之ヲ承繼スルノ認可ヲ得滿鮮拓植株式會社營業讓渡契約締結ト日ヲ同ウシテ鮮滿拓植株式會社トノ間ニ右承繼契約ヲ締結、同年六月十三日ヲ以テ之ガ承繼ヲナシタリ。



第三款 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル條約及附屬書

條約

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ裁可シ昭和十二年八月二日新京ニ於テ帝國特命全權大使ガ滿洲帝國國務總理大臣ト共ニ署名調印シタル  
滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定ヲ附屬文書ト共ニ茲ニ公布セシム

御名御璽

昭和十二年八月三日

內閣總理大臣 公爵 近衛 文麿  
外務大臣 廣田 弘毅  
拓務大臣 大谷 尊由

條約第十一號

滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定

大日本帝國政府及滿洲帝國政府ハ兩國協力シテ滿洲國ニ於ケル移住ヲ助成シ滿洲國國土ノ開發ヲ爲シ以テ兩國間ノ緊密不可分ノ關係ヲ益鞏固ナラシメンコ  
トヲ希望シ

之ガ爲日滿合辦ノ株式會社ヲ設立スルノ必要ナルヲ認メ茲ニ左ノ條款ヲ訂立セリ

第一條

日滿兩國政府ハ協力シテ日滿合辦ノ株式會社ヲ設立セシメ滿洲國ニ於ケル開拓移住ノ助成ニ關スル事業ヲ經營セシムルモノトス  
前項ノ株式會社ハ滿洲拓植公社ト稱ス

第二條

滿洲拓植公社(以下公社ト稱ス)ノ資本ハ滿洲國幣五千萬圓トス但シ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増減スルコトヲ得

公社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第三條

公社ノ株式ハ記名式トシ日滿兩國ノ政府公共團體若ハ國民又ハ兩國ノ法令ノ何レカニ依リ設立シタル法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數  
以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ兩國ノ國民又ハ法人以外ノ者ニ屬セザルモノニ限り之ヲ所有スルコトヲ得  
公社ノ各株主ハ一株ニ付一個ノ議決權ヲ有ス

第四條

公社ニ總裁一名並ニ理事及幹事若干名ヲ置ク  
總裁ハ公社ヲ代表シ其ノ業務ヲ處理ス  
總裁事故アルトキハ理事ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ  
理事ハ總裁ヲ輔佐シ公社ノ業務ヲ分掌ス  
監事ハ公社ノ業務ヲ監督ス

第五條

公社ノ總裁及理事ハ日滿兩國政府之ヲ任命ス  
總裁ノ任期ハ五年理事ノ任期ハ四年監事ノ任期ハ三年トス

第六條

公社ハ其ノ拂込ミタル株金額ノ十倍ヲ限リ社債ヲ發行スルコトヲ得  
公社社債ヲ發行セントスル場合ニ於テハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受クベシ  
前項ノ社債ノ元利支拂ニ付テハ日滿兩國政府ニ於テ各所要ノ手續ヲ經タル上連帶シテ之ガ保證ヲ爲スモノトス

第七條

公社ノ利益配當ハ公正ナル一定率ヲ超エザルモノトス



政府持株以外ノ株式ニ對スル利益配當ハ定款ノ定ムル所ニ依リ或程度ノ率ニ達スル迄政府持株ニ優先シテ之ヲ爲スコトヲ得

第八條

滿洲國政府ハ公社ニ對シ登録稅、法人營業稅、契稅、木稅及牲畜稅ヲ免除ス

第九條

滿洲國政府ハ移住者ガ公社ヨリ土地ノ分讓ヲ受ケタル場合移住者ニ對シ契稅ヲ免除ス

第十條

公社ガ移住者ニ讓渡シタル不動産及不動産上ノ權利ノ移轉（相續ニ因ル場合ヲ除ク）貸付又ハ之ニ對スル物權ノ設定若ハ移轉（相續ニ因ル場合ヲ除ク）ハ公社ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十一條

日滿兩國政府ハ公社ノ業務ヲ監督ス

第十二條

日滿兩國政府ハ公社ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ本協定、兩國ノ法令若ハ公社ノ定款ニ違反シ、公益ヲ害シ又ハ監督命令ニ違反シタルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第十三條

公社ノ毎年度ノ資金計畫及決算ハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケベシ

第十四條

日滿兩國政府ハ公社ノ業務ヲ監督ヲ爲サシムル爲滿洲國新京ニ滿洲拓植委員會ヲ設置ス

第十五條

委員會ノ組織運用ニ付テハ本協定附屬書ノ定ムル所ニ依ル

委員會ハ公社ノ業務ヲ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十六條

委員會ハ第二條第一項但書、第六條第二項、第十三條第一項及第二項ノ認可、第六條第三項ノ保證並ニ第十二條ノ決議ノ取消及役員解任ニ付日滿兩國政府ニ其ノ意見ヲ具申スルコトヲ得

第十七條

委員會ハ必要ニ應ジ滿洲國ニ於ケル移民ニ關スル一切ノ事項ニ付日滿兩國政府ニ建議スルコトヲ得

第十八條

委員會ノ經費ハ日滿兩國政府ニ於テ均等ニ之ヲ分擔スルモノトス

第十九條

公社ニ付テハ本協定ニ定ムルモノノ外日滿兩國政府間ニ別ニ定ムル所ニ據ルモノトス

第二十條

日滿兩國政府ハ夫々十五名ノ設立委員ヲ命ジ兩國政府監督ノ下ニ公社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシムルモノトス

第二十一條

設立委員ハ定款ヲ作り日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スルモノトス

第二十二條

設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ日滿兩國政府ニ提出シ公社設立ノ許可ヲ申請スルモノトス

第二十三條

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシメ其ノ拂込アリタルトキハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スルモノトス

第二十四條

創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ公社ニ引渡スモノトス



本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

本協定ノ正文ハ日本文及漢文トシ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ依リ之ヲ決ス  
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署名調印セリ

昭和十二年八月二日即チ康德四年八月二日新京ニ於テ本書ニ通テ作成ス

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使 植 田 謙 吉 (印)  
滿洲帝國國務總理大臣 張 景 惠 (印)

附 屬 書

- 一 滿洲拓植委員會ノ委員ハ十二名トシ日滿兩國政府ハ各六名ヲ任命シ相互ニ之ヲ通報スベシ  
日滿兩國政府ハ必要ニ應ジ協議ノ上各同數ノ臨時委員ヲ任命スルコトヲ得  
委員又ハ臨時委員事故アルトキハ其ノ代理者ニ付滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使滿洲帝國國務總理大臣相互協議ノ上之ヲ出席セシムルコトヲ得  
代理者ハ委員又ハ臨時委員ノ名ニ於テ其ノ職ヲ行フ
- 二 委員會ノ會長ハ委員中ヨリ之ヲ互選ス會長事故アルトキハ委員中ヨリ其ノ代理者ヲ互選ス代理者ハ會長ノ名ニ於テ其ノ職ヲ行フ  
會長ハ委員會ヲ代表シ且會議ノ議長ト爲ル
- 三 委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル  
會長ハ委員トシテ議決ニ加ハルコトヲ妨グズ
- 四 委員會ハ滿洲拓植委員會事務局ヲ置キ委員會ノ常務ヲ處理セシム  
前項ノ事務局ハ委員會ニ於テ選任スル委員若干名及隨員ヲ以テ之ヲ構成ス  
事務局ニ局長ヲ置ク局長ハ前項ノ委員中ヨリ會長之ヲ命ズ
- 五 委員會ハ日滿兩國政府ノ承認ヲ經テ其ノ規則ヲ定ム

滿洲拓植公社設立ニ關スル協定及附屬書ニ關スル  
日滿兩國全權委員間了解事項

- 第一 協定第五條ノ總裁及理事ノ任命ニ付テハ日滿兩國政府事前ニ協議ヲ遂ゲ意見ノ一致ヲ見タル上各同日附テ之ヲ任命スルモノトス
- 第二 協定第二條第一項但書、第六條第二項、第十三條第一項及第二項ノ認可、第六條第三項ノ保證並ニ第十二條ノ決議ノ取消及役員ノ解任ニ付テハ前項ニ準ズ  
ルモノトス但シ兩國政府間ノ協議ハ滿洲拓植委員會ヲ經由シテ爲サルモノトス
- 第三 協定附屬書ノ一ノ第一項ノ委員ハ左ノ如クスルモノトス

大日本帝國

關東軍參謀長タル陸軍將官

大使館首席參事官

關東局總長

移民事務ニ關係アル者ニシテ日本國政府ニ於テ特ニ任命スルモノ三名

滿洲帝國

產業部大臣

經濟部大臣

總務長官

移民事務ニ關係アル者ニシテ滿洲國政府ニ於テ特ニ任命スルモノ三名



第四

協定附屬書ノ四ノ第二項ノ職員ハ左ノ如クスルモノトス

大日本帝國

關東軍司令部ノ陸軍佐尉官

二名

大使館書記官

一名

拓務書記官又ハ拓務事務官及拓務技師

三名

關東局事務官

一名

滿洲帝國

總務廳企畫處參事官

一名

總務廳主計處理事官又ハ事務官

一名

內務局管理處理事官又ハ事務官

一名

產業部拓政司理事官又ハ事務官

二名

產業部農務司理事官又ハ事務官

一名

經濟部金融司理事官又ハ事務官

一名

右ノ外所要ノ臨時職員及書記ヲ置クコトヲ得ルモノトス

昭和十二年八月二日即チ康德四年八月二日新京ニ於テ

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使

植

田

謙

吉

(印)

滿洲帝國國務總理大臣

張

景

惠

吉

(印)

附屬交換公文

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候  
洲國ノ會社ニ關スル法令ニ據ルコト但シ日本國ニ設クル公社ノ支店竝ニ日本國ニ於テスル公社ノ株券又ハ債券ノ發行及其ノ株式ノ移轉若ハ質入又ハ社債ノ  
移轉ニ付テハ日本國ノ商法中外國會社ニ關スル規定及之ニ準テスルコトニ了解成立致候  
本大臣ハ閣下ニ於テ右ノ了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候  
右申進旁本大臣ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具  
康德四年八月二日新京ニ於テ

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使

植

田

謙

吉

閣下

滿洲帝國國務總理大臣

張

景

惠

吉

(印)

(往翰)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候  
本日調印ノ滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第十九條ニ關シ本大臣ト閣下トノ間ニ公社ニ關シ該協定ニ規定ナキ事項ニ付テハ便宜上滿洲國ノ會社ニ關ス  
ル法令ニ據ルコト但シ日本國ニ設クル公社ノ支店竝ニ日本國ニ於テスル公社ノ株券又ハ債券ノ發行及其ノ株式ノ移轉若ハ質入又ハ社債ノ移轉ニ付テハ日  
本國ノ商法中外國會社ニ關スル規定及之ニ準テスルコトニ了解成立致候  
本大臣ハ閣下ニ於テ右ノ了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候  
本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候

右同答旁本使ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十二年八月二日新京ニ於テ

滿洲帝國國務總理大臣

張

景

惠

閣下

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使

植

田

謙

吉

(印)



第四

協定附屬書ノ四ノ第二項ノ職員ハ左ノ如クスルモノトス  
大日本帝國

關東軍司令部ノ陸軍佐尉官

二名

大使館書記官

一名

拓務書記官又ハ拓務事務官及拓務技師

三名

關東局事務官

一名

滿洲帝國

總務廳企畫處參事官

一名

總務廳主計處理事官又ハ事務官

一名

內務局管理處理事官又ハ事務官

一名

產業部拓政司理事官又ハ事務官

二名

產業部農務司理事官又ハ事務官

一名

經濟部金融司理事官又ハ事務官

一名

右ノ外所要ノ臨時職員及書記ヲ置クコトヲ得ルモノトス

昭和十二年八月二日即チ康德四年八月二日新京ニ於テ

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使 植 田 謙 吉 (印)  
滿洲帝國國務總理大臣 張 景 惠 (印)

附屬交換公文

(來輪譯文)

以書翰啓上致候陳者本日調印ノ滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第十九條ニ關シ本大臣ト閣下トノ間ニ公社ニ關シ該協定ニ規定ナキ事項ニ付テハ便宜上滿洲國ノ會社ニ關スル法令ニ據ルコト但シ日本國ニ設クル公社ノ支店竝ニ日本國ニ於テスル公社ノ株券又ハ債券ノ發行及其ノ株式ノ移轉若ハ質入又ハ社債ノ移轉ニ付テハ日本國ノ商法中外國會社ニ關スル規定及之ニ準聯スル附屬法令ノ規定ニ準ズルコトニ了解成立致候  
本大臣ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

右申進旁本大臣ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

敬具

康德四年八月二日新京ニ於テ

滿洲帝國國務總理大臣 張 景 惠 (印)  
滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使 植 田 謙 吉 閣下

(往 輪)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候

本日調印ノ滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第十九條ニ關シ本大臣ト閣下トノ間ニ公社ニ關シ該協定ニ規定ナキ事項ニ付テハ便宜上滿洲國ノ會社ニ關スル法令ニ據ルコト但シ日本國ニ設クル公社ノ支店竝ニ日本國ニ於テスル公社ノ株券又ハ債券ノ發行及其ノ株式ノ移轉若ハ質入又ハ社債ノ移轉ニ付テハ日本國ノ商法中外國會社ニ關スル規定及之ニ準聯スル附屬法令ノ規定ニ準ズルコトニ了解成立致候  
本大臣ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候

右回答旁本使ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十二年八月二日新京ニ於テ

滿洲帝國國務總理大臣 張 景 惠 閣下

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使 植 田 謙 吉 (印)



第二節 公社ノ監督機關

第一款 滿洲拓植委員會

日滿兩國政府ハ「滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定」第十四條ニ基キ新京ニ滿洲拓植委員會ヲ置キ又同協定附屬書ニ基キ拓植委員會事務局ヲ新京ニ設ケ公社業務ノ監督ニ當リ居レリ

第二款 滿洲拓植委員會規程及滿洲拓植公社監督命令事項

公社ノ監督機關タル滿洲拓植委員會ノ規程及「滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定」第十五條ニ基ク「滿洲拓植公社監督命令事項」左ノ如シ。

(註) 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第十五條

「委員會ハ公社ノ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」

一 滿洲拓植委員會規程

第一章 委員 會

第一條 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定ニ定ムル滿洲拓植委員會ハ滿洲國新京ニ之ヲ設置ス

第二條 委員會ハ協定附屬書ノ定ムル所ニ從ヒ日滿兩國同數ノ委員及臨時委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 委員會ノ會長ハ委員中ヨリ之ヲ互選ス

會長事故アルトキハ委員中ヨリ其ノ代理者ヲ互選ス代理者ハ會長ノ名ニ於テ其ノ職ヲ行フ

會長ハ委員會ヲ代表シ且會議ノ議長ト爲ル

第四條 委員會ノ決定ハ委員會ノ會議ニ依リ之ヲ決ス但シ會議ノ議案輕易ナルトキハ特ニ會議ヲ開カザルコトヲ得

第五條 委員會ノ會議ハ會長之ヲ招集ス

招集ハ會議期日二日前迄ニ各委員及臨時委員ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ緊急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 議案ハ招集通知書ト共ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス但シ會長ニ於テ其ノ必要ヲ認メザルトキ及緊急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 委員會ノ會議ハ委員及臨時委員全員出席スルニ非ザレバ開會スルコトヲ得ズ

第八條 委員會ノ議事ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可不同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

會長ハ委員トシテ議決ニ加ヘルコトヲ妨グズ

第九條 日滿兩國政府ノ雙方又ハ一方ニ對スル委員會ノ建議ニ關スル審議ヲ要請セントスルトキハ委員又ハ臨時委員ヨリ建議案ヲ會長ニ提出スルコトヲ要ス

會長前項ノ建議案ヲ受理シタルトキハ事務局ノ審議ヲ經テ遲滯ナク會議ヲ招集ス

日滿何レカ一方ノ政府ニ對シ建議ヲ爲シタルトキハ會長ハ其ノ旨直ニ他ノ一方ノ政府ニ對シ通報ス

第十條 會長ハ必要ニ應ジ委員及臨時委員以外ノ者ヲ會議ニ出席セシメ意見ヲ述ベシムルコトヲ得

第十一條 委員會ノ決議ハ日本文及漢文ヲ以テ各一通ヲ作成シ會長及事務局長之ニ署名ス

委員會ノ決議録ハ委員會會長ノ發議ニ依リ日本文又ハ漢文ノ何レカ一方ヲ省略スルコトヲ得

會長ハ委員會ノ決議ヲ日滿兩國政府ニ報告スルモノトス

第十二條 會長ハ事務局ニ命ジ委員會ノ會議議事録ヲ作成セシメ委員會ノ記録中ニ保管セシム

第十三條 委員會ニ滿洲拓植委員會事務局ヲ置キ委員會ニ於テ選任スル委員若干名並ニ隨員及書記ノ全員ヲ以テ構成ス

事務局ニ局長ヲ置ク局長ハ前項ノ委員中ヨリ會長之ヲ命ズ

事務局ノ職務規則ハ會長之ヲ定ム

第十四條 局長ハ會長ノ命ヲ承ケ事務局ヲ掌理シ職員以下ノ進退ヲ專行ス

前條第一項ノ委員ハ局長ヲ輔佐ス

職員ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

職員ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

職員ハ局長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第二章 事務局



書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第十五條 事務局ニ委員室及庶務室ヲ置ク

第十六條 委員室ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 滿洲拓植公社業務監督ニ關スル事項

二 移民ニ關スル建議及意見具申ニ關スル事項

第十七條 庶務室ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 印章ノ保管及文書ニ關スル事項

二 人事經理及庶務ニ關スル事項

三 情報資料ノ蒐集及保管ニ關スル事項

四 統計及刊行物ノ編纂ニ關スル事項

第三章 會 計

第十八條 委員會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度ノ出納事務ハ翌年度四月三十日迄ニ整理完結ス

第十九條 委員會ノ歳入出概算書ハ前年度六月三十日迄ニ日滿兩國政府ニ之ヲ提出ス必要避クベカラザルトキハ委員會ハ追加概算書ヲ提出スルコトヲ得

第二十條 委員會ノ決算ハ翌年度五月三十一日迄ニ日滿兩國政府ニ之ヲ提出ス

第二十一條 委員會ノ會計規則ハ會長之ヲ定ム

二 滿洲拓植公社業務監督命令事項

滿洲拓植委員會命令第一號(第二號改正)

滿洲拓植公社總裁坪上貞二ニ令ス

滿洲拓植公社ニ對スル業務監督命令ニ關スル件

滿洲拓植公社設立ニ關スル協定第十五條ニ依リ其ノ社ノ業務ニ關シ左記ノ事項ヲ命令ス

昭和十二年九月一日

(昭和十三年二月十五日)  
康徳五年二月十五日

滿洲拓植委員會會長 東 條 英 機

滿洲拓植公社監督命令事項

第一 其ノ社ハ左ノ事項ニ付滿洲拓植委員會ノ承認ヲ受クベシ

一 移住者ニ必要ナル施設及其ノ經營ニ關スル重要事項

二 移住者ニ對スル金融規程ノ制定、變更及廢止

三 移住用土地ノ取得及處分ニ關スル重要事項

四 移住用土地ノ管理及分譲ニ關スル規程ノ制定、變更及廢止

五 他ノ會社又ハ組合ニ對スル重要ナル出資並ニ金融ニ關スル事項

六 移住者ニ讓渡シタル不動産及不動産上ノ權利ノ移轉、貸付又ハ之ニ對スル物權ノ設定若ハ移轉ニ付テノ承諾ニ關スル事項

七 營業資金ノ借入ニ關スル事項

八 社債ノ償還ニ關スル事項

九 株金拂込ニ關スル事項

十 本社、支社又ハ事務所ノ設置、移轉又ハ廢止

十一 職制及人事給與ニ關スル規程ノ制定、變更及廢止

十二 役員會ニ關スル規程ノ制定、變更及廢止

十三 總裁及理事ノ他業從事

十四 役員ノ退職慰勞金ニ關スル事項



十五 訴訟ニ關スル事項

十六 其ノ他重要ナル事項

第二 其ノ社ハ左ノ事項ニ付滿洲拓植委員會ニ報告スベシ  
甲 定時報告

- 一 毎年度算及事業計畫ニ關スル事項（毎年度一回、前年度九月中）
  - 二 移住地ノ建設狀況（毎年度一回、五月及十一月中）
  - 三 土地管理狀況（毎年度一回、翌年度四月中）
  - 四 小作管理狀況（毎年度一回、翌年度四月中）
- 乙 臨時報告

- 一 株主總會及役員會ノ日時、場所、目的及議案
- 二 株主總會及役員會ノ決議
- 三 役員ノ事務分掌
- 四 移住用土地内原住者ノ處置ニ關スル事項
- 五 事業計畫ノ重要ナル變更ニ關スル事項
- 六 其ノ他業務上重要ナル事項

第三款 許認可及承認事項

昭和十八、十九兩年度ニ於ケル日滿兩國政府及滿洲拓植委員會ノ許認可及承認事項次ノ如シ。

日滿兩國政府許認可事項  
昭和十八年度  
昭和十九年度

指 令 番 號	認 可 年 月 日	認 可 事 項
指令滿拓第一三二號經濟部指令第五八〇五號	昭和十八年十月十三日	第二十一回日本内地債發行認可並ニ元利金支拂保證ノ件
同 第一三九六號同	同 十月二十五日	第二十二回 "
指令滿拓第一七一六號同	同 十二月二十四日	滿洲國幣第拾參號社債發行並ニ元利金支拂保證ニ關スル件
同 第一五八五號同	同 同	第二十三回日本内地債發行認可並ニ元利金支拂保證ニ關スル件
同 第一五八四號同	同 同	第二十四回 "
同 第一九〇一號同	同 三月三十一日	滿洲國幣第拾四號社債發行並ニ元利金支拂保證ニ關スル件
同 第一四九號農商部指令第一四三三號	同 三月二十九日	昭和十八年度更生資金計畫ニ關スル件

昭和十九年度  
昭和十九年度

指 令 番 號	認 可 年 月 日	認 可 事 項
指令滿拓第二七三號經濟部指令第二二四七號	昭和十九年五月二十五日	滿洲國幣第十五號社債發行認可並ニ元利金支拂保證ニ關スル件
同 第二九二八號同	同 六月六日	第二十五回日本内地債發行認可並ニ元利金支拂保證ニ關スル件
同 第二七七四號同	同 同	第二十六回 "
同 第三三四六號同	同 六月二十四日	滿洲國幣第十六號社債發行認可並ニ元利金支拂保證ニ關スル件
同 第三三九七號同	同 七月七日	滿洲國幣第十七號 "
同 第三三七九號同	同 同	滿洲國幣第十八號 "
同 第三四五六號同	同 七月十八日	第二十七回日本内地債發行認可並ニ元利金支拂保證ニ關スル件
指令滿拓第三四七〇號農商部指令第二〇七七號	同 六月三十日	昭和十八年度決算認可ニ關スル件
同 第三七一八號同	同 同	定款變更ニ關スル件
同 第四六七二號同	同 八月二十三日	滿洲國幣第十九號社債發行並ニ元利金支拂保證ニ關スル件















本公司ノ定款ノ變更、監事ノ選任及解任並ニ合併及解散ノ決議ハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受クルコトヲ要スルモノトス

第七條 本公司ノ公告ハ日本國官報及滿洲國政府公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

- (註一) 舊定款 一、移住者ニ必要ナル施設及其ノ經營
- 二、移住者ニ必要ナル資金ノ貸付
- 三、移住用土地ノ取得、管理及分譲
- 四、移住者ニ必要ナル事業ノ經營ヲ目的トスル會社又ハ組合ニ對スル出資及金融
- 五、前各號ノ事業ニ附帶スル業務
- (註二) 舊定款 滿洲國幣六千五百萬圓
- (註三) 舊定款 本社ヲ新京ニ支社ヲ東京ニ置ク
- (註四) 舊定款 東京市

第二章 株式

第八條 本公司ノ株式ハ記名式トシ日滿兩國ノ政府、公共團體若ハ國民又ハ兩國ノ法令ノ何レカニ依リ設立シタル法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ兩國ノ國民又ハ法人以外ノ者ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得ルモノトス  
本公司ノ株主ニシテ前項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公社ニ通知シ且三個月以内ニ其ノ所有スル株式ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ要ス若シ其ノ株式ヲ讓渡セザルトキハ本公司ニ株式ヲ提出セシメ公社ハ之ヲ賣却ス賣却ニ依リテ得タル金額ハ賣却費用ヲ控除シ其ノ殘額ヲ交付ス此ノ場合ニ於テハ名義書換停止期間中ト雖モ名義ノ書換ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ株主其ノ株式ヲ讓渡セズ又ハ株式ヲ公社ニ提出セザルトキハ公社ハ該株式ヲ無効トシテ之ヲ公告シ別ニ新株式ヲ發行シ之ニ依リ前項ニ定メタル手續ヲ履行ス

第九條 本公司ノ株式ハ二百六十萬株トシ一株ノ金額ヲ五十圓トス

第十條 本公司ノ株式ハ一、十、五十、一百、一千、一萬株ノ五種トス

第十一條 株主ノ第一回拂込金額ハ一株ニ付十二圓五角トス

第二回以後ノ拂込金額並ニ其ノ拂込期日及方法ハ理事會ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ各株主ニ之ガ通知ヲ爲スベシ

第十二條 株式引受人株主讓渡期間内ニ株主ノ拂込額ヲ爲サザルトキハ本公司ハ二個月以内ニ其ノ拂込額ヲ爲スベキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ其ノ株式引受人ニ通知スルコトヲ得

株式引受人前項ノ通知ニ拘ラズ拂込額ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ本公司ハ其ノ者ガ引受ケタル株式ニ付更ニ株主ヲ募集シ又ハ他ノ株式引受人ニ之ヲ引受ケシムルコトヲ得

第十三條 株主株金拂込期間内ニ株主ノ拂込額ヲ爲サザルトキハ本公司ハ一ヶ月以内ニ其ノ拂込額ヲ爲スベキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲サザルトキハ株主ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ其ノ株主ニ通知シ且其ノ旨ノ公告ヲ爲スコトヲ得

株主前項ノ通知及公告ニ拘ラズ拂込額ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ本公司ハ其ノ旨ヲ公告ス  
前項ノ場合ニ於テハ本公司ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ一ヶ月以内ニ拂込額ヲ爲スベキ旨ノ催告ヲ爲スモノトス此ノ場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金ノ拂込額ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得スルモノトス

讓渡人ガ拂込額ヲ爲サザルトキハ本公司ハ株式ヲ賣却ニ付シ賣價ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザルトキハ從前ノ株主ヲシテ其ノ不足金額ヲ辨濟セシムルモノトス若シ從前ノ株主ガ十四日以内ニ之ヲ辨濟セザルトキハ本公司ハ讓渡人ニ對シテ其ノ辨濟ヲ請求スルモノトス  
前四項ノ規定ハ本公司ガ損害賠償及第十四條ニ定ムル違約金ヲ請求スル權利ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第十四條 株主ガ拂込額ノ期間内ニ株主ノ拂込額ヲ爲サザルトキハ其ノ拂込ムベキ金額ニ對シ拂込期日ノ翌日ヨリ拂込當日迄百圓ニ付一日四分ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收ス

第十五條 本公司ノ株式ハ本公司ノ承認ヲ得ルニ非ズレバ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ

第十六條 株式ノ名義書換ヲ爲サントスル者ハ本公司所定ノ名義書換請求書ニ株式ヲ添ヘ之ヲ本公司ニ提出スベシ但シ本公司ニ於テ必要ト認ムルトキハ該株式ノ取得ヲ證明スベキ書類ノ提出ヲ求ムルコトアルベシ

第十七條 株式ノ種類ノ變更、毀損又ハ汚損ノ爲株式ノ引換ヲ爲サントスル株主ハ本公司所定ノ株式引換請求書ニ株式ヲ添ヘ之ヲ本公司ニ提出スベシ  
株式ヲ亡失シタル株主ハ其ノ事由ヲ詳細ニシタル書面ヲ作成シ本公司ノ適當ト認ムル保證人二名ヲ連署シ以テ本公司ニ新株式交付ノ請求ヲ爲スコトヲ得



前項ノ請求アリタルトキハ本公社ハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ其ノ最終ノ公告ノ日ヨリ六十日以内ニ故障ヲ申出ヅル者ナカリシトキニ限り請求者ニ新株券ヲ交付ス

第十八條 株式名義書換ノ手数料ハ株券一通ニ付二角トシ株券引換及新株券交付ノ手数料ハ新株券一通ニ付五角トス  
新株券交付ニ關シ公告ヲ要スル場合ハ前記手数料ノ外其ノ費用ヲ徴收ス

第十九條 株主又ハ其ノ法定代理人ハ株式取得ノトキ本公社所定ノ書式ニ依リ其ノ氏名、住所及印鑑ヲ本公社ニ届出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ  
日本國又ハ滿洲國領域内ニ住所又ハ居所ヲ有セザル株主ハ右地域内ニ假住所又ハ法定代理人ヲ定メ之ヲ本公社ニ届出ヅベシ

第二十條 本公社ハ毎年六月一日ヨリ定時株主總會終了ノ日迄株式ノ讓渡ニ依ル名義ノ書換ヲ停止ス  
前項ノ場合ヲ除クノ外本公社必要ト認ムルトキハ豫メ其ノ旨ヲ公告シテ名義書換ヲ停止スルコトヲ得

(註一) 舊定款 百三十萬株

(註二) 舊定款 二十五圓

(註三) (註四) 舊定款 設立委員

第三章 株主總會

第二十一條 株主總會ハ定時及臨時ノ二種トシ定時總會ハ毎年六月臨時總會ハ必要ノ都度總裁之ヲ招集ス

第二十二條 總會ノ議事ハ豫メ通知シタル事項ノ外ニ涉ルコトヲ得ズ

第二十三條 總會ノ議長ハ總裁之ニ當ル總裁事故アルトキハ理事ノ一人之ニ代ル

第二十四條 總會ノ議長ハ會議ヲ延期シ又ハ會場ヲ變更スルコトヲ得但シ延期會議ノ議事ハ前會議ニ於テ議了セザリシ事項ノ外ニ涉ルコトヲ得ズ

第二十五條 株主ハ他ノ株主ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本公社ニ委任狀ヲ差出スベシ

第二十六條 總會ノ議長ハ株主トシテ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ妨グズ

第二十六條之二 康徳十一年勅令第百七十六號會社ニ關スル時局特例第七條ノ規定ニ基キ司法部大臣ノ定ムル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ニ依ラス理事會ノ決議ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第二十七條 總會議事ノ要領ハ之ヲ總會議事録ニ記載シ議長ハ總會ニ出席シタル役員ト共ニ之ニ記名捺印スベシ

(註一) 舊定款本條ナシ

第四章 役員

第二十八條 本公社ハ總裁一名、理事六名以内及監事三名以内ヲ置ク

第二十九條 總裁及理事ハ日滿兩國政府之ヲ命ズ

監事ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

監事ハ日滿兩國ノ何レカ一方ノ國民タルコトヲ要ス

第三十條 總裁ハ本公社ヲ代表シ理事會ノ議長ト爲リ且本公社ノ業務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ理事ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ總裁ヲ輔佐シ本公社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ本公社ノ業務ヲ監査ス

第三十一條 總裁ノ任期ハ五年、理事ノ任期ハ四年トス、監事ノ任期ハ三年トス

第三十二條 理事會ハ總裁及理事ヲ以テ組織シ重要ナル社務ヲ決議ス

理事會ハ總裁之ヲ招集シ其ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十三條 總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ日滿兩國政府ノ定ムル所ニ依ル

監事ノ報酬及手當ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 社債

第三十四條 本公社ハ拂込株金額ノ十倍ヲ限リ社債ヲ發行スルコトヲ得

本公社社債ヲ發行セントスル場合ニ於テハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受クルモノトス

前項ノ社債ノ元利金ノ支拂ニ付テハ第一條ニ掲グル協定ニ依リ日滿兩國政府ヨリ連帶ノ保證ヲ受クルモノトス



第六章 計 算

第三十五條 本公司ノ營業年度ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第三十六條 總裁ハ毎營業年度ニ財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及損益處分ニ關スル議案ヲ作成シ監事ノ意見ヲ添ヘ定時株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クベシ

第三十七條 本公司ノ利益金ハ毎營業年度ニ於ケル總收入金額中ヨリ營業諸經費、諸損失及償却金ヲ控除シタル殘額トス

第三十八條 本公司ノ利益金ハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケ左ノ方法ニ依リ之ヲ處分スルモノトス

- 一 法定積立金 利益金ノ百分ノ十以上
- 二 株主配當金
- 三 特別積立金

四 後期繰越金

第三十九條 本公司ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ日滿兩國政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年三分五厘ノ割合ニ連スル迄日滿兩國政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セザルモノトス

第四十條 配當金ハ五月三十一日現在ノ株主名簿ニ依リ株主ニ之ヲ拂渡スモノトス  
新ニ拂込ミタル株金額ニ對シテハ其ノ拂込期日ノ屬スル月ノ翌月ヨリ起算シテ配當金ヲ算出スルモノトス  
配當金ノ拂渡期日及場所ハ總裁之ヲ定メ株主ニ通知スベシ

第七章 附 則

第四十一條 本公司ノ負擔ニ歸スベキ設立費用ハ三萬圓ヲ限度トス

第四十二條 監事ノ報酬及手當ハ第三十三條ノ規定ニ拘ラス創立總會ニ於テモ之ヲ定ムルコトヲ得

第四十三條 本定款ハ日本文及漢文ヲ以テ各一通ヲ作成ス  
日本文ト漢文トノ間ニ解釋ヲ異ニシタルトキハ日本文ニ依リ之ヲ決スルモノトス

第二款 株 主 總 會

株主總會ハ定時及臨時ノ二種トシ定時總會ハ毎年六月、臨時總會ハ必要ノ都度總裁之ヲ召集ス  
株主總會左ノ如シ。  
昭和十九年十一月以降現在迄ニ召集セル

一、定時株主總會

昭和十九年六月三十日第十九回定時株主總會ヲ公社本社ニ於テ開催シ左記事項ヲ決議セリ

(イ) 議案第一號 昭和十八年度營業報告書、財産目録、貸借對照表及損益計算書承認ニ關スル件  
右ハ原案通過承認ス

(ロ) 議案第二號 昭和十八年度損益金處分案承認ニ關スル件  
右ハ原案通過承認ス

(ハ) 議案第三號 定款中一部變更ニ關スル件  
右ハ原案通過承認ス

(註) 第五條 舊定款「東京市」ヲ「東京都」ニ改ム  
第二十六條ノ二挿入

(ニ) 議案第四號 監事長倉親義、上内彦策任期満了ニ伴フ監事選任ニ關スル件  
兩氏ニ代ハリ新ニ島崎靜馬、山澤和二郎ノ兩氏選任セラレ

(ホ) 議案第五號 退職監事ニ對シ慰勞金贈呈ニ關スル件  
右ハ原案通過承認ス

二、臨時株主總會

昭和十九年三月三十一日第十八回臨時株主總會ヲ公社本社ニ於テ開催シ左記事項ヲ決議セリ

(イ) 議案 昭和十九年度資金計畫ニ基ク滿洲拓植公社社債償還六千五百萬圓ノ發行ニ關スル件  
右ハ原案通過承認ス



# 第二章 公社ノ組織及従事員

## 第一節 公社ノ組織

### 一、本社機構

本社ニ總裁室、財務部、開拓部、需品部、工務部及監察役ヲ置ク。

(イ) 總裁室ニハ文書、人事ノ二課ヲ置キ、庶務、文書、人事及其他部ノ主管ニ屬セサル事項ヲ管掌ス。

(ロ) 財務部ハ公社ノ財政部門ヲ統括スル箇所トシテ經理、金融、土地ノ三課ヲ置キ經理課ハ公社全般ノ經理ヲ管掌ス、金融課ハ開拓民ニ對スル貸付及之

ニ伴フ回收ノ業務ヲ主管シ土地課ハ土地ノ取得、管理及處分等ノ業務ヲ處理ス。

(ハ) 開拓部ハ開拓民ノ助成輔導ニ關スル綜合的調査企畫ヲ行フ箇所トシテ第一及第二ノ二課ヲ置キ、第一課ハ日本内地人開拓民ニ付テ、第二課ハ朝鮮人

開拓民ニ付テノ主管箇所ナリ。

(ニ) 需品部ハ需品業務ノ綜合的企畫統制箇所トシテ監理、資材ノ二課ヲ置ク。

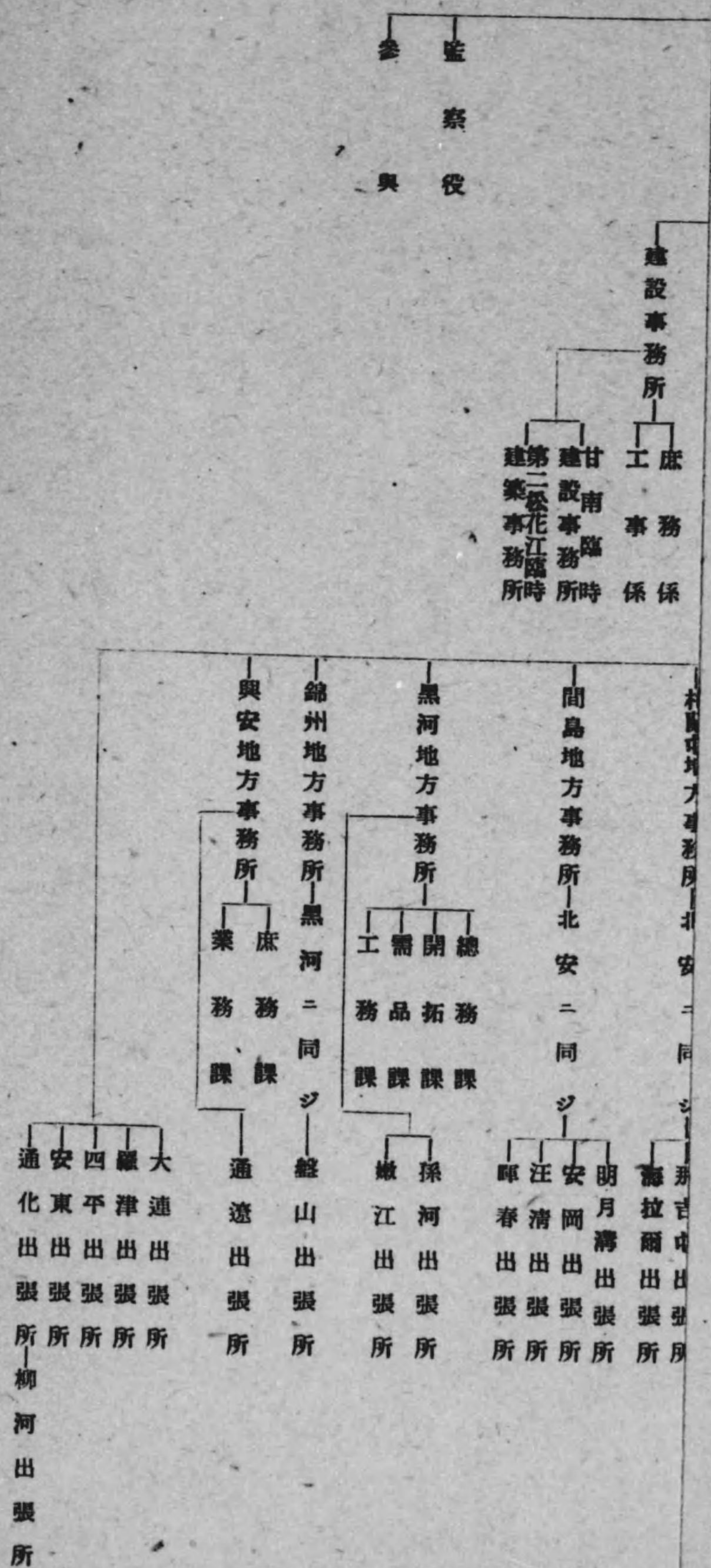
(ホ) 工務部ハ拓地、建築、開墾等ノ業務ヲ管掌シ業務及技術ノ二課ヲ置ク。

(ヘ) 監察役ハ公社業務ノ監察ニ當ル。

### 二、地方機構

一、支社 東京都ニ東京支社、京城府ニ京城支社ヲ置ク。

支社ハ日本内地及朝鮮ニ於ケル官廳其ノ他開拓關係諸機關トノ業務連絡ニ當リ、又資金資材ノ調達、資金計畫及決算ノ認可、或ハ開拓民ノ送出等ニ關シ關係諸機關トノ折衝、本社トノ連絡等、重要ナル業務ヲ處理ス。









二、地方事務所 地方事務所ハ別紙公社機構一覽表ノ示ス如ク全滿樞要ノ地十三箇所ニ設置シアリ。

次ノ總務、開拓、土地、需品、工務ノ五課ヲ置ク。

(イ) 總務課ハ庶務、文書、人事ニ關スル事項及所内ノ豫、決算、社用財産ノ取得及管理並ニ開拓民ニ對スル金融業務ヲ擔當ス。

(ロ) 開拓課ハ開拓團及開拓協同組合ニ對スル綜合的助成輔導ニ關スル業務ヲ擔當ス。

(ハ) 土地課ハ土地ノ取得、管理、利用、處分ニ關スル業務ヲ擔當ス。

(ニ) 需品課ハ管内ニ於ケル所要物資ノ需給調査及計畫ニ基キ本社トノ緊密ナル連絡ノ下ニ物資ノ取得、保管及配給ニ關スル業務ヲ行フ。

(ホ) 工務課ハ開拓地ニ於ケル拓地、建築工事ノ設計並ニ之ガ施工ニ關スル業務ヲ分掌ス。

三、出張所 出張所ハ縣公署ノ所在地六十ヶ所ニ設置シアリ、現地ニ於ケル公社業務執行ノ綜合的機關トシテ開拓團ニ即接シ、常ニ開拓團ト一體トナリ其ノ輔導助成ニ當ル。

### 公 社 職 制

第一條 總裁ハ公社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

第二條 理事ハ總裁ヲ輔佐シ公社ノ業務ヲ分掌ス

總裁事故アルトキハ理事ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

第三條 本社ニ總裁室、財務部、開拓部、需品部、工務部及監察役ヲ置ク

第四條 總裁室ハ庶務、文書、人事及其他部ノ主管ニ屬セサル事項ヲ管掌ス

第五條 財務部ハ經理、金融及土地ニ關スル事項ヲ管掌ス

第六條 開拓部ハ開拓民ノ助成輔導ニ關スル事項ヲ管掌ス

第七條 需品部ハ物資ノ取得、保管及配給ニ關スル事項ヲ管掌ス

第八條 工務部ハ拓地及建築ニ關スル事項ヲ管掌ス

第九條 監察役ハ業務ノ監察ニ關スル事項ヲ管掌ス



監事役ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 部長ヲ置キ必要ニヨリ副部長ヲ置ク

部長ハ總裁ノ命ヲ承ケ其ノ所管事項ヲ掌理ス

副部長ハ部長ヲ輔佐シ部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 東京都及京城府ニ支社ヲ置ク

東京支社ハ日本内地ニ於ケル業務ヲ、京城支社ハ朝鮮ニ於ケル業務ヲ夫々掌理ス

支社ニ支社長ヲ置キ必要ニヨリ次長ヲ置ク

支社長ハ總裁ノ命ヲ承ケ其ノ所管事項ヲ管理ス

次長ハ支社長ヲ輔佐シ支社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 業務上重要ノ地ニ地方事務所ヲ置ク

地方事務所ハ其ノ管轄地域内ニ於ケル業務ヲ掌理ス

地方事務所ノ名稱、位置及管轄地域ハ別ニ之ヲ定ム

地方事務所ニ所長ヲ置キ必要ニヨリ次長ヲ置ク

所長ハ總裁ノ命ヲ承ケ其ノ所管事項ヲ掌理ス

次長ハ所長ヲ輔佐シ所長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十三條 業務上必要ノ地ニ出張所ヲ置ク

出張所ハ本社、支社又ハ地方事務所ニ隸屬シ其ノ管轄區域内ニ於ケル業務ヲ掌理ス

出張所ノ名稱、位置及管轄區域ハ別ニ之ヲ定ム

出張所ニ出張所長ヲ置ク

出張所長ハ上司ノ命ヲ承ケ其ノ所管業務ヲ處理ス

第十四條 本社總裁室、各部、支社及地方事務所ニ課ヲ置ク

課ノ名稱及分掌事務ハ別ニ之ヲ定ム

課ニ課長ヲ置キ必要ニヨリ副課長ヲ置ク

課長ハ上司ノ命ヲ承ケ其ノ所管業務ヲ處理ス

副課長ハ課長ヲ輔佐シ課長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十五條 本社ニ參與ヲ置クコトヲ得

參與ハ重要ナル業務ノ審議ニ參與ス

第十六條 本社總裁室及各部ニ調査役ヲ置クコトヲ得

調査役ハ特ニ命セラレタル事項ノ調査研究ヲ掌ル

### 公 社 分 課 規 程

第一條 總裁室ニ文書課及人事課ヲ置ク

第二條 文書課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

一 社印及役員印ノ保管

二 職制及其ノ他社規

三 株式及法律手續

四 文 書

五 役員會議其ノ他重要會議

六 官廳其ノ他諸機關トノ連絡及一般渉外

七 業務ノ綜合調査及計畫

八 業務ノ連絡調査



- 九 資料及弘報
- 十 役員秘書
- 十一 防諜及防衛
- 十二 庶務
- 十三 他部課ノ主管ニ屬セサル事項
- 第三條 人事課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル
  - 一 社員ノ任免
  - 二 定員
  - 三 服務及考課
  - 四 待遇及給與
  - 五 養成及訓練
  - 六 共濟其ノ他福祉
  - 七 社員ノ兵事
  - 八 協和會分會事務
- 第四條 財務部ニ經理課、金融課及土地課ヲ置ク
- 第五條 經理課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル
  - 一 資金計畫
  - 二 豫算及決算
  - 三 社債及借入金
  - 四 本社經理

- 五 開拓ニ必要ナル事業ニ對スル出資及金融
- 六 金錢及有價證券ノ出納保管
- 七 社用財産ノ取得及管理
- 八 物品ノ出納保管
- 第六條 金融課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル
  - 一 開拓民ニ對スル資金ノ貸付及回收
  - 二 開拓民ノ經理事務指導及監査
- 第七條 土地課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル
  - 一 土地ノ取得、管理及處分
  - 二 地籍
- 第八條 開拓部ニ第一課及第二課ヲ置ク
- 第九條 第一課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル
  - 一 開拓地ノ一般調査及統計
  - 二 日本内地人開拓民ニ關スル調査
  - 三 日本内地人開拓民ノ營農計畫
  - 四 日本内地人開拓民ノ助成輔導
- 第十條 第二課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル
  - 一 朝鮮人開拓民ニ關スル調査
  - 二 朝鮮人開拓民ノ營農計畫
  - 三 朝鮮人開拓民ノ助成輔導



四 在滿朝鮮人ノ自作農制定

第十一條 需品部ニ監理課及資材課ヲ置ク

第十二條 監理課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

一 需品業務ノ計畫及監理

二 需品勘定ノ計算

第十三條 資材課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

一 物動計畫

二 建設資材、營農資材及生計資材ノ取得並配給

第十四條 工務部ニ業務課及技術課ヲ置ク

第十五條 業務課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

一 工事業務ノ計畫及監理

二 工事資材ノ需給計畫

三 勞務

四 工務勘定ノ計算

第十六條 技術課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

一 拓地、建築、農地配分及開墾

第十七條 東京支社ニ庶務課及經理課ヲ置ク

第十八條 庶務課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

一 職印ノ保管

二 庶務、文書及人事

三 官廳其ノ他諸機關トノ連絡

四 調査及弘報

五 他課ノ主管ニ屬セサル事項

一 豫算及決算

二 資金調達ノ連絡

三 資金計畫及決算ノ認可ニ關スル連絡

四 金錢及有價證券ノ出納保管

五 社用財産ノ取得及管理

六 物品ノ出納保管

七 物資ノ取得

第二十條 京城支社ニ庶務課及業務課ヲ置ク

第二十一條 庶務課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

一 職印ノ保管

二 庶務、文書及人事

三 豫算及決算

四 金錢及有價證券ノ出納保管

五 社用財産ノ取得及管理

六 物品ノ出納保管

七 他課ノ主管ニ屬セサル事項



第二十二條 業務課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

- 一 官廳其ノ他諸機關トノ連絡
- 二 調査及弘報
- 三 物資ノ取得

第二十三條 地方事務所ニ總務課、開拓課、土地課、需品課及工務課ヲ置ク但別ニ定ムル地方事務所ニ付キテハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 總務課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

- 一 職印ノ保管
- 二 庶務、文書及人事
- 三 豫算及決算
- 四 金錢、有價證券及物品ノ出納保管
- 五 社用財産ノ取得及管理
- 六 開拓民ニ對スル金融、經理事務指導及監査
- 七 他課ノ主管ニ屬セザル事項

第二十五條 開拓課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

- 一 開拓地ノ調査
- 二 開拓民ニ對スル助成輔導
- 三 開拓地生産物ノ販賣斡旋
- 四 開拓民ノ福祉
- 五 在滿朝鮮人ノ自作農創定

第二十六條 土地課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

- 一 土地ノ取得、管理及處分

二 地籍

第二十七條 需品課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

- 一 管内所要物資ノ需給調査及計畫
- 二 物資ノ取得、保管及配給
- 三 需品勘定ノ計算

第二十八條 工務課ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

- 一 管内工事ノ資材及勞務
- 二 拓地、建築、農地配分及開墾
- 三 工務勘定ノ計算

第二十九條 出張所ハ左ニ關スル事項ヲ掌ル

- 一 開拓民ニ對スル助成輔導
- 二 開拓民ノ福祉
- 三 開拓民ニ對スル資金ノ貸付及回收
- 四 開拓民ニ對スル物資ノ斡旋
- 五 開拓地生産物ノ販賣斡旋
- 六 土地ノ管理
- 七 小作營農資金ノ貸付及回收
- 八 管理地生産物ノ處分



第二節 役員及社員

第一款 役員

役員	氏名	任期	就任年月日	満期年月日
總裁	齋藤 彌平太	五年	昭和十九年八月一日	昭和二十四年七月三十一日
理事	堀 永市	四年	昭和十六年六月一日	昭和二十年五月三十一日
同	孫 永穆	同	昭和十六年六月一日	昭和二十年五月三十一日
同	楊 玉書	同	昭和十九年四月一日	昭和二十三年三月三十一日
同	宗 光彦	同	昭和十七年九月十四日	昭和二十一年九月十三日
同	富 櫻久吉	同	昭和十七年十月十五日	昭和二十一年十月十四日
同	加 藤 久男	同	昭和十八年十二月一日	昭和二十二年十一月三十日
同	篠 藤 久男	同	昭和十八年九月一日	昭和二十一年八月三十一日
同	島 崎 謙馬	同	昭和十九年七月一日	昭和二十二年六月三十日
同	山澤 和三郎	同	昭和十九年七月一日	昭和二十二年六月三十日
監事		三年		
同				
同				

第二款 社員

一、公社々員制 (昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ實施ス)  
 (康徳九年四月一日ヨリ之ヲ實施ス)  
 第一條 公社ニ左ノ社員ヲ置ク

参事  
 副参事  
 主事  
 主事補  
 事務員  
 備員

第二條 参事ハ月俸貳百圓以上ノ社員中ヨリ之ヲ命ス  
 第三條 副参事ハ月俸百五十圓以上ノ社員中ヨリ之ヲ命ス  
 第四條 主事ハ月俸百圓以上ノ社員中ヨリ之ヲ命ス  
 第五條 主事補ハ月俸六十圓以上ノ社員中ヨリ之ヲ命ス  
 第六條 事務員ハ月俸社員トス  
 第七條 備員ハ日給社員トス

二、定員制

(一) 定員 常ニ事業量ノ増加ニ伴フ適正ナル人員ノ配置整備ヲ期センガ爲昭和十六年(康徳八年)六月一日定員制ヲ實施ス  
 定員規程  
 第一條 定員ハ参事、副参事、主事、主事補、事務員及備員ニ付之ヲ設定ス  
 第二條 定員ノ設定及變更ハ總裁之ヲ定ム  
 第三條 定員設定單位箇所及定員ハ別ニ之ヲ定ム  
 第四條 定員ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ一箇年度トシ年度毎ニ之ヲ定ム  
 第五條 臨時業務ニ付テハ必要ニ應ジ其ノ業務ノ繼續期間中別ニ臨時定員ヲ設定ス



第六條 左ノ各號ニ該当スル者ハ當該箇所ノ定員外トス

- 一 非役又ハ待命ヲ命ゼラレタル者
- 一 入社後滿六箇月ヲ經過セザル定期採用者
- 一 其ノ他特ニ定メタル者

(二) 昭和十九年度(康徳十一年度)ノ定員及現在員一覽表

定員	參事	副參事	主事	主事補	事務員	備員	計
四七名	一七八名	七二七名	一、二四七名	一、四七三名	六二八名	四、三〇〇名	
四二名	一五二名	五四八名	一、〇四二名	一、六三三名	三六六名	三、七七三名	
現在員							

備考 一、現在員數ハ昭和十九年十月十日現在ノ調査ナリ  
 二、職死者數ハ各資格別ニ加入ス  
 三、非役者ハ右表ニ算入セズ 非役社員總數ハ約千名ナリ

第三款 社員ノ給與

- 一、社員ニ對シ俸給及給料ノ支給ハ俸給給料支給規程ヲ制定シ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行シアリ。
- 二、社員ニ對シ本俸以外給與スベキモノ左ノ如シ。
  - 勤務地手當 勤務地手當支給規程ニ依リ勤務地ヲ生活環境ニ應ジ三十五級地ニ別ケ所定ノ率ニ依リ支給ス
  - 住宅手當 住宅手當支給規程ニ依リ住宅ノ貸與ヲ受ケサル社員ニ對シ所定ノ率ニ依リ支給ス
  - 家族手當 家族手當支給規程ニヨリ扶養家族ヲ有スル社員ニ對シ支給ス
  - 家族別居手當 家族別居手當支給規程ニ依リ社員家族ト別居シ生計ヲ異ニスルトキ支給ス
- 尙其ノ他旅費規程、社員職務傷病死亡給與規程、時間外執務及當直手當支給規程、語學獎勵手當支給規程等ヲ實施シスリ。

第四款 社員ノ練成及厚生福祉

- 一、練成 社員ヲシテ公社ノ使命タル開拓協和ノ聖業ヲ實踐セシムル爲必要ナル精神教育及實務訓練ヲ施シ以テ其ノ人格向上ヲ圖ルト共ニ堅實優秀ナル社員ヲ養成スル目的ヲ以テ社員服務關係規程ト相俟ツテ特ニ社員練成規程ヲ制定シ昭和十八年(康徳十年)四月一日ヨリ實施シアリ、又紀元二千六百年記念事業トシテ新京特別市郊外ニ社員鍛鍊農場ヲ開設シ社員ノ心身鍛鍊及技術訓練ニ資シアリ
- 二、厚生福祉 社員及其家族ノ厚生福祉施設等ニ關シテハ社宅、獨身寮、健康相談所等ヲ公社事務所所在地ニ充實セシメ、社員文庫ノ制度ヲ設ケテ趣味教養ニ資スルト共ニ、又社員ハ其ノ身分ヲ取得シタル日ヨリ共濟ニ加入セシメ醫療、扶助、弔慰、罹災、分挽等ニ共濟金ヲ給付シアリ



# 第三章 公社ノ資本金

## 第一節 資本及株式

- 一 資本總額 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第二條及定款第三條  
 「本公司ノ資本ハ滿洲國幣壹億參千萬圓トス但シ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増減スルコトヲ得」(康德十年四月三十日改正認可)
- 二 株主ノ資格 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第三條及定款第八條  
 「公社(本公司)ノ株式ハ記名式トシ日滿兩國ノ政府、公共團體若ハ國民又ハ兩國ノ法令ノ何レカニ依リ成立シタル法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ兩國ノ國民又ハ法人以外ノ者ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得」
- 三 株式ノ種類 滿洲拓植公社定款第九條及第十條  
 「本公司ノ株式ハ二百六十萬株トシ一株ノ金額ヲ五十圓トス」(康德十年四月三十日改正認可)  
 「本公司ノ株券ハ一株券、十株券、一百株券、一千株券及一萬株券ノ五種トス」
- 四 資本増加ノ特典 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第二條第二項及定款第四條  
 「公社ハ株金金額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得」

### 五 公社株主名簿

住 所	氏 名	所有株數	券 面 額	拂 込 濟 金
新京特別市順天大街	經 濟 部 大 臣	二九、九〇〇株	一四、九五〇圓	一四、九五〇圓
		六五、〇〇〇株	三二、五〇〇圓	一六、二五〇圓
東 京 都	大 日 本 帝 國 大 藏 大 臣	三〇、〇〇〇株	一五、〇〇〇圓	一五、〇〇〇圓
大連市東公園町參拾番地	南滿洲鐵道株式會社	一九、九〇〇株	九、九九五圓	九、九九五圓
京 府	朝 鮮 總 裁 小 日 山 直 登	一五、〇〇〇株	七、五〇〇圓	七、五〇〇圓
東 京 都 池 田 町 幸 町 壹 丁 目 貳 番 地 貳	東 洋 拓 殖 株 式 會 社	七、四八九〇株	三、七四〇圓	三、七四〇圓
東 京 都 日 本 橋 區 室 町 貳 丁 目 壹 番 地 壹	株 式 會 社 三 井 本 社	四、九〇〇株	二、四九五圓	二、四九五圓
東 京 都 池 田 町 區 九 丁 目 貳 丁 目 四 番 地	株 式 會 社 三 井 本 社 代 表 取 締 役 小 池 正 彪	四、九〇〇株	二、四九五圓	二、四九五圓
大 阪 市 東 區 北 濱 五 丁 目 貳 拾 貳 番 地	株 式 會 社 三 井 本 社 代 表 取 締 役 岩 崎 小 彌 太	二、四九〇〇株	一、二四五圓	一、二四五圓
奉 天 市 大 東 關 華 家 胡 同	株 式 會 社 住 友 本 社 代 表 取 締 役 古 田 俊 之 助	二〇〇株	一〇、〇〇〇圓	一〇、〇〇〇圓
大 連 市 東 公 園 町 參 拾 番 地	南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社 裁 小 日 山 直 登	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社	南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社 裁 小 日 山 直 登	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
京 誠 府 廣 金 町 貳 丁 目 百 九 拾 五 番 地	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 朝 鮮 支 社	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
東 洋 拓 殖 株 式 會 社 朝 鮮 支 社	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 朝 鮮 支 社	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 大 同 大 街 貳 零 零 號	三 井 物 産 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
三 井 物 産 株 式 會 社 新 京 支 店	三 井 物 産 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 東 朝 陽 路 五 零 壹 號	新 京 特 別 市 東 朝 陽 路 五 零 壹 號	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 大 同 大 街 參 零 零 號	株 式 會 社 住 友 本 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
株 式 會 社 住 友 本 社 新 京 支 店	株 式 會 社 住 友 本 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 大 同 大 街 四 零 零 號	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
東 洋 拓 殖 株 式 會 社 新 京 支 店	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
計		右計 二、六〇〇、〇〇〇株	一、三〇〇、〇〇〇圓	九七、五〇〇圓

(昭和十九年六月三十日現在)  
(康德十一年六月三十日現在)

### 六 日滿兩國政府出資金ニ關スル取扱

- (1) 日本政府ノ一千五百萬圓出資ニ關スル勅令昭和十二年三月三十日公布豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件。

(註) 本表中(増一)印ハ第一回増資、(増二)印ハ第二回増資ノ各新株ヲ示ス

住 所	氏 名	所有株數	券 面 額	拂 込 濟 金
東 京 都	大 日 本 帝 國 大 藏 大 臣	三〇、〇〇〇株	一五、〇〇〇圓	一五、〇〇〇圓
大連市東公園町參拾番地	南滿洲鐵道株式會社	一九、九〇〇株	九、九九五圓	九、九九五圓
京 府	朝 鮮 總 裁 小 日 山 直 登	一五、〇〇〇株	七、五〇〇圓	七、五〇〇圓
東 京 都 池 田 町 幸 町 壹 丁 目 貳 番 地 貳	東 洋 拓 殖 株 式 會 社	七、四八九〇株	三、七四〇圓	三、七四〇圓
東 京 都 日 本 橋 區 室 町 貳 丁 目 壹 番 地 壹	株 式 會 社 三 井 本 社	四、九〇〇株	二、四九五圓	二、四九五圓
東 京 都 池 田 町 區 九 丁 目 貳 丁 目 四 番 地	株 式 會 社 三 井 本 社 代 表 取 締 役 小 池 正 彪	四、九〇〇株	二、四九五圓	二、四九五圓
大 阪 市 東 區 北 濱 五 丁 目 貳 拾 貳 番 地	株 式 會 社 三 井 本 社 代 表 取 締 役 岩 崎 小 彌 太	二、四九〇〇株	一、二四五圓	一、二四五圓
奉 天 市 大 東 關 華 家 胡 同	株 式 會 社 住 友 本 社 代 表 取 締 役 古 田 俊 之 助	二〇〇株	一〇、〇〇〇圓	一〇、〇〇〇圓
大 連 市 東 公 園 町 參 拾 番 地	南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社 裁 小 日 山 直 登	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社	南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社 裁 小 日 山 直 登	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
京 誠 府 廣 金 町 貳 丁 目 百 九 拾 五 番 地	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 朝 鮮 支 社	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
東 洋 拓 殖 株 式 會 社 朝 鮮 支 社	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 朝 鮮 支 社	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 大 同 大 街 貳 零 零 號	三 井 物 産 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
三 井 物 産 株 式 會 社 新 京 支 店	三 井 物 産 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 東 朝 陽 路 五 零 壹 號	新 京 特 別 市 東 朝 陽 路 五 零 壹 號	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 大 同 大 街 參 零 零 號	株 式 會 社 住 友 本 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
株 式 會 社 住 友 本 社 新 京 支 店	株 式 會 社 住 友 本 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
新 京 特 別 市 大 同 大 街 四 零 零 號	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
東 洋 拓 殖 株 式 會 社 新 京 支 店	東 洋 拓 殖 株 式 會 社 新 京 支 店	一〇〇株	五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓
計		右計 二、六〇〇、〇〇〇株	一、三〇〇、〇〇〇圓	九七、五〇〇圓



一般會計  
拓務省所管

滿洲拓植公社出資金

政府ハ日本人ノ滿洲國ニ於ケル移住助成ノ事業ヲ經營スルコトヲ目的トシテ設立セラル、會社ニ對スル出資金トシテ總額千五百萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結ブコトヲ得

昭和十二年度  
昭和十三年度  
昭和十四年度

計

九、〇〇〇、〇〇〇圓  
一、〇〇〇、〇〇〇圓  
五、〇〇〇、〇〇〇圓  
一五、〇〇〇、〇〇〇圓

(ハ)(ロ)

滿洲國政府ノ一千五百萬圓出資ニ關スル取扱  
滿洲國政府ハ當該年度ノ投資特別會計中ヨリ出資ヲ爲セリ  
昭和十六年度増資一千五百萬圓出資ニ關スル取扱

(1) 朝鮮總督府  
(2) 滿洲國政府

計

七、五〇〇、〇〇〇圓  
七、五〇〇、〇〇〇圓  
一五、〇〇〇、〇〇〇圓

(ニ)

昭和十八年度増資六千五百萬圓出資ニ關スル取扱

(1) 大日本帝國政府  
(2) 滿洲國政府

計

三二一、五〇〇、〇〇〇圓  
三二一、五〇〇、〇〇〇圓  
六五、〇〇〇、〇〇〇圓

第二節 株式拂込ノ經緯

第一款 滿洲拓植株式會社財產引繼ノ經緯

滿洲拓植株式會社營業財產引繼方法ニ關シテハ數次ニ互ル滿洲拓植公社設立委員會ノ協議ニ依リ左ノ如ク要項ノ決定ヲ見タリ。

一、滿洲拓植公社ハ康德四年八月三十一日現在ニ於ケル滿洲拓植株式會社ノ營業財產ノ全部ヲ其ノ儘買收スルモノトス  
前項買收價格ハ滿洲國幣壹千五百萬圓也トシ九月三十日之カ支拂ヲ爲スモノトス

二、引繼ノ方法ハ書面ニ依リ實施スルモノトシ滿洲拓植株式會社ハ引繼ニ必要ナル一切ノ手續ヲ爲スモノトス

滿洲拓植株式會社ハ速ニ貸借對照表、財産目錄及諸勘定明細書ヲ滿洲拓植公社ニ引渡スモノトス

三、引繼ニ要スル費用並ニ滿洲拓植株式會社ノ清算ニ要スル費用ハ滿洲拓植公社之ヲ負擔スルモノトス

四、滿洲拓植株式會社ノ從業員ハ滿洲拓植公社ニ於テ之ヲ引繼グモノトス

五、本契約ハ滿洲拓植公社ノ創立總會及滿洲拓植株式會社ノ株主總會ノ承認ヲ以テ效力ヲ發生スルモノトス

第二款 株式ノ拂込

一、第一回株式拂込ノ方法 公社ニ對スル第一回株式拂込ノ方法ハ當初「滿洲拓植株式會社」株式ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルモノトセルモ司法當局ヨリ「會社ノ現物出資ハ永久ニ財産トシテ所有シ得ル如キモノヲ以テ之ヲ爲スハ差支無キモ直チニ解散セラル、會社ノ株式ヲ以テスルガ如キハ同意シ難シ」トノ意見アリ、從而總テ現金出資ヲ爲スコト、セリ。

二、創立費 公社ノ負擔ニ歸スベキ創立費豫算ハ貳萬圓タリシトコロ昭和十二年(康德四年)八月二十六日現在決算ノ結果支出濟額ハ參千八百六拾圓五拾八錢ニシテ豫算殘額壹萬六千壹百參拾九圓四拾貳錢ヲ生ジタリ。

三、第一回株式拂込 第一回株式拂込ノ通知狀ハ昭和十二年(康德四年)八月二十八日各株主ニ發送シ同年八月三十一日一株ニ付參拾圓ノ拂込ヲ完了セリ。

四、第二回株式ノ拂込 第一回拂込完了セルヲ以テ昭和十二年(康德四年)八月三十一日創立總會ヲ開催シ爰ニ滿洲拓植公社ハ成立シ昭和十三年(康德五年)四月十二日第二回株式拂込ノ通知狀ヲ各株主ニ發送シ同年五月十七日一株ニ付參圓參角ノ拂込ヲ完了セリ。



五、第三回株式拂込 昭和十四年（康德六年）四月七日第三回株式拂込ノ通知狀ヲ各株主ニ發送シ同年四月二十五日一株ニ付拾六圓七角ノ拂込ヲ完了セリ。

六、第一回増資株式ノ拂込

第一回株式ノ拂込 昭和十六年（康德八年）四月二十八日増資壹千五百萬圓ニ對スル第一回株式拂込ノ通知狀ヲ各株主ニ發送シ同年五月六日一株ニ付貳拾五圓總額七百五十拾萬圓ノ拂込ヲ完了セリ。

第二回株式ノ拂込 昭和十七年（康德九年）四月二十三日増資壹千五百萬圓ニ對スル第二回株式拂込ノ通知狀ヲ各株主ニ發送シ同年六月五日一株ニ付貳拾五圓總額七百五十拾萬圓ノ拂込ヲ完了セリ。

七、第二回増資株式ノ拂込

第一回株式ノ拂込 昭和十八年（康德十年）五月三日増資六千五百萬圓ニ對スル第一回株式拂込ノ通知狀ヲ各株主ニ發送シ同年五月十三日一株ニ付拾貳圓五角總額壹千六百貳拾五萬圓ノ拂込ヲ完了セリ。

第二回株式ノ拂込 昭和十九年（康德十一年）四月十四日増資六千五百萬圓ニ對スル第二回株式拂込ノ通知狀ヲ各株主ニ發送シ同年五月十五日一株ニ付拾貳圓五角總額壹千六百貳拾五萬圓ノ拂込ヲ完了セリ。

# 第四章 公社ノ社債

## 第一節 社債ノ現況

（昭和十九年十月末日現在）

回次	發行總額	發行年月	十月末日未償還額	發行價格	年利率	償還期間	償還方法及期限	引受手数料	利發行	應募者
第一回	三〇、〇〇〇千圓	昭和五、三、一一、一〇〇	二九、一〇〇千圓	九九、二五	四分貳厘	昭和五、三、一一、一〇〇	其三ノ一以上ノ後毎半年二百分置	一、二五	四分	四、四六一
第二回	一五、〇〇〇	昭和六、四、三三、〇〇	一四、六二五	九九、二五	四分貳厘	昭和六、四、三三、〇〇	同	一、二五	四分	四、四六一
第三回	二五、〇〇〇	昭和六、六、六六、五五	二四、五〇〇	九九、二五	四分貳厘	昭和六、六、六六、五五	同	一、二五	四分	四、四六一
第四回	一八、〇〇〇	昭和六、九、九二、五五	一七、六四〇	九九、五〇	四分貳厘	昭和六、九、九二、五五	同	一、二五	四分	四、四六一
第五回	一五、〇〇〇	昭和六、四、二二、〇〇	一四、七七五	九九、五〇	四分貳厘	昭和六、四、二二、〇〇	同	一、〇〇	四分	四、三九五
第六回	二〇、〇〇〇	昭和七、五、二二、九〇	一九、八〇〇	九九、三六	四分貳厘	昭和七、五、二二、九〇	同	一、二五	四分	四、五八九
第七回	一〇、〇〇〇	昭和七、五、二二、一一	九、九五〇	九九、五〇	四分貳厘	昭和七、五、二二、一一	同	一、〇〇	四分	四、三九五
第八回	二〇、〇〇〇	昭和八、六、二二、五五	一九、九〇〇	九九、五〇	四分貳厘	昭和八、六、二二、五五	同	一、一五	四分	四、四一五











昭和十二年三月三十日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

拓務省所管

滿洲拓植會社社債元利保證

政府ハ日本人ノ滿洲國ニ於ケル移住助成ノ事業ヲ經營スルコトヲ目的トシテ設立セラルル會社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債ノ元利支拂ニ付左記條件ニ依リ之ガ保證ヲ爲スコトヲ得

- 一、社債ノ元利支拂保證ヲ爲スベキ會社ハ日滿兩國政府ノ出資アルモノニ限ルコト
- 一、社債ノ元利支拂保證ハ日滿兩國政府ノ連帶トスルコト
- 一、政府ニ於テ保證スル社債ノ償還期限ハ起債ノ年ヨリ三十箇年以内ナルコト
- 一、政府ニ於テ保證スル社債金額ハ借換ノ場合ヲ除クノ外其ノ都度帝國議會ノ協賛ヲ經ルコト但シ政府ニ於テ保證スル社債ノ總額ハ貳億壹千萬圓ヲ超過セザルコト

昭和十三年三月二十九日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

拓務省所管

滿洲拓植公社社債元利保證

滿洲拓植會社社債元利保證ノ名稱ヲ改メ滿洲拓植公社社債元利保證トシ同社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債額面四千五百萬圓ヲ限リ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

昭和十四年三月十六日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

拓務省所管

滿洲拓植公社社債元利保證

政府ハ滿洲拓植公社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債ニ對シ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外更ニ社債額面壹億壹千萬圓ヲ限リ其ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

(ロ) 貳億壹千萬圓ニ關スル滿洲國政府ノ保證勅令

康德五年七月二十一日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社社債元利保證

政府ハ滿洲拓植公社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債ノ元利支拂ニ付左記條件ニ依リ之ガ保證ヲ爲スコトヲ得

- 一、社債ノ元利支拂保證ハ日滿兩國政府ノ連帶トスルコト
- 一、政府ニ於テ保證スル社債ノ償還期限ハ起債ノ年ヨリ三十箇年以内ナルコト
- 一、政府ニ於テ保證スル社債ノ總額ハ貳億壹千萬圓ヲ超過セザルコトトシ康德五年度ニ於テハ社債額面四千五百萬圓ノ範圍内トスルコト

一、康德六年度以降發行スル社債額面ノ保證ニ付テハ其ノ都度本件ト同一手續ヲ以テ定ムルコト  
康德六年二月十六日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管



滿洲拓植公社第二回社債元利金償還保證費

滿洲拓植公社ノ發行スル第二回社債日本通貨壹千五百萬圓ノ元金ノ償還並ニ利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康徳六年度ニ於テ結ブコトヲ得

康徳六年五月十三日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社第三回社債元利金償還保證費

滿洲拓植公社ノ發行スル第三回以降社債壹億壹千萬圓ノ元金ノ償還並ニ利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康徳六年度ニ於テ結ブコトヲ得  
(ハ) 貳億七千五百萬圓ニ關スル日本政府ノ保證勅令

昭和十五年三月二十九日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

拓務省所管

滿洲拓植公社社債元利保證

滿洲拓植公社社債元利保證ニ關シ第七十回帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ條件第四項中「貳億壹千萬圓」トアルヲ「貳億七千五百萬圓」ニ改メ同社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債ニ對シ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外更ニ社債額面壹億貳千萬圓ヲ限リ其ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

(ニ) 貳億七千五百萬圓ニ關スル滿洲國政府ノ保證勅令

康徳七年五月九日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社社債元利償還保證費

滿洲拓植公社社債元利保證ニ關スル康徳五年七月二十一日公布ノ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件第三號中「貳億壹千萬圓」ヲ「貳億七千五百萬圓」ニ改メ該公社ノ發行スル社債ニ對シ現ニ政府ガ保證ヲナスモノノ外更ニ社債額面壹億貳千萬圓ヲ限リ其ノ元金ノ償還及利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康徳七年度ニ於テ結ブコトヲ得  
康徳八年二月十七日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社社債元利償還保證費

滿洲拓植公社ガ康徳八年度ニ於テ發行スル社債ニ對シ其ノ發行條件ニ從ヒ國幣四千五百萬圓ヲ限リ其ノ元金ノ償還及利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康徳八年度ニ於テ結ブコトヲ得

(ホ) 四億三千四百萬圓ニ關スル日本政府ノ保證勅令

昭和十六年三月五日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

拓務省所管

滿洲拓植公社社債元利保證

滿洲拓植公社社債元利保證ニ關シ是ニ帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ條件第四項中



「貳億七千五百萬圓」トアルヲ「參億九千八拾萬圓」ニ改メ同社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債ニ對シ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外更ニ社債額面壹億壹千五百八拾萬圓ヲ限リ其ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

六〇

特別會計

拓務省所管

朝鮮總督府

滿洲拓植公社債元利保證

政府ハ滿洲拓植公社ヲ滿鮮拓植株式會社ヲ買收スルコトニ因リ鮮滿拓殖株式會社ノ社債及借入金ニ替ヘ發行スル社債ニ對シ左記條件ニ依リ其ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

一、政府ニ於テ保證スル社債ハ額面四千參百貳拾萬圓ヲ限度トスルコト

二、政府ニ於テ保證スル社債ノ償還期限ハ起債ノ年ヨリ三十箇年以内ナルコト

(ハ) 四億三千四百萬圓ニ關スル滿洲國政府ノ保證勅令

康德八年三月三十一日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社債元利償還保證費

滿洲拓植公社債元利保證ニ關スル康德七年五月九日公布ノ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件中該公社ニ對スル保證限度「貳億七千五百萬圓」ヲ「四億參千五百萬圓」ニ改メ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外該公社ガ發行スル社債額壹億六千萬圓ヲ限リ其ノ元金ノ償還及利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康德八年度又ハ康德九年度ニ於テ結ブコトヲ得

(ト) 五億二千五百八拾萬圓ニ關スル日本國政府ノ保證勅令

昭和十七年二月二十日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

拓務省所管

滿洲拓植公社債元利保證

滿洲拓植公社債元利保證ニ關シ第七十六回帝國議會ノ協賛ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ條件第四項中「參億九千八拾萬圓」ヲ「五億貳千五百八拾萬圓」ニ改メ同社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債ニ對シ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外更ニ社債額面壹億參千五百萬圓ヲ限リ其ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

(チ) 五億六千九百萬圓ニ關スル滿洲國政府ノ保證勅令

康德九年三月九日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社債元利保證

滿洲拓植公社債元利保證ニ關スル康德八年三月三十一日公布ノ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件中公社ニ對スル保證限度「四億參千五百萬圓」ヲ「五億六千九百萬圓」ニ改メ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外該公社ガ發行スル社債額壹億六千萬圓ヲ限リ其ノ元金ノ償還及利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康德九年度又ハ康德十年度ニ於テ結ブ事ヲ得

(リ) 六億七千八百八十萬圓ニ關スル日本國政府ノ保證勅令

昭和十八年三月六日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計



大東亞省所管

滿洲拓植公社債元利保證

滿洲拓植公社債元利保證ニ關シ第七十九回帝國議會ノ協賛ヲ經テ改定シタル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ條件第四項中「五億貳千五百八十萬圓」トアルヲ「六億七千八百八拾萬圓」ニ改メ同社ガ其ノ事業ノ費用ニ充ツル爲發行スル社債ニ關シ現ニ政府ガ元利支拂ノ保證ヲ爲シ得ルモノノ外更ニ社債額面壹億四千六百萬圓ヲ限リ其ノ元利支拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

(ヌ) 七億壹千五百萬圓ニ關スル滿洲國政府ノ保證勅令

康德十年五月三日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社債元利保證

滿洲拓植公社債元利支拂保證ニ關スル康德五年七月二十一日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件中該公社ニ對スル保證限度ヲ康德九年三月九日公布ノ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ條ヲ以テ「五億六千九百萬圓」ニ改メタル處更ニ該限度ヲ「七億壹千五百萬圓」ニ改メ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外該公社ガ康德十年四月二日ヨリ康德十一年三月三十一日迄ニ於テ發行スル社債額面壹億五千六百萬圓ヲ限リ其ノ元金ノ償還及利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康德十年度又ハ康德十一年度ニ於テ結ブコトヲ得

(ル) 九億參千八百八拾萬圓ニ關スル日本國政府ノ保證勅令

昭和拾九年貳月拾五日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

大東亞省所管

滿洲拓植公社債元利保證

滿洲拓植公社債元利保證ニ關シ第八拾壹回帝國議會ノ協賛ヲ經テ改定シタル豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノ條項中第四項ヲ左ノ如ク改ム

一、政府ニ於テ保證スル社債金額ハ借換ノ場合ヲ除クノ外總額九億參千八百八拾萬圓ヲ限度トスルコト

(ヲ) 八億參千五百萬圓ニ關スル滿洲國政府ノ保證勅令

康德拾壹年五月貳拾貳日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件

一般會計

經濟部所管

滿洲拓植公社債元利償還保證費

滿洲拓植公社債元利支拂保證ニ關スル康德拾年五月三日公布豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スノ件中該公社ニ對スル保證限度「七億壹千五百萬圓」ヲ「八億參千五百萬圓」ニ改メ現ニ政府ガ保證ヲ爲スモノノ外該公社ガ發行スル社債額壹億六千五百萬圓ヲ限リ其ノ元金ノ償還及利子ノ支拂ヲ保證スル契約ヲ康德拾壹年度又ハ康德拾貳年度ニ於テ結ブコトヲ得

三、保證ヲ受ケタル社債 第四章第一節「社債ノ現況」ニ於ケル日貨社債第一回乃至第二十九回及滿洲國々幣社債第一號乃至第二十一號合計八億二千五百萬圓ナリ。

四、保證ヲ受ケ得ベキ未發行社債 昭和十九年(康德十一年)度十月末日現在保證社債發行餘力ハ日本帝國政府ニ於テハ一般會計保證限度九億參千五百萬圓、朝鮮總督府特別會計保證限度四千參百貳拾萬圓合計保證限度九億七千五百萬圓ヨリ既發行八億貳千五百萬圓ヲ差引キタル壹億五千萬圓ニシテ滿洲國政府ニ於テハ保證限度八億參千五百萬圓ヨリ既發行八億貳千五百萬圓ヲ差引キタル壹千萬圓ナリ。

五、鮮滿拓殖債券ノ承認 康德八年六月一日滿鮮拓殖株式會社ヲ統合スルニ伴ヒ同社ガソノ事業資金トシテ使用シタル借入金中鮮滿



拓殖株式會社ノ社債ニ依ルモノノ承繼ニ付テハ既ニ第一章第一節第二款ニ詳説セル如シ。

第四節 社債ノ引受先

(昭和十九年十月末現在)

回数	發行年月日	引受先	大藏省	簡易保險局	産業組合中央金庫	鐵道共濟會	日本勸業銀行	シ圖親引	滿洲中央銀行	農金	一般公募	合計
第一回	康昭和一九一〇	一〇,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	五,〇〇〇千圓	五,〇〇〇千圓	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	三〇,〇〇〇千圓
第二回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	一,五〇〇千圓	三,〇〇〇千圓	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	一五,〇〇〇千圓
第三回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	四,〇〇〇千圓	三,〇〇〇千圓	三,五〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	二五,〇〇〇千圓
第四回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓	二,〇〇〇千圓	三,〇〇〇千圓	二,五〇〇千圓			七,五〇〇千圓	一八,〇〇〇千圓
第五回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			二,五〇〇千圓	二,五〇〇千圓	二,五〇〇千圓	二,五〇〇千圓			一,一〇〇千圓	一五,〇〇〇千圓
第六回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓	一〇,〇〇〇千圓
第七回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓						二,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓	一〇,〇〇〇千圓
第八回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓						七,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓	一五,〇〇〇千圓
第九回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓									五,〇〇〇千圓	三〇,〇〇〇千圓
合計												二六,〇〇〇千圓

回数	發行年月日	引受先	大藏省	簡易保險局	産業組合中央金庫	鐵道共濟會	日本勸業銀行	シ圖親引	滿洲中央銀行	農金	一般公募	合計
第一回	康昭和一九一〇	一〇,〇〇〇千圓			四,〇〇〇千圓	一,〇〇〇千圓		一〇,〇〇〇千圓	一〇,〇〇〇千圓		五,〇〇〇千圓	三〇,〇〇〇千圓
第二回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	三,〇〇〇千圓		七,五〇〇千圓	一〇,〇〇〇千圓		二,五〇〇千圓	二〇,〇〇〇千圓
第三回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	三,〇〇〇千圓		六,五〇〇千圓	一〇,〇〇〇千圓		五,〇〇〇千圓	二〇,〇〇〇千圓
第四回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓	二,〇〇〇千圓		一,三〇〇千圓	五,〇〇〇千圓		三,〇〇〇千圓	二〇,〇〇〇千圓
第五回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			二,〇〇〇千圓	二,〇〇〇千圓		六,〇〇〇千圓	五,〇〇〇千圓		二,五〇〇千圓	二〇,〇〇〇千圓
第六回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			二,五〇〇千圓			九,二六〇千圓	一五,〇〇〇千圓		一,一七六千圓	一五,〇〇〇千圓
第七回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓			七,五〇〇千圓	一〇,〇〇〇千圓		二,五〇〇千圓	二〇,〇〇〇千圓
第八回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			三,〇〇〇千圓			六,五〇〇千圓	一〇,〇〇〇千圓		五,〇〇〇千圓	二〇,〇〇〇千圓
第九回	康昭和一九一〇	五,〇〇〇千圓			五,〇〇〇千圓	二,〇〇〇千圓		二,〇〇〇千圓	五,〇〇〇千圓		二,〇〇〇千圓	二〇,〇〇〇千圓
合計												二六,〇〇〇千圓







# 第五章 公社ノ會計

## 第一節 會計年度

本公司ノ營業年度ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ナリ。(定款第三十五條)

## 第二節 事業費

### 第一款 事業費款項別

科目	目	金額	科目	目	金額
土地	開拓用地	二〇〇,七七八,五七一七	利	利用設備	三七九,四四六〇二
	小作管理用地	一三二,八九三,三五八一		宿泊設備	一,二七五,七一四〇二
	土地施設	四,二九六,〇四六〇二		樹苗圃設備	一六八,〇四九七〇
	土地原價關係費	三七,一三二,八五五九一		牧場設備	一五二,五七九六八
	土地測量費	二,九七九,〇〇五〇五		雜設	一二八,〇五八二六
	土地整理費	三,一六〇,〇五九七四		土地管理施設	一,五一二,七四五六四
	負債利息	九五八,五九五九三		小作收納所設備	一,〇三〇,〇三一〇
	助成施設	一九,三五八,六五〇三三		土地利用設備	四七二,二九二九七
		二,一〇三,八四七六八		雜設	一〇,四二一,五七

(昭和十九年三月三十一日現在)

科目	目	金額	科目	目	金額
造林施設	社營造林設備	五〇九,〇〇二二九	康德產業株式會社	滿洲種苗統制組合	五〇〇,〇〇〇〇〇
	農場造林設備	三〇二,五六四一二		滿洲農機具統制組合	七〇,〇〇〇〇〇
	特定開拓團造林設備	一〇九,〇九三八九		滿洲製藥統制組合	一一〇,〇〇〇〇〇
	農場施設	九七,三四四二八		滿洲林業種苗組合	一〇,〇〇〇〇〇
	機械農場設備	三,一四八,三六七四七		開拓貸付金	五〇〇〇〇
	特設農場設備	一,三五〇,三七九七六		(内地人開拓民貸付金)	三二五,四一五,六五二二
	雜施設	一,七九七,九八七七一		建設期貸付金	二〇一,八九四,三九三二五
	事務所設備	二八,二一五,四九六五一		特殊貸付金	六,五八一,二三四九一
	住宅設備	八,五八四,八七二六八		別途貸付金	一,六三三,四七九〇〇
	雜設	一九,二二八,九三八二八		年賦貸付金	五〇,七八二,一六八六〇
	雜品施設	四〇一,六八五五五		組合貸付金	四,九一二,七〇九三一
倉庫設備	五,〇三四,八八五〇五	(朝鮮人開拓民貸付金)	三七,八九六,五八九四四		
製材設備	四,〇〇五,六一一六八	開拓民貸付金	五,一二八,三三九九九		
修理工場設備	五九四,四二六〇四	安全農村貸付金	七,二九〇,二六八九二		
工務施設	四一四,八三一二二	自作農創定貸付金	八,九二〇,五〇一九九		
工務設備	二〇,〇一六一一	共同貸付金	三七五,九六六八〇		
開墾作業設備	三,八五一,九八七五〇	雜	五,七六三,九五九二四		
出資金	一,七一四,五九〇五五	小作貸付金	四,四六五,五三三六三		
滿洲膏產公社	二,一三七,三九六九五	長期貸付金	一,二九八,四二五六一		
滿洲木材加工株式會社	三,四五五,五〇〇〇〇	短期貸付金	五七九,七九〇,〇一四七六		
滿洲開拓振興株式會社	二,二五〇,〇〇〇〇〇	合計			
	一七五,〇〇〇〇〇				
	三四〇,〇〇〇〇〇				



第二款 專業費認可豫算

科目	金額	科目	金額
土地	四五,七〇五,五六三〇〇	事務所設備	七四四,〇四〇〇〇
土地	二一,四八二,五七〇〇〇	住宅設備	三,八三六,八四九〇〇
土地	二四,二二二,九九三〇〇	雜設	一四八,八〇〇〇〇
助成施設	四六〇,九〇九〇〇	開拓貸付金	一四五,七四三,九〇二〇〇
利用施設	一五〇,一〇〇〇〇	內地人貸付金	一二三,一三四,六五一〇〇
宿泊施設	八八,二八四〇〇	朝鮮人貸付金	二二,六〇九,二五一〇〇
樹苗園施設	二四,七二五〇〇	小作貸付金	一四,一九三,七〇〇〇〇
採種園施設	一七九,六五〇〇〇	長期貸付金	八,一二七,六〇〇〇〇
牧場施設	一八,一五〇〇〇	短期貸付金	六,〇六六,一〇〇〇〇
造林施設	九九七,二四九〇〇	出資金	三,九六四,〇〇〇〇〇
社有地造林施設	六七二,二六四〇〇	佳木斯木材加工株式會社	四七五,〇〇〇〇〇
農場造林施設	一三〇,四五五〇〇	滿拓農機工業株式會社	三,四八九,〇〇〇〇〇
開拓團造林施設	一三〇,九五二〇〇	融資金	一,二二七,〇〇〇〇〇
社有天然林保護施設	六三,五七八〇〇	倉庫設備	一,〇四〇,一四五〇〇
土地管理施設	四,六二六,三七五〇〇	工務施設	一,〇四〇,一四五〇〇
小作收納所設備	九四,一二〇〇〇	工務設備	一,一八九,二九〇〇〇
土地利用設備	四,五三二,二五五〇〇	開墾作業設備	九九〇,一四〇〇〇
農場施設	三三〇,七八〇〇〇	豫備金	一九九,一七六〇〇
機械農場設備	二七〇,二〇一〇〇	合計	二二九,二〇八,五四〇〇〇
特設農場設備	六〇,五一七〇〇		
雜設施	四,七二九,六八九〇〇		

七〇  
(昭和十九年度)  
康德十一年度

第三節 營業收支

第一款 營業收支及益金累年比較

年度	總收額	收入指數	總支額	支出指數	總損益額	損益指數
康德十二年	一,五〇一,六九三	一〇〇	一,二六一,三五四	一〇〇	二四〇,三三九	一〇〇
康德十三年	六,〇二三,〇九五	四〇一	五,一一七,五四六	四〇五	九〇五,五四九	三七七
康德十四年	一一,二八二,三三七	八一三	一〇,二一九,七七八	八〇二	二,〇六二,五五九	八九五
康德十五年	一七,六五七,九七七	一,一七五	一六,二六四,一一六	一,二八九	一,三九三,八六一	五七九
康德十六年	二七,五五八,二〇九	一,八三五	三一,三八八,六五二	二,四八八	三,八三〇,四四三	(一)一,五九三
康德十七年	三七,六七三,五〇九	二,五〇九	三九,五七三,五八九	三,一三七	一,九〇〇,〇八〇	(一)七九〇
康德十八年	四三,五五六,〇三二	二,九〇〇	四六,一〇三,四四九	三,六五五	二,五四七,四一七	(一)一,〇五九

二、舊滿鮮拓分

年度	總收額	收入指數	總支額	支出指數	總損益額	損益指數
康德十一年	八〇八,四七五	一〇〇	七五四,六〇八	一〇〇	五三,八六七	一〇〇







年	度	本社經費	地方經費	利息支出	附業經費
昭和十四年	年度	一、六七〇、四二二	二、三三三、一三三	六、三三三、一〇七	
昭和十五年	年度	三、四一〇、一五五	二、四三三、八三三	一〇、三三三、九二九	
昭和十六年	年度	三、八七九、二六六	七、四三三、一〇三	一〇、三三三、九二九	一〇〇
昭和十七年	年度	三、八五七、四三三	八、一七三、七五五	三、三三三、七五五	一、四六六
昭和十八年	年度	五、〇〇〇、〇〇〇	七、六七一、一三三	三、六七一、一三三	一、六五五

年	度	金額	指數
昭和十四年	年度	1,670,422	100
昭和十五年	年度	3,410,155	203.8
昭和十六年	年度	3,879,266	232.3
昭和十七年	年度	3,857,433	231.0
昭和十八年	年度	5,000,000	299.4

註 1 昭和十二年(康德四年)助成經費(集團二七、集合一七、計四四團)對スルモノナリ。  
 2 昭和十三年(康德五年)助成經費(集團六七、集合三八、計一〇五團)對スルモノナリ。  
 3 昭和十四年(康德六年)助成經費(集團一二九、集合七七、計一〇六團)對スルモノナリ。  
 4 昭和十五年(康德七年)助成經費(集團一九〇、集合七七、計一〇六團)對スルモノナリ。  
 5 昭和十六年(康德八年)助成經費(集團二三八、義勇隊一〇三、集合分數一七、計三〇七團)對スルモノナリ。  
 6 昭和十七年(康德九年)助成經費(集團二八〇、義勇隊一四〇、集合分數一九一、計六一團、朝鮮人開拓民一七、一八一戸)對スルモノナリ。  
 7 昭和十八年(康德十年)地方經費(集團四一〇、義勇隊一七八、集合分數二一五、計八三團、朝鮮人開拓民二、六一二戸)對スルモノナリ。

年	度	農地經費	安全農村經費	精米經費	金融經費	利息支出	雜支出	開拓地經費	牧場經費
昭和十一年	年度	188,111	111,214	87,124	31,324	1,124	1,124	1,124	1,124
昭和十二年	年度	311,577	177,111	111,214	101,124	1,124	1,124	1,124	1,124
昭和十三年	年度	311,577	177,111	111,214	101,124	1,124	1,124	1,124	1,124
昭和十四年	年度	311,577	177,111	111,214	101,124	1,124	1,124	1,124	1,124
昭和十五年	年度	311,577	177,111	111,214	101,124	1,124	1,124	1,124	1,124
昭和十六年	年度	311,577	177,111	111,214	101,124	1,124	1,124	1,124	1,124
昭和十七年	年度	311,577	177,111	111,214	101,124	1,124	1,124	1,124	1,124
昭和十八年	年度	311,577	177,111	111,214	101,124	1,124	1,124	1,124	1,124

第四款 昭和十九年度(康德十一年度)營業收支豫算

科目	目	金額	科目	目	金額
收入部	利息收入	51,913,902	支出部	雜口收入	306,694
	內地人開拓民貸付金利息	40,769,077		雜出	306,694
	朝鮮人	14,742,511		本社	54,718,313
	小作貸付金利息	7,400,062		總務	2,826,303
	土地負荷利息	1,579,977		輔導	2,658,461
	融資金利息	9,833,621		地方	147,560
	特別會計融資金利息	3,978,406		總務	20,282
	雜利	3,196,195		輔導	8,680,659
	土地管理收入	38,304		地方	7,539,964
	小作料收入	9,349,753		總務	1,018,020
	附業收入	9,049,236		輔導	1,111,675
	農場收入	300,517		地方	5,977,838
	樹苗圃收入	1,488,378		總務	4,280,536
	宿泊所收入	622,705		輔導	1,595,698
	牧場收入	400,249		地方	1,595,698
採種圃收入	140,673	總務	1,011,604		
雜成所收入	89,184	輔導	1,497,756		
	149,580	地方	588,322		
	85,987	總務	367,655		
		輔導	90,877		



繰上金	利息	債利	貸出	貸入	繰上金
1,016,243	31,056,906	33,128,269	183,316	1,176,474	125,822
1,016,243	31,056,906	33,128,269	183,316	1,176,474	125,822
差引	本年	度	繰上金	繰上金	繰上金
2,804,411	1,393,820	1,213,668	407,120	648,000	76

第四節 利益金

一、利益金(繰損金)處分年計表

年 度	當該年度利益金	前年度繰越金	計	法定積立金	次年度へ繰越金
昭和十二年	240,339	215,339	240,339	25,000	215,339
昭和十三年	905,549	215,339	1,120,888	95,000	1,025,888
昭和十四年	2,062,559	1,025,888	3,088,447	210,000	2,878,447
昭和十五年	1,393,861	2,878,447	4,272,308	150,000	4,122,308
昭和十六年	3,830,443	4,122,308	7,952,751	150,000	7,802,751
昭和十七年	1,900,080	7,802,751	9,702,831	150,000	9,552,831
昭和十八年	2,547,416	9,552,831	12,100,247	150,000	11,950,247

尙滿鮮拓植株式會社統合ニ至ル迄ノ同社第一期ヨリ第五期ニ至ル間ノ利益金處分年計表ヲ揭示スレバ左ノ如シ。

年 度	當該年度利益金	社員退職金引當	配 當 金
昭和十一年	53,867	5,000	48,867
昭和十二年	42,703	5,000	37,703
昭和十三年	234,286	5,000	229,286
昭和十四年	250,657	5,000	245,657
昭和十五年	246,085	5,000	241,085

二、利益配當ニ關スル規定

- (イ) 滿洲拓植公社ノ設立ニ關スル協定第七條  
「公社ノ利益配當ハ公正ナル一定率ヲ超エザルモノトス」
- (ロ) 政府持株以外ノ株式ニ對スル利益配當ハ定款ノ定ムル所ニ依リ或程度ノ率ニ達スル迄政府持株ニ優先シテ之ヲ爲スコトヲ得。
- (ハ) 滿洲拓植公社定款第三十九條  
「本公司ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益配當ガ日滿兩國政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年三分五厘ノ割合ニ達スル迄日滿兩國政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セザルモノトス」
- (ニ) 政府ノ持株ニ對スル利益配當 昭和十三年(康德五年)度、昭和十四年(康德六年)度、昭和十五年(康德七年)度ノ利益金ハ配當ヲ爲シ得ベキ率ニ達シタルモ將來ニ於ケル社有地内小作管理地ノ移讓ニ依ル公社唯一ノ收入財源タル土地管理收入ノ減少ニ基ク營業收支ノ缺損ヲ補填センガ爲全額留保セリ。



四、一般株主ニ對スル利益配當 一般株主ニ對スル利益配當モ配當ヲ爲シ得ベキ率ニ達シタルモ前項政府持株ニ對スル配當ニ關シ記述セルト同様ノ理由ニ依リ配當ヲ爲サズ留保セリ。

第五節 公社ノ資産及負債

第一款 貸借對照表

科 目	資 産		負 債	
	金 額	價 額	金 額	價 額
資本勘定	三四〇、六九六、三五七八〇		資本勘定	一三二、九一七、七七九六九
拂込未済株金	四八、七五〇、〇〇〇〇〇		株金法定積立金	一三〇、〇〇〇、〇〇〇〇〇
前年度繰越損金	一、六〇八、二五一七		法定積立金	四八〇、〇〇〇〇〇
本年度缺損金	二、五四七、四一六三五		社員退職給與金	二、四三七、七七九六九
土地	二〇〇、七七八、五七一七			
助成施設	二、一〇三、八四七六八			
需品施設	五、〇三四、八八五〇五			
工務施設	三、八五一、九八七五〇			
土地管理施設	一、五二二、七四五六四			
造林施設	五〇九、〇〇二二九			
農林施設	三、一四八、三六七四七			
農場施設	二八、二一五、四九六五一			
雜產施設	三八二、七二〇四二			
貯藏物品	三八、七二一、六九三五六			
貸借勘定			貸借勘定	七一三、四三〇、五三四八〇
現出金	三、四五五、五〇〇〇〇		社債	六六六、七九〇、〇〇〇〇〇
出資金	七五、九〇八九九		借入預り	一一二、九四六、〇三八四三
借替貯蓄金	四四四、一二九、七二四六〇		開拓預り	六、〇七五、八九一一七
銀行預貯金	二、九七五、一〇四七六		受入保証金	一、七三二、七八〇九二
開拓貸付金	三二五、四一五、六五二二一		社内預り	一五、八八四、六一四二八
森林伐採勘定	一、一一〇、九六八八五		未收資本	
小作貸付金	五、七六三、九五九二四		中間勘定	
差入保証金	九、八三八五一		假借差額	
未收資本	八七、八二四、二七九七一			
中間勘定	二〇、九八〇、六四二〇九			
假借差額	八〇、九九二、七二四七三			
社債	五三、七七七、一七二〇二			
仕掛品	一〇、一三三、四三七六八			
未済品	四一七、五〇六六二			
建設工事勘定	一、七四八、〇七一五一			
	一四、九一六、五三六九〇			
合計	八六五、八一八、八〇七一三		合計	八六五、八一八、八〇七一三

科 目	資 産		負 債	
	金 額	價 額	金 額	價 額
出資金	三、四五五、五〇〇〇〇		貸借勘定	七一三、四三〇、五三四八〇
現出金	七五、九〇八九九		社債	六六六、七九〇、〇〇〇〇〇
借替貯蓄金	四四四、一二九、七二四六〇		借入預り	一一二、九四六、〇三八四三
銀行預貯金	二、九七五、一〇四七六		開拓預り	六、〇七五、八九一一七
開拓貸付金	三二五、四一五、六五二二一		受入保証金	一、七三二、七八〇九二
森林伐採勘定	一、一一〇、九六八八五		社内預り	一五、八八四、六一四二八
小作貸付金	五、七六三、九五九二四		未收資本	
差入保証金	九、八三八五一		中間勘定	
未收資本	八七、八二四、二七九七一		假借差額	
中間勘定	二〇、九八〇、六四二〇九			
假借差額	八〇、九九二、七二四七三			
社債	五三、七七七、一七二〇二			
仕掛品	一〇、一三三、四三七六八			
未済品	四一七、五〇六六二			
建設工事勘定	一、七四八、〇七一五一			
	一四、九一六、五三六九〇			
合計	八六五、八一八、八〇七一三		合計	八六五、八一八、八〇七一三

第二款 財産目録



區分	摘要	金額
資產ノ部		
土地		
開拓用地	總面積 六、〇六九、一〇六、二一七	二〇〇、七七八、五七一
小作管理用地	六五、一二二、〇〇九	一三二、八九三、三五八
土地	內、地人開拓民用地施設 二、八三〇、九〇七、五二一、朝鮮人開拓民用地施設 五、九二四、五〇七、八二二、調査費 七、〇七二、七二五、一、小作管理用地施設 二、二二二、四	四、二九六、〇四六〇二
土地原價總係費	土地原價總係費 六、八六、四〇三、五〇、租稅公課 一、二二六、四五六、五七、土地原價調査費 六、八六、四〇三、五〇	三、一六〇、〇五九七四
土地測量	實測面積 三、八四九、七一六、六一	九五八、五九九三
用地整理費		一九、三五八、六五〇三三
助成利息		二、一〇三、八四七、六八
利用施設	開拓團員簡易宿泊所設備及貸與器具	三七九、四四六〇二
宿泊施設	在羅津、釜山、哈爾濱、大連、新京開拓會館設備	一、二七五、七一〇〇二
樹苗圃施設	千振、林口、富拉爾基、綏化樹苗圃育成設備	一六八、〇四九七〇
牧場施設	五道溝、東開魯、康天嶺牧場設備	一五二、五七九六八
雜設施	前記以外ノ設備	一、二八、〇五八二六
土地管理施設	哈爾濱他九地方事務所並四平出張所管内土地管理設備	一、五一二、七四五、六四
小作收納所設備	同 前	四七二、二九二、九七
土地利用設備	前記以外ノ設備	一、〇三〇、〇三一〇
造林施設	長嶺外六地區社營造林樹木	一〇、四二二、一五七
社營造林設備	薩爾圖外三農場造林樹木	五〇九、〇〇二、二九
		三〇二、五六四、一一

八〇

農場造林設備	千振開拓團外三、開拓團造林樹木	一〇九、〇九三、八九
特定開拓團造林設備		九七、三四四、二八
農場施設	寧年、札羅木得、免渡河機械農場設備	三、一四八、三六七、四七
機械農場設備	鶴山、白家、薩爾圖、成吉思汗、寶清特設農場設備	一、三五〇、三七九、七六
特設農場設備		一、七九七、九八七、七一
雜設施	新京本社、各支社、地方事務所、出張所、建物、用地、機器其他設備	二八、二一五、四九六、五一
事務所設備	前記附屬住宅設備	八、五八四、八七二、六八
住宅設備	前記以外ノ設備	一九、二二八、九三三、二八
雜設施	新京外十二ヶ所所需品倉庫設備	四〇一、六八五、五五
倉庫設備	虎林、佳木斯、嫩江製材所、製材設備	五、〇三四、八八五、〇五
製材設備	哈爾濱農機具修理工場ニ於ケル諸設備	四、〇〇五、六一一、六八
修理工場設備	前記以外ノ設備	五九四、四二六、〇四
工務施設	工務用機器	四一四、八三二、二二
工務設備	開墾用トラクター外附屬農機具	二〇、〇一六、一一
開墾作業設備		三、八五一、九八七、五〇
生產業物	十年度收納穀物處分未濟分	一、七一四、五九〇、五五
農產業物	十年度生產家畜處分未濟分	二、一三七、三九六、九五
畜產業物		三八二、七二〇、四二
貯蓄設備	開拓團給用貯蓄物資期末高	三二二、六八〇、四二
貯蓄物品	建築工事費材期末高	三、八七二、一六九、三五六
工務用品		三五、〇一五、一〇〇、七七
工務用品		一、八四五、九八九、二九

八一



社內用度用品	社內用度用品 修理工場製小農具期末手持高 朝鮮人開拓民ニ對スル小口配給用物資期末高	七〇六、三五〇七一 八〇三、八五二六五 三五〇、四〇〇一四
出賣	滿洲農產公社 二、二五〇〇〇 滿洲開拓製糖 三、四〇〇〇〇 滿洲植蠶製絲組合 一、七〇〇〇〇 滿洲農業統制組合 一、〇〇〇〇〇 本社、各支社、各地方事務所、出張所期末在高	三、四五五、五〇〇〇〇 七五、九〇八九九 四九、二七九二三 二、九七五、一〇四七六 三二五、四一五、六五二二一
銀行預貯金	同	同
開拓貸付金	(內地人開拓民貸付金) 建設期間中ノ開拓團ニ對スル一般貸付金 開拓團事業副業其他ニ對スル貸付金 補助金引當其他短期回收ノ貸付金 建設期貸付金ノ償還期ニ入りタルモノ 協同組合、同聯合會ニ對スル貸付金	二〇一、八九四、三九三二五 六、五八一、二三四九一 一、六三三、四七九〇〇 五〇、七八二、一六八六〇 四、九一二、七〇九三一
朝鮮人開拓民貸付金	朝鮮人、集團、集合開拓民ニ對スル長期短期貸付金 安全農村ニ居住スル者ニ對スル貸付金 自作農創定ノ爲ノ土地買収ニ要スル貸付金 開拓民ノ本部施設、產業施設、防備、通信、交通、教育等ニ對スル貸付金 前記ニ屬セザルモノ 開拓團採伐資金ノ貸付額 管理土地內小作人ノ營農上必要ナル貸付金	三七、八九六、五八九四四 五、一二八、三三九九九 七、二九〇、二六八九二 八、九二〇、五〇一九九 三七五、九六六八〇 一、一一〇、九六八八五 五、七六三、九五九二四

長期貸付金	固定資金	四、四六五、五三三六三
短期貸付金	流通資金	一、二九八、四二五六一
差入保證金	新京中央郵便局後携電報料保證金其他	九、八三八五一
訓練本部	基本訓練所並ニ甲種訓練所移管ニ伴フ對訓練本部融資金 哈爾濱、向陽山幹部訓練所財產移管ニ伴フ對滿洲國政府融資金	八七、八二四、二七九七一 八六、七九〇、〇八〇〇二 四一八、五七四〇三
幹部訓練所	社有地外小作鮮農ニ對スル貸付金	二二〇、一五七七九
社有地外金融	二龍山、八ヶ岳農場ニ對スル融資金	三八五、四六七八七
八ヶ岳農場	開拓貸付金未收利息其他	二〇、九八〇、六四二〇九
未收	土地整備前渡資金其他	五三、七七七、一七二〇二
假拂	建設改良工事中ノモノ	一四、九一六、五三六九〇
建設工事勘定	原木製材ニ依ル未完成品並哈爾濱農機具修理工場仕掛品	四一七、五〇六六二
仕掛	社債額面ト手取金トノ差額	一〇、一三三、四三七六八
社債	輸送途中ニアル貯藏品	一、七四八、〇七一五一
未清品勘定	株金中拂込未済ノモノ	四八、七五〇、〇〇〇〇〇
拂込未済株金	營業收支差損金繰越分	一、六〇八、二一五一七
繰越損金	自昭和十八年四月一日至昭和十九年三月三十一日間營業收支差額	二、五四七、四一六三五
本年度缺損金		八六五、八一八、八〇七一三
資產合計		八六五、八一八、八〇七一三

負債ノ部	日滿兩國政府各百十萬株、滿鐵二十萬株、東拓七萬五千株、三麥三井各五萬株、住友二萬五千株	一三〇、〇〇〇、〇〇〇〇〇
區分		
金額		



法定積立金	四八〇、〇〇〇
社員退職給與準備金	二、四三七、七七九六九
借入金	六六六、七九〇、〇〇〇
開拓預り金	二二、九四六、〇三八四三
受入保証金	六、〇七五、八九一七
社内預り金	一、二一〇、〇〇
未拂預り金	一、七三二、七八〇九二
假受金	一五、八八四、六一四二八
負債合計	一九、四七〇、四九二六四
負債合計	八六五、八一八、八〇七一三

定款第三十八條ニ依ル積立金

日滿兩國政府保證社債

日貨第五次、滿洲國投資公債借入金

訓練本部融資金引當中銀借入金、朝鮮總督府ヨリノ鮮拓當時ノ借入金

開拓團ヨリノ長期預り金

小丸太貨與保證金其他

社員義務貯金、共濟會、協和會ヨリノ預り金

物賣購入代金未拂其他

受託工事資金假受其ノ他

# 第六章 公社ノ業務

## 第一節 開拓地建設經營ノ助成輔導ニ關スル業務

### 第一款 入植ニ關スル輔導

一、入植適地調査 開拓民入植適地調査ハ從來日滿兩國政府、公社合同ニテ滿拓公社々有地ニツキ之ヲ施行シ來リタルガ昭和十四年度(康德六年度)ヨリ開拓用地ノ取得ガ滿洲國ノ政府ニ於テ直接行ハル、コト、ナルニ及ビ、公社々有地、國有地及民有地ヲ問ハズ適地調査ハ開拓總局ニ於テ所管スルコト、ナリタルモ、公社ハ引續キ團建設ノ専門的立場ヨリ調査研究シ其ノ適否ヲ決定スルタメ積極的ニ協力シツツアリ。

適地調査ハ毎年春、夏、秋ノ三期ニ分チ之ヲ實施スルモノニシテ公社ガ調査ニ參加セル實績左ノ如シ。

自昭和十三年(康德五年)至昭和十八年(康德十年) 開拓地調査成績表

調査年次	地區數	入植見込戸數	面積	積	摘要
昭和十三年	一三〇	三四、一五		一、五二七、二七二	
昭和十四年	二〇九	四七、五二〇		二、四一〇、九一〇	
昭和十五年	一五五	五一、九四三		二、一二五、七六三	
昭和十六年	一五七	二八、七三五		一、三二四、三九二	
昭和十七年	九九	二四、三九六		一、〇九七、八二〇	
昭和十八年	三二五	二七、〇一四		一、六七〇、〇〇〇	



二、建設準備調査 建設準備調査ハ、入植決定ヲ見タル地區ニ對シ開拓團入植ニ先立チ、建設ヲ主體トセル綜合的調査ヲ行ヒ、建設並ニ經營ニ對シ概略ノ計畫ヲ樹立スルモノニシテ交通、通信、營農、地方的資材其他地區附近ノ一般概況ヲ調査シ、更ニ一般建設計畫ヲ立案シ開拓團建設ノ積極的指導ヲ行フ。

三、入植ノ輔導助成 入植ニ關スル輔導助成業務、開拓民ノ輸送ニ關シテハ從來社内ニ輸送委員會ヲ設置シ居リタルモ昭和十九年（康徳十一年）四月一日東亞交通公社ノ設立ト共ニソノ輸送ヲ移管セルモ尙公社ハ充分ニ之ガ便宜ヲ計リ居レリ、尙最寄驛ヨリ入植地區迄ノ輸送ニ際シテハ現地地方事務所ニ於テ協力致シ居レリ。開拓團ノ先遣隊入植ニ先立チ公社ハ設營班ヲ現地ニ派遣シ、建設ノ據點ヲ策定スルト共ニ農村建設ノ基礎調査ヲ行フ。ソノ任務ハ次ノ如シ。

入植ノ誘導、初年度所要家屋ノ買収又ハ借上斡旋、公社斡旋物資ノ檢收、現地調達資材ノ購入斡旋輸送、初年度農耕地決定、現住民處理ニ關スル地方官廳トノ折衝、交通、通信ニ關スル調査等之ナリ。

四、團地計畫 開拓農村永遠ノ發展ハ一ニ開拓民ノ入植ニ當リ計畫サルベキ團地計畫ノ如何ニ在レバ夫々ノ型態ニ應ズル適地適應ノ農村計畫ノ樹立ト其ノ運籌輔導ハ公社ニ課セラレタル重大業務ニシテ、全體計畫ノ立案ニ當リテハ關係機關ト協調連繫、萬遺憾ナキヲ期シ居レリ。

農村全體計畫ノ樹立ニ關シ其ノ基底タル可キ要素ハ建設經營資金、資材ノ合理的運籌ト自然條件ニ適應セル經營規模樣式ノ確立ニシテ、社會經濟情況、原住民關係並ニ治安情況等ノ各種事情ヲ考察ノ上立案セラル、モノナリ。現實ノ問題ハ物資ノ不足ト入植地ノ據點ヨリノ遠距離ニヨル交通難ノ二大事情ニ制約サル、コト甚シク、農村全體計畫ハ既往ノ形式方途ヲ以テシテハ到底確立化シ得ザル現況ニ在リ。依テ根本的ニ入植ノ形態、資金ノ使途ト其ノ限度、日滿兩國政府ノ補助方法ト内容等ニツキ再檢討ノ要アリト謂ヒ得ベク、計畫ノ立案ニ當リテハ特ニ左記各項ニ重點ヲ置キ計畫スルト共ニ輔導助成ヲナシツ、アリ。

- 1、開拓地建設經營計畫ノ綜合化ヲナシタルコト。
- 2、遠距離地域ニ入植スル團ニ對スル特別輔導助成方法トシテ輸送道路、開拓鐵道等ノ敷設要望、トラックノ代燃化ヲ促進スル傍トラック輸送ニ代ル大

車輸送ノ實行等ヲ考慮シ一應據點ヨリ五〇キロ以内ノ地域ニ入植セシムル如ク措置セルコト。

3、土地改良地區ヘノ入植ヲ促進シ更ニ立地條件ヲ考慮シ近距離ナルモ例ヘバ「アルカリ」地帯又ハ地力減耗甚シキ地帯ヘノ入植ハ差控ヘタルコト。

4、資金用途ヲ經營ニ重ク用フル如ク計畫セルコト。例ヘバ農具、役畜等ノ直接農業經營ニ必要ナル資金ハ節減スルコトヲ寧ろ增加スル如ク措置セルコト。

5、其他治安、原住民關係並ニ特殊事情ヲ考慮シ計畫ヲ立案セルコト。

6、輔導助成ノ強化ヲ計リタルコト。公社助成業務ノ浸透化策トシテ業務組織ノ合理的運用、人的物的輔導助成ノ強化、地方重點主義ニ則ル助成人員ノ地方配置ヲ計リ以テ輔導助成ノ徹底化ヲ企圖シ萬遺憾ナキヲ期セリ。

7、青年義勇隊開拓團移行ニ關スル基本計畫、大陸歸農開拓民基本計畫ハ既設開拓農村基本計畫ト本質的問題ノ差異ハ認メラザルモ各種條件ニ於テ多少異レル要素ヲ包含シ居レル關係上、カ、ル特殊事情ヲ研究ノ上全體計畫ヲ樹立シ之ニ對スル輔導助成ノ方法ニツキテ特別ノ考慮ヲ以テ處理スル如ク措置セリ。

尙日本内地人開拓民入植計畫數左ノ如シ。

日本内地人開拓民入植計畫 (昭和十九年六月末現在)

種別	團數	計畫戶數
集團開拓團	四一六	八四、三五〇
集合開拓團	一一八	九、八三〇
分散開拓團	八六	五、一九七
義勇隊開拓團	一七八	四三、〇〇〇
總計	八〇八	一四二、三七七

第二款 開拓農村建設經營基本計畫ノ樹立



一、建設經營基本計畫ノ樹立 開拓農村建設經營基本計畫ハ前記農村全體計畫ニ立脚セル具體的、實行的建設經營計畫ニシテ、更ニ滿洲國政府ノ立案スル國土開發計畫ニ立脚セル開拓地綜合計畫ニ即應スル如ク立案セラルベキハ論ヲ俟タザル處ナリ。即チ建築計畫、土地利用計畫、農業經營計畫、交通通信計畫及部落配置計畫等ヲ資金資材計畫ニ準據シテ綜合的ニ樹立シ、一個ノ行政經濟團體トシテノ特殊團體タル開拓團即チ開拓農村ノ健全ナル具體的建設經營方針ヲ決定スルモノナリ。而シテ該農村ヲシテ將來眞個ノ農村協同體トシテテ其ノ活動ヲ活潑ニ營マシムルタメノ組織トシテ開拓協同組合ノ結成ニヨリ永遠ニ發展向上ヲ庶幾セシムルタメ各般ニ互ル輔導助成ノ業務ハ實ニ公社業務ノ中核トナリ、建設經營計畫、資金資材計畫ノ樹立ト其ノ運營ハ理想農村創造ノ決定的要素ナリ。仍テ該基本計畫ハ左記諸點ヲ考慮シ其ノ完璧ヲ期シツツアリ。

- 一、開拓地綜合計畫ニ立脚スルコト。
- 二、入植地ノ各種事情ニ即應セシムルコト。
- 三、出來得ル限り短期間ニ定着セシムル如ク考究スルコト。
- 四、將來ヲ見透セル確固不變ノ農業經營方式ニ立ツ農村ノ繁榮ヲ企圖スルコト。
- 五、最モ少額ナル資金ヲ以テ合理的ニ運營セシメ得ルモノナルコト。
- 六、凡ユル角度ヨリ檢討ヲナシ凡ユル部門ノ意見、經驗、實情ヲ綜合スルコト。

二、基本計畫ノ内容 農村基本計畫ハ大別シテ建設經營計畫、資金資材計畫並ニ融資計畫トス。

(一) 建設經營計畫

(1) 先遣隊入植ニ關スル計畫

先遣隊時代ニ於ケル建設經營計畫ハ施設ニ關スル事項ヲ主トナスモ大略左記要領ニヨリ計畫スルト共ニ其ノ輔導ニ當ル。

- イ、設 營 團建設ノ第一歩ニシテ先遣隊及本隊入植ニ必要ナル建築資材ノ蒐集輸送計畫、諸物資ノ調達、宿舍ノ整備、交通通信、警備ニ關スル諸施設ノ計畫

ロ、土 地 入植地ノ土地利用計畫ニシテ地區内ノ地勢、土質、地下水等ヲ調査シ、開田、開畑、造林、牧畜ニ關スル利用増進ノ一般方針ヲ協議確立ス。

ハ、土 木 土地利用計畫ニ基ク土木工事計畫

ニ、建 築 個人家屋、共同建物、公共建物、加工施設等ニ關スル設計及計畫

ホ、給 水 地質、地下水、水質等ノ調査ニヨリ給水ニ關スル計畫

ヘ、交通通信 幹線道路計畫、橋梁、農道計畫、警備電話等ノ計畫

農耕計畫ニ關シテモ之等ト併行シテ計畫實施セラレ土地區劃ノ設定、部落分散配置計畫ト共ニ農業經營計畫ヲ樹立シ、適地適應ノ經營ヲナサシムル如ク考慮ス。

(2) 本隊入植後ノ建設經營計畫

本隊入植後ハ約三ヶ年ノ間ニ於テ建築ハ大約完了ニ至ルヲ以テ農業經營ニ其ノ主力ヲ傾注セシムル如ク經營計畫ヲ樹立ス。入植當初三ヶ年乃至五ヶ年間ハ開拓團ノ初期建設期ニシテ此ノ期ニ於ケル計畫ハ將來街村ト組合トノ經營結繫トナリ、更ニ之ガ基底タル部落ノ經營ニ係ハリヲ有スルノミナラズ、部落ヲ構成セル各戸ノ農業經營ヲモ左右スルモノナリ。

公社ハ該計畫ノ樹立及實施輔導ニ當リテハ慎重ヲ期シ一致協力、入植スル團長、指導員ハ勿論、關係各機關ト密接ナル連繫、協助ノモトニ業務ヲ遂行シツ、アリ。

建設經營計畫ノ内容ト立案方針ハ勿論所定ノ資金ヲ基準トシテ、資金計畫ト相互不可分ノ關係ニ於テ計畫セラレ實施セラル、モノナリ。以下其ノ計畫方針ヲ示スベシ。

(イ) 各 戸 施 設

開 田 開拓團策定メラル、ヤ農耕地ハ一戸當リ一〇陌、内水田一陌ヲ基準トシテ決定ヲ見タリ。

該決定面積ハ農家生活安定ノ爲ノ食料自給ヲ目途トシ殘餘アル場合ニ於テ幾分ノ現金收入ヲ確保シ得ルヲ目標トシテ定メラレタル面積ナルヲ以テ開田費



ノ如何ニ不拘一陌ノ水田ヲ確保ス可シト謂フガ如キモノニ非ズ。地區ノ狀況ニ依リ容易ニ開田シ得ル面積ニツキテノミ開田スルヲ建前トナス。依テ公社ハ開田ニ關シテハ各團別ノ所定開田費ヲ超過スル如キ計畫ハ之ヲ認メザルコト、シ、飽迄モ國土計畫ニ基ク全體開田計畫ヲ根基トシ綜合的開田計畫ヲ樹立セシムル如ク輔導シアリ。

**開** 最近ノ入植地ハ既耕地ヲ有スル所漸次減少シ、無住地帯ニシテ既耕地皆無ナル地方ヘノ入植漸増ノ傾向ニ在レバ、開墾計畫ハ不可缺急務ノ問題ナリ。依テ開墾計畫ト耕作計畫ト原則的ニ併行セシメ、部落計畫、建築計畫等ノ關係等併セ考慮シ自力開墾ト機械開墾トヲ併用セシムル如ク計畫輔導ス。尙機械開墾ハ公社直營業ナレバ特ニ開拓民ノ負擔關係ヲ考慮シ開墾費ノ節減ヲ計リ最善ヲ盡シアリ。

**個人家屋** 個人家屋計畫ニ當リテハ現下ノ狀態ヲ考慮シ最少限度ノ資金ヲ以テ最大ノ效果ヲ舉ゲシム可ク、採光、採煖、衛生、建築ノ難易、資材、農耕トノ關係等各種事情ヲ研究ノ上滿式三間房子ニヨルコト、シ、入植當初ハ共同ニテ使用セシムルモ、家屋建築ノ進展ニツレ一棟當リ二戸ヲ收容セシムルコト、セリ。

而シテ之ガ建設ニ當リテハ特殊事情ヲ考慮スルト共ニ家畜、農耕、共同作業、生活上ノ便利ハ固ヨリ農村協同體トシテノ有機的活動ヲ活潑化セシムル如ク指導シアリ。

**井** 井戸ハ個人家屋計畫ト全ク同一方針ヲ以テ計畫、輔導ス。特ニ水質ノ如何ハ生活ニ極メテ重大關係ヲ有スルニヨリ水量、水質等ニ注意スルト共ニ墾井費等モ併セ考慮シ一〇戸一眼ノ計畫ヲ以テ輔導實施スルモ採水極メテ困難ナル地區ニ對シテハ工事費ノ開拓團負擔ヲ輕減スルタメ政府ニ於テ井戸施設ヲナシツ、アリ。

**日本馬厩舎** 滿洲在來馬ノ拂底ト營農上其他ノ觀點ヨリ、日本馬移植ニヨリ耕馬ヲ充實スル計畫樹立セラレ、馬ノ利用管理ハ極メテ重要意義ヲ有スルニ至レリ。依テ特ニ日本馬厩舎建設ニ要スル經費ヲ計上スルト共ニ農耕ノ進度ニ應ジテ其ノ移植ヲ目論ミ主トシテ費用ノ點ヨリ材料ノミヲモツテ各自建築スル建前ヲ採レリ。尙新農法ニ依ルトキハ日本馬ノモツ利點極メテ大ニシテ、之ガ飼育管理ノ徹底ヲ期スル要アルニヨリ開拓民ノ負擔ヲ輕減、農耕法ノ合理化等ノ點ヨリ厩舎建築計畫ニハ特ニ留意シアリ。

**附屬畜舎** 附屬畜舎ニ關スル計畫モ、日本馬厩舎建築計畫ト大同小異ナルニヨリ材料ノ供給ニヨリ自給自足ニヨル附屬施設トシテ建築セシムル目途ノモトニ計畫輔導シアリ。

**農具** (個人農具及共同農具) 開拓農業ノ進展ニ伴ヒ農耕法ノ改善、就中「ブラウ農法」ニヨル營農ノ合理化ヲ目標トシテ各所ニ於テ實驗セラレタル實踐漸ク現レ、滿洲在來農法ヲ以テシテハ到底開拓農業ノ成果ヘ期シ得ラザルコト確認セラレタル現在、在來農法ニ代ル新農法ノ確立輔導ハ焦眉ノ急トナレリ。依テ公社ハ新農法ニ立脚セル農具ノ整備計畫ヲ樹立シ、建設、營農ノ進度ニ即應セシメ可及的速ナル營農ノ確立——一〇町步完全經營促進ノタメ僅少部分ヲ在來農具ニヨリ、基本的ニハブラウ主體トセル一連ノ組合セ農具ヲ整備セリ。而シテ耕馬タル日本馬ノ配給關係ヲモ併セ考ヘ「ブラウ」一連ノ農具使用ヲ第一年度ニ於テハ國全體ヘ試驗的ニ實施シ、第二年度以降漸次組數ノ整備ヲ計ラシムル如ク計畫シ、其ノ爲テ農具費ノ増加ヲ認メ新農具ノ一齊普及化ヲ計ル如ク措置セリ。

共同農具ニ關シテハ改良農具ニシテ共同使用ヲ有利トスルモノヲ選定シ個人負擔額ノ輕減ヲ計ルト共ニ營農ノ共同の運營ノ有利化ヲ目途トスル如ク計畫セリ

**畜** 畜 家畜ハ耕耘、運搬用トシテ日本馬一戸當リ二頭、肉役牛二戸當リ一頭、小家畜ハ主トシテ成豚二頭ヲ整備セシムルコト、シ建設期ノ勞力關係、一〇町步經營ノ自力化、滿洲農業ノ特異性タル有畜農業ノ高度化等ヲ考慮シ、漸次増殖、管理ノ合理化ニヨリ家畜保有量ヲ増加セシムルコトニ留意シ計畫輔導シツ、アリ。

**(ロ) 公共施設**

**道** 路 基幹道路ニ關シテハ滿洲國政府ニ於テ計畫施工セラル、ニツキ開拓地據點ヨリ地區内要所ニ通ズル農道ヲ主體トシテ極力自力ヲモツテ開設セシムル方針トシ資金トシテハ極力節減セリ。

然而道路ハアヲニル發展ノ基礎トナルタメ政府ニ對シ據點迄ノ幹線路(開拓道路)ニツキテハ積極的増補施工方ヲ要望セリ。

**學** 校 學校ハ在滿義務部ノ依託ヲ受テ建築ス。

**電** 話 通信ハ必要不可缺ノ施設ナルモ節減ヲ目途トシ基本部落間ノ簡單ナル施設ヲナサシムルコト、セリ。

**防備施設** 防備施設ニ關シテハ治安不良地區ニ重點ヲ指向シ公社ニ於テ其ノ構築ヲ代行、部落ノ建設ト併行シテ之ヲ完成セシムルコト、セリ。施設ノ形態並ニ規格等ハ開拓地警備要領ニ準據スルモ治安概ネ良好ナル地區ニシテ營農ニ支障ヲ來ス虞アルモノニ限り一部落ノ收容戸數ヲ若干減少シ得ル如ク措置セリ。



備武備ノ整備、警備ニ關スル教育訓練ニ關シテモ關係機關ニ協力シ平戰兩時ニ於ケル開拓地警備ニ遺憾ナカラシムル如ク努力シテアリ。

(ハ) 本部施設

本部施設ハ極力節減セシメ先遣隊共同宿舍ヲ利用セシムル方針ヲトレリ。從來本部各施設ニ重點ヲ置キタル傾向多カリシモ、資金資材ノ點ヨリ考へ、直接生産ニ必要ナル物及施設ノ強化ニ重點ヲ置キ附屬的施設ノ冗費ハ極力避ケシムル如ク立案輔導セリ。幹部宿舍ニ關シテモ個人家屋ト殆ンド同様趣旨ヲ以テ計畫シ建築モ簡素安價ヲ目途トセリ。

(ニ) 共同産業施設

加工施設 從來生産力ヲ無視シ稍々企業的傾向ニ趨リ當初ヨリ、精穀、精粉、醸造等ノ産業施設ヲ計畫シ、爲ニ徒ニ莫大ナル資金ヲ投下シ團全體經營ハモトヨリ其ノ生産之ニ伴ハザル傾向アリシヲ遺憾トシ、加工施設ニ付テハ自給量ニ要スル精穀機器ト醸造ニ用フル若干ノ機器ノミヲ主トシテ計畫セリ。嘗テ迄モ無ク團ノ營業確立シ農業生産物ノ生産量増大セバ之ニ比例シテ之等ノ加工量モ増加シ施設ノ完備ヲ必要トスルニ至ルモノナルガ、カ、ル施設ノ經營ハ自給ノ原則ニ立テテ進展強化サル可キモノナリ。依テ定メテラレタル限度アル資金ノ有效適切ナル使用計畫ニ立脚シ生産力ト自給トノ關係ヲ考慮シ施設セシムル如ク計畫セリ。

(ホ) 共同宿舍施設

共同宿舍施設ハ入植當初ノ假設本部の使命ヲ有スル施設ニシテ出來得レバ將來共本部事務所トシテ利用スル如ク考慮シ、ソノ位置構造ニツキ部落計畫、農村全體計畫ノ立場ヲ主トシ經費消耗ヲ少カラシムル様計畫輔導セリ。

(ヘ) 運輸計畫

近來ノ入植地ハ最寄群ヨリノ平均距離數十軒以上ノ所多ク、甚シキハ百軒ヲ超エル地域アリ。依テ運輸方法、機關ニハ特ニ考慮ヲ拂ヒ、運輸機關ノ確保整備、經費ノ節減ノタメ「トラック」又ハ大車ヲ適宜組合セ、極力建設ノ圓滑化ヲ企圖セリ。而シテカク特別ノ考慮ヲ拂ヘルニモ拘ラズ、「トラック」有

(ト) 農耕計畫

開拓村ノ建設經營ハ農業經營計畫ヲ基礎トシテ計畫運営ス可キハ自明ノ理ナリ。從テ營農ニ關スル基本計畫並ニ入植初期ノ建設ト農業經營トヲ如何ニ合理的ナラシムルカノ問題ノ計畫處理輔導ゴソ公社ニ與ヘラレタル重大責務ニシテ、近時開拓増産問題ガ開拓地農業ノ中心課題トナリテヨリ特ニ本計畫ノ樹立ニハ各關係箇所ト緊密ナル聯繫ヲ取リツツ之ガ確立ニ努力シテアリ。

農耕計畫立案ニ際シテハ、適地適應ノ農村全體計畫ニ立脚シ如何ニ展開セシムルカ、可及的速ニ所與ノ面積ヲ完全耕作セシムルニハ如何ニスベキカ、而シテ營農ハ建設ノ進捗如何ニヨリ決定セラル、點ヲ考慮シ建設計畫トノ連繫ヲ如何ニスベキカ等幾多ノ關聯ヲ有スル問題アリ。滿洲開拓政策基本要綱及開拓農場法ハ自作自營ノ精神ニ則ル家族の勤勞ヲ經營ノ基礎トスベク明示セルモ、現地ニ適應セル經營ノ規模、様式ノ決定ト其ノ輔導ニ關シテハ劃一的端のニ其ノ方向ヲ決シ難ク、困難千萬ト謂フヲ得ベシ。然モ現下ノ資金、資材、勞動力ノ不足ヲ克服スル方途ノ確立ニソノ焦點ヲ置キ且既ニ得ラレタル經驗、研究、試驗ノ結果ヲ綜合シ、基本要綱ノ趣旨ニ則リ、營農重點主義ヲ以テ生産力擴大ニ重心ヲ置キ適切妥當ナル計畫ヲ以テ臨メリ。

特ニ開拓農業ニ於ケル基本問題タル耕作法ノ問題ニ關シテハ、「ブラウ」農法ヲ主流トセル滿洲開拓農法ノ確立ト其レガ普及ニ努ムルト共ニ、家畜ヲ採入レタル所謂混同農法ノ方式ヲ極力普及徹底セシムル要アリ。依テ公社ハ經營計畫ノ樹立輔導ニ當リテハ以上ノ如キ點ヲ考慮シ、地域別營農型態様式ノ確立、年次別經營計畫、年次別家畜養育計畫(何レモ建築計畫ノ關聯性ニ於テ)等ニ關シ可及的營農ノ早期確立ヲ企圖シ、自家勞力ヲ以テ所定ノ一〇陌ヲ完全耕作シ、生産力擴充強化ニ協力セシムル如ク、其ノタメ勞力、畜力、農具等ニ關スル營農基本財ノ早期整備ニ留意シ、一意専心營農ニ精進セシムル如ク考慮シ計畫輔導シテアリ。

(二) 資金資材計畫

資金資材計畫ニ當リテハ最少限度ノ資金資材ヲ以テ最大ノ效果ヲ擧グル様適切有效ニ處置スル要アリ。依テ公社ハ開拓農村創造ノ資金資材ニ關シテハ、其ノ使途ニツキテモ重點主義ニ則リ合理的活用ヲ計畫實施シテアリ。

(イ) 資金計畫

資金ニ關シテハ營農型態、方式ト其ノ所得額、生計費等ヲ考察ノ上適正資金ヲ決定シ其ノ使途方法ハ漸次經營ノ進展ニ即應シテ爲サ



シムル如ク考慮シ、直接農業ノ經營資本タル家畜費、種子費、農具費等ニ重ク、家屋費其他ノ施設費等ニ輕クシ、建設及團全體ノタメニ要スル公共的建築並ニ經費ハ團全體ノ發展ニ併行セシムル如ク資金ノ限度ヲ決定セリ。

團ノ資金ハ固定の資金ト流通の資金トニ大別ス。固定資金ハ農村建設、農業經營ノ創設費トシテノ建物、農具、役畜其他施設等ニシテ、流通資金ハ團運營ニ要スル資金並ニ各個營農ニ要スル費用トス。團ノ建設經營ハ其ノ基本的計畫ヲ基礎トシ、適當ナル資金ヲ以テ具體化スベク實施スルモノナレバ、飽迄モ基本計畫ノ誤ラザル樹立ヲ必要トス。前節ニ於テ基本建設經營計畫樹立ノ方針ヲ述ベタルモ、該根本方針ハ常ニ之ヲ運營シ得ル資金ヲ見透シ、資金トノ完全ナル一致運營ヲナシ得ル場合ニ於テ初メテ有效適切ニ具現セラル、ニ至ルモノナリ。公社ハ團ノ建設經營基本計畫ニ協力シ、標準トナル可キ方針ヲ各團ニ指示シ、建設經營ノ萬全ヲ期スルト共ニ、之レヲ前提トシテ相互不可分關係ヲ有スル適正資金計畫ヲ以テ將來ヲ見透シ、現狀ニ即應セシムル如ク措置ス。固定資金ノ大サ、限度及其ノ使途ハ勿論、流通の資金ニ關シテモ團發展程度ト配ミ合セタル適當額ヲ計畫シ、基礎建設ニ支障ナカラシムルト共ニ、營農、團ノ運營——即チ村ノ發展ヲ促進セシムル如ク計畫シアリ。

(口) 資材計畫 資材ニ關シテハ極力所要資材ヲ安價ニ整備シ建設、經營ニ遺憾ナカラシムル如ク措置シ、特ニ現地ニ於テ自給シ得ルモノハ全面的ニ利用スル如ク計畫セリ。出來得ル限り現地資材ノ活用ニヨリ安價、便利且經濟的ニ其ノ建設ヲ進メシムルト共ニ資材ヲ以テ資金ニ代ヘ、資材ノ配給ト其ノ合理的運營ニヨリ冗費ヲ節減シ、建設ヲ促進セシムルヲ主目途トシアルニヨリ特ニ資材計畫トシテ特記セルモノナリ。

現時ノ狀況ハ金アリテモ物ナク、資材ノ窮屈化、不圓滑ハ今更冗言ヲ要セザルトコロナリ。依テ、必要不可缺ノ要素——即チ建築、營農ノ爲ノ農具、耕馬等ハ如何ニ準備資金トシテ用意計畫サレアリト雖モ之等ヲ「物」トシテ具備セシムルコト能ハザル場合ハ所謂計畫倒レニ至ルハ必定ノ事ニシテ、一應資金ヲ準備トシテナサレタル計畫モ直チニ資材ニ代ヘテ之レガ實施ニ遺憾ナキ場合ニノミ初メテ其ノ計畫ノ妥當ヲ證ス可ク、斯ル意味ニ於テ公社ノ資材計畫ニ關スル努力ハ又格別ト云フヲ得ベシ。特ニ資材不足ヲ示セル現在、滿洲現地ノアラユル資材ヲ其ノ儘利用シテ生カシムル計畫ヲ立テ、例ヘバ個人家屋ノ如キモノニ在リテモ現地ノ土類、羊齒類、柳條類等ノ活用ヲ企圖シ、滿式三間房子ニ規定セル等、資材計畫ニ關シテハ極メテ慎重ニ考慮計畫ノ上實施シツ、アリ。

(三) 融資計畫

農村基本建設經營計畫ノ基礎タル融資計畫ノ基準決定ニ付キテハ「開拓金融公平ノ原則」ヲ擧ゲザル可カラズ。即チ公社ノ融資ハ限ラレタル地區又ハ特定開拓團ノミヲ對象トスルモノニ非ズ、開拓農民ノ往々處如何ナル僻遠ノ地ト雖モ開拓金融ハ常ニ隨行スルモノニシテ開拓事業ノ完遂ヲ目標トシタル大乘の見地ニ立脚シテ公社ノ全體的資金計畫ハ樹立セラル、モノナリ。

從テ金融ノ公平ハ資金ノ劃一配分ヲ意味スルモノニ非ズシテ各開拓團各々ノ立地條件ニ應ジ建設經營計畫ノ遂行ニ必要ナル資金ハ必ズ與ヘラル、モノニシテ資金ノ恩典ヲ平等ニ均霑セシムル方針ノモトニ最後のニハ開拓農民ノ負債償還ノ能、不能ノ程度ヲ見極メ決定セラル、モノナリ。農村建設經營ノ衝ニ當リ且其ノ結果ヲ永ク擔フハ開拓團ヲ構成スル團員即チ農民ニシテ、融資金ハ結局ニ於テハ各農家個々ノ負債ヲ形成スルガ故ニ、開拓團ニ對スル融資限度ハ建設經營ニ要求サル、資金總額ト建設完了後開拓地農業經營ノ如何ニ基ク償還能力トノ交叉點ニ見出サル、モノナリ。

斯クシテ決定セラル、融資計畫ハ開拓團ニ取リテハ必ズシモ豊富潤澤ナルモノニ非ズシテ、農村型態ヲ具備スルニ足ル最少限度ノ資金タルニ過ギズ。而モ新シキ開拓農村創造ノ爲ニハカ、ル最小額ヲモツテ家屋、家畜、農具等個人經濟ニ必要ナル生産手段ノ整備ハモトヨリ社會生活ニ必要ナル學校、病院等ノ各種施設ヲモ整備スルノ要アリ。故ニ開拓團ハコノ融資金ノ範圍内ニ於テ建設經營計畫ノ實行ニ當リ各種施設目標ニ對スル資金ノ配分計畫ヲ考究スベキモノニシテ勢ヒ重點主義、能率主義ニ依リ常ニ最小ノ費用ヲ以テ最大ノ成果ヲ庶幾スルノ要アルモノトス。

試ミニ昭和十八年度(康德十年)以降入植各種開拓團ニ對スル標準(最高)融資計畫ヲ示セバ左ノ如シ。

標準融資計畫

種別	第十三次三百戶集團(一戶當)	第十四次二百戶集團(一戶當)
(1) 固定資金	五、五九八	七、九四六
個入資	四、九四一	六、八六八
共同產業施設	一三四	二四九







業務及經理ノ監査ヲ行ヒ組織上事業上全般ニ亙リ積極的ニ輔導ヲナセリ

又實行會ノ活動ハ組合運営ノ中核ヲナスモノナレバ開拓團ノ部落ニ對スルヨリ一層ノ輔導ヲ加ヘ共生同死の部落意識ノ昂揚、共同作業ノ實施、戰勝達成ノ爲ノ増産供出運動展開等ニ重點ヲ指向セリ、尙戰時經營ノ對策ニ關シテモ開拓團同様ニ輔導シツ、アリ

3 事業經營ノ輔導 開拓協同組合ノ事業ハ營農指導、生活指導、信用、購買、販賣、利用、土地、共濟等廣汎ニ亙リ開拓團當時ヨリ充實強化サル、ヲ以テ其ノ經營内容ニ關シテハ特ニ檢討ヲ加ヘ最少ノ勞力及經費ニヨリ最大ノ效果ヲ發揮スベク計畫指導ヲナセリ、而シテ組合ノ事業資金ハ自己資金乃至ハ自給資金ニヨルベク貯金ノ蒐集確保ニ全力ヲ傾注シテ自給自足經營ヲ促進セシムルト共ニ組合員ノ事業專屬利用ヲ要請シテ組合ノ目的完遂ヲ期スベク輔導助成シツ、アリ

尙營農及生活ニ對スル公社ノ指導狀況並ニ生産物販賣及物資ノ斡旋等ニ關シテハ後述ス

4 組合役員ノ教育 開拓協同組合ノ隆替ヲ決スル鍵ハ其ヲ運営スル役員ニ在ルコト言フ俟タサルヲ以テ公社ハ毎年一、二回組合役員ノ講習會ヲ開催シ組合運営上必要トスル基本事項、販賣關係、技術及事務ノ講習等ヲ實施シ其ノ活用ヲ徹底シ居レリ

5 開拓組合ノ輔導助成 開拓團ヲ組織シ得ザル所謂開拓組合(以前ハ自由移民ト稱シ現在分散開拓民トシテ取扱ハレ政府ノ補助ニ倚據セザル五十戸未満ノ團體ナリ)ニ對スル公社ノ輔導助成ノ型態ハ團又ハ組合ト同様ナルヲ以テ茲ニハ煩雜ヲ避ケ省略スルコト、ス

三 開拓聯合會及開拓協同組合聯合會ノ輔導 開拓團又ハ開拓協同組合ノ自興的ニ事業ヲ統括シ且開拓團體ノ生成發展ニ寄與スル爲開拓聯合會又ハ開拓協同組合聯合會ノ設立策出シツ、アルガ、公社ハ之等ニ對シ中央機關トシテノ機能ヲ發揮シ聯合會ノ理事長及職員ハ原則トシテ公社員ヲ派遣又ハ兼務セシメ事業資金ヲ貸付ケ貯金ヲ預入シ指導監査ヲナシ販賣購買等ノ便宜ヲ供與スル等之ガ輔導ヲナシ居レリ

尙聯合會ノ現在數次ノ如シ

- 省開拓協同組合聯合會 五 三江、東安、濱江、北安、牡丹江
- 縣開拓協同組合聯合會 五 鶴立、樺川、五常、珠河、舒蘭
- 開拓聯合會 三七 安東、阿城、巴彥、蕪河、安達、通河、依蘭、慶安、海倫、綏化、通北、克山、勃利、寶清、林口、鶴崗、甘南、訥河、新賓、敦化

盤石、康平、成吉思汗、那吉屯、輝春、嫩江、孫吳、盤山、舒蘭、龍鎮、鐵嶺、五常、珠河、木蘭、延壽、寧安、阿榮旗

四、生産物販賣斡旋ニ關スル輔導 開拓地生産物ノ販賣斡旋ニ付テハ公社定款ニ依リ實施スルコロナルモ開拓地生産主要農産物ハ現行法ニ依レバ交易場ヲ經テ販賣スルヲ原則トス。而シテ開拓協同組合ニ付テハ委託販賣行爲ガ可能ナルモ開拓團ニ付テハ許可ヲ受クルニ非ザレバ交易場ヲ通ズルコトナク販賣スルヲ得ザルコト、ナリ居レリ。開拓増産ノ飛躍的進展ニ鑑ミ之ガ供出過程ノ合理化ニ付テハ考究ヲ要スルコロナルモ現在ノコロ共同作業ニ依ル開拓團體下部機構ノ育成強化ト開拓民手取金ノ増加ヲ目途トシ開拓協同組合ニ付テハ委託販賣ヲ、開拓團ニ付テハ共同出荷ヲ指導普及セシメツ、アリ。昭和十九年度(康德十一年度)ニ於テハ目下之ガ實施中ナルヲ以テ其ノ數量ハ明確ナラザルモ之ガ實施ノ開拓團體ハ各省ニ亙リ相當多數ヲ算シ又其ノ取扱量モ尠カラズ。就中三江省、東安省等先進開拓地ニ於テハ開拓協同組合聯合會ノ指導ニ依リ管内全開拓團ニ付實施中ノ品目モ若干アリ。

- 1 糞煙草 開拓地生産改良種葉煙草ノ販賣斡旋ハ其ノ統制機關タル葉煙草會社ト販賣契約ヲ締結シ全滿開拓地ニ亙リ蒐貨統制、檢收場ノ設置等ヲ實施スルトコロニシテ數量約一、二〇〇萬噸約一七〇萬圓ナリ。
  - 2 羊毛類 羊毛類ニ付テハ畜産公社ト契約シ公社及開拓協同組合聯合會ニ於テ斡旋ヲ實施シツ、アリ
  - 3 綿麻及家畜原皮 綿麻及斃死家畜原皮ニ付テモ夫々統制機關ニ協力シ斡旋中ナリ
  - 4 野菜類其他 開拓地産野菜類、畜産物、林産物、農産加工品其他ニ付テモ公社地方機關ニ於テ之ガ斡旋ニ努メツ、アリ數量金額共ニ莫大ナルモノアリ
- 公社ハ開拓民輔導助成ノ實踐的機關トシテ販賣斡旋社員ノ養成配置、開拓團體ニ於ケル農産物販賣斡旋者ノ養成、農産物檢査技術者ノ養成ヲ實施スルト共ニ各種農産物統制法規、販賣改善、販賣斡旋、農産加工等ニ關スル事務並ニ技術的資料ヲ作成配付シ販賣ノ適正化ヲ圖ル等凡ユル機會ヲ利用シテ開拓團體販賣關係事業ノ指導統制ニ資シ以テ開拓團體生産物販賣部面全般ノ進歩向上ヲ圖リツ、アリ。
- 尙又東安、三江、北安、濱江、牡丹江各省開拓協同組合聯合會ニ於テハ主要開拓地ヲ對象ニ農産物交易場ヲ設置シ管内開拓團體生産物ノ斡旋ヲ實施中ナリ。現在交易場數一一個所取扱糧穀約三萬噸ナリ。同聯合會ノ販賣斡旋ハ野菜類、薪炭類、味噌、醬油、乳酪、其他開拓地生産物全般ニ亙レリ。



五、開拓地ニ關スル一般調査並ニ統計業務 開拓地經營ニ關スル輔導助成ヲ確實ニ行ハシニハ開拓地ノ實態ヲ把握スルヲ前提トナスヲ以テ公社ハ次ノ諸調査ヲ實施セリ

1 開拓地農業經營、農家經濟調査

開拓地ノ農業經營並ニ農家經濟ノ實態ヲ把握シ地域的營農方式確立ニ資スルト共ニ生産力擴充ニ關スル研究資料ヲ獲得スベク昭和十二年(康徳四年)ヨリ全滿各地域ノ古年次開拓團ノ中堅農家ヲ調査對象トシ施行シツ、アルモ本年ハ記帳者數二、四三〇戸ヲ算セリ。本調査ハ右ノ趣旨ノ外ニ記帳農家ヲシテ記帳生活ニヨリ自力更生ノ氣運ヲ醸成セシムルト共ニ記録ノ成果ヲ自己批判シ以テ農家經營、農家經濟ノ向上發展ニ寄與セシムベク記帳農家講習會ノ開催、巡回指導等ヲ加ヘ開拓農業確立ニ努メツ、アリ。

2 開拓團臺帳ノ設定

開拓團並ニ開拓協同組合ニ對シ一團一冊トシテ五ヶ年ヲ一期トセル臺帳ヲ作成シ、各出張所、地方事務所ニ所管團全部ノモノヲ常備セシメタリ。

3 開拓地ニ關スル各統計ノ整備

開拓地ニ關スル統計ハ從來開拓總局ト公社ニ於テ夫々調査中ナルモ、今回事務ノ簡捷化ヲ計ル爲、總局ヨリ戸口ニ關スル統計、營農ニ關スル統計調査(農家耕地、作物、農具、家畜、收穫)及ビ開拓増産ニ關スル統計ヲ委託サレ統計ノ一元化ノ下ニ、目下之レガ整備ニ努力シツ、アリ。

第五款 開拓民ノ營農ニ關スル輔導助成

一、農産ニ關スル輔導

一、増産及營農改善ニ關スル輔導助成 戰時緊急ノ要請トシテ滿洲國ニ於ケル食糧増産ト對日寄與ノ意義益々重大性ヲ加ヘ、開拓農民ノ責務完遂ニ對スル期待愈々切實ナルモノアルヲ以テ公社ハ一面建設過程ニアル開拓民ノ特質ニ充分ノ考慮ヲ拂ヒツ、モ更ニ現下緊急ノ増産ニ萬難ヲ排シテ邁進スルト同時ニ此際開拓民ノ營農技術ノ急速ナル確立、生産ノ基本タル各種條件ノ整備、質ノ改善等ヲモ併セ完成セントスル所ニ特別ノ配意ト努力ヲ拂ヒツ、アリ。

即チ本年度營農指導ノ目標トシテ年度當初ヨリ公社全機能ヲ舉ゲテ其ノ徹底ヲ圖リ完遂ニ努力シ來レル所ハ次ノ如シ。  
1、増産供出目標ノ達成

- 2、生産要素ノ充實改善 (耕地ノ擴張、改良、役畜農具ノ整備並ニ完全利用、農作物優良品種ノ普及等)
- 3、營農不振團ノ重點的指導ニヨリ更生促進
- 4、入植年次新シキ開拓團ノ自給態勢確立促進
- 5、生産計畫ノ現地的確立

昭和十八年度(康徳十年)度 増産實績及昭和十九年度(康徳十一年)度 豫想

省 別	昭和十八年度				昭和十九年度			
	作付面積	實收面積	實收量	出荷割當量	出荷量	作付面積	出荷割當量	豫想出荷量
濱 江	二四、九一一	二五、一四〇	五〇、一四六	一四、七八七	一七、二八四	三六、二一〇	三一、二九五	三一、二九五
三 江	四七、七七九	三二、二四〇	五二、七三三	一九、六二二	一七、四九五	六一、二五三	三一、四四三	二二、五三八
北 安	二五、七四二	二二、〇三二	四〇、八四三	七、六六七	七、八九二	三二、七一八	一五、一八三	一四、九四七
東 安	二五、二七四	一九、一一一	五七、五五六	五、四五〇	五、二四三	三四、五三一	一一、四六五	一一、一〇〇
龍 江	一九、五四五	一八、二二〇	二八、一六〇	二、五〇二	二、二四六	二二、六六七	七、七二九	三、三四〇
牡 江	九、九八九	九、五九三	一四、八四九	三、六八五	一、五五七	二二、六〇二	四、六〇二	四、六〇二
吉 林	二〇、一〇〇	一九、七五五	四三、七四九	一七、三五三	一七、二八九	二二、七二一	一一、〇〇九	二、〇〇九
奉 天	一、六六五	二、一二五	三、七五六	三七九	三七七	三、三二九	一、五〇〇	五〇〇
問 島	二、四三五	二、一八六	三、二〇七	四五〇	四八四	四、六六二	一一、一九六	一、一九六
黑 河	四、一八九	三、八〇一	六、〇六四	四一八	一六八	五、六五七	三、〇〇〇	三、〇〇〇
錦 州	三、六九五	二、三四七	一、六四二	三五八	三五八	三、〇〇〇	三、七二一	二、二六六
安 平	五、七四六	五、〇五八	九、七七〇	一一一	二三八	一〇、一八四	二、三八三	一、八一三
四 平	二、九五二	二、五三五	三、六五一	二、一三八	二、一四七	四、九八二	二、五〇〇	三、〇〇〇
通 化	四四五	四〇九	一、一〇七	七〇〇	八七三	六五五	一、〇〇〇	一、二〇〇



安東	一、〇三九	九〇三	一、八二三	一四八	二九二	一、六三六	八〇〇	八四四
總計	一九五、五〇五	一六六、四五五	三一九、〇五六	七五、七七八	七三、九四三	二四一、二〇五	一三八、八二六	一〇三、六五〇

從來實施シ來レル技術的指導特ニ改良農法ノ指導ハ増産目的達成ノ爲ニモ益々緊切ノ度ヲ加ヘ來レルヲ以テ公社ハ之ガ陣容ノ整備ヲ圖ルト共ニ指導ノ徹底ヲ期シツ、アリ。同時ニ各種獎勵事業等モ本目的ニ歸一セシメ可及的統一ヲ圖リツ、アリ。而シテ本年度實施中ノ主ナル獎勵事業ハ左ノ如シ。

(イ) 増産促進事業獎勵會ノ系統的開催

右ニ述ベタル方針ニ基キ本年度獎勵事業ノ中心ヲ増産促進事業共勵會ニ置き、年度當初ヨリ之ヲ指導督勵ト一體的ニ開拓民ノ共勵ニ拍車ヲ掛ケ來リタリ。本共勵會ノ目的ハ一言ニシテ盡セバ本年度増産ノ確實ナル達成ト明年度ノ増産ニ對スル技術的準備ニ遺憾ナカラシムル爲一聯ノ發展の獎勵ノ意圖ニ出デタルモノニシテ、地方事務所、出張所、開拓團ノ密接ナル連繫ニ依リ之ヲ實施シ、其審査項目ハ左ノ範圍ニ及ビ増産及營業改良ノ綜合的達成ヲ企圖シ居ルモノナリ。

- 1 増産及供出成績
- 2 秋耕及堆肥成績
- 3 役畜飼養管理並ニ野干草刈取成績
- 4 農事共同作業ノ實施成績

(ロ) 開拓農業實習農家ノ重點的指導並ニ共勵事業ノ實施

増産ト改良農法ノ普及ハ開拓地ニ於テ唇齒ノ關係ニ在リ、而シテ家族勞力ノ未ダ充實セザル開拓初期ノ段階トシテ農耕作業ノ組單位ノ共同實施ハ特ニ必要ナルノミナラズ營業改良ノ全般の指導單位トシテ之ガ育成ノ強化ヲ圖ルハ最モ緊切ナリ。而シテ改良農法普及ノ獎勵施設トシテ昭和十六年(康德八年)來設置セラレタル開拓農業實習農家(所謂四戶組)ハ既ニ現在ニ於テハブラウ農耕法ノ單純ナル技術習得ノミナラズ秋耕、家畜ノ増飼及堆肥ノ施用等經營技術ヲ相競フト共ニ強固ナル四戶ノ隣保精神ノ發揚ニヨリ現下開拓地全般ニ着目スベキ好影響ヲ及ボシツ、アリ。右實習農家ノ指導ハ全面的ニ公社現地機構ノ擔當スル處ナルガ、之ガ專續ノ明示ト農家相互ノ自發的研究ニ資スル爲各地方事務所管内ニ於テ夫々之ガ經

(ハ) 集中指導開拓團

營ノ共勵會ヲ實施セリ。  
農法ノ改良ヨリ進ンテ増産及團ノ綜合的經營ニ對スル指導ノ確立ノタメ一昨年度ヨリ設定セル集中指導開拓團ニ對シテハ本年度ハ更ニ各個團ノ立地ニ即セル營業發展ノ五ヶ年計畫ヲ指導樹立セシメ各種技術並ニ經營指導ヲ綜合的ニ實施シ或ハ團内ノ實行會ノ各種共勵ニ對スル助成金ノ交付ヲ爲ス等着々成果ヲ擧ゲツ、アリ。各地方事務所管内ノ標記團名左ノ如シ。

佳木斯	地方事務所管内	第八次	香 蘭	開拓團
牡丹江		第九次	五 河 林	
東 安			哈達河開拓協同組合	
哈爾濱		第九次	裕 德	
北 安		第九次	德 命	
齊々哈爾		第八次	班 代	
札蘭屯		第十一次	三 戶	
吉 林		第十一次	宇 檢	
間 島		集 合	高 鷲	
錦 州		第十次	鯉 城	
四 平	出張所管内	集 合	東 豐 青 森	

二 各種農業技術ノ指導助成 開拓地農業ノ農産部門ニ於ケル技術指導ハ、出張所ニ於ケル改良農法指導擔當社員ヲ増置スルト共ニ或ハ基本農耕法ノ指導ニ又ハ開拓團委託採種團ノ技術指導ニ其ノ他農産加工、貯藏、特用作物ノ栽培等ノ各般ニ亘リ徹底ヲ圖リツ、ア



(イ) 基本農耕法指導

主トシテ北海道ヨリ採用セルブラウ農耕法ノ實地指導社員ハ現在ニ於テ約百二十名ヲ算ヘ開拓民ノ本農耕法ニ對スル習熟程度モ大ニ向上シ本年ノ増産成果ノ良好ナルハ本辦法普及ノ結果ニヨル處與ツテ大ナルモノアリ。

昭和十八年度(康徳十年度)改良農法ノ實施成績ハ日本人開拓民總自作面積約十九萬八千陌ニ對シ不耕起平畦式ヲ含ミ六〇%ヲ示シタルモノナルガ、最近ノ報告ニヨリ凡ソ本年度ニ於テハ完全耕起實施面積ノミニテ全作付ノ約六〇%ニ上リ不耕起平畦式(昨年ト同ジ基準)ヲモ含メル時ハ凡ソ八〇%(調査中)ヲ推定セラル。本年度秋耕ノ實施狀況ヨリ見ル時ハ明年度ノ九割達成(完全耕起ニテ七〇%)モ敢テ至難ナラスト思料セラレ僅カ四年前ト對比シ其ノ普及、進歩ハ正ニ著ルシキモノアリ。

(ロ) 農作物優良品種ノ増殖普及指導

農作物増産ノタメ優良品種ノ普及ニヨル増收效果ハ速效的ニ期待セラル、處ナレバ、公社ハ政府ト緊密ナル連絡ノ下ニ全力ヲ擧ゲテ之ガ遂行ニ當リツ、アリ。而シテ本年度ニ於テハ公社ハ國立原種圃ヨリ原種ノ一括配布ヲウケ之ヲ營農上ノ優秀開拓團農家ニ委託經營セシメツ、アリ。採種圃ハ主要作物十種類經營面積約九二九・四五陌竝ニ馬鈴薯經營面積三百陌ニ上リ、之ガ指導ノタメ昨年ヨリ各地方事務所ニ專任擔當者ヲ配置セシモ本年度ハ更ニ各出張所ニモ專任擔當者ヲ配置シ技術練磨ヲ圖ルト共ニ或ハ採種圃經營管理品評會ヲ地方事務所毎ニ開催セシムル等活潑ナル指導助成ヲ行ヒツ、アル現狀ナリ尙飼料作物並ニ蔬菜種子不足ニ鑑ミ之ガ計畫的採種ヲ圖ルトメ錦州省興城縣並ニ彰武縣ニ約一、二〇〇陌ノ採種場用地ヲ整備シ公社直營ニヨリ本春ヨリ之ガ採種ヲ開始セリ。

作物別、地方別經營面積並ニ收量豫想ハ次ノ如シ。

普通作物委託採種圃經營面積並ニ豫想收量一覽表 (昭和十九年度)(康徳十一年度)

地方事務所名	水稻	陸稻	小麥	大麥	燕麥	大豆	粟	高粱	包米	黍	計
佳木斯	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
哈爾濱	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
計	20,000		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	200,000

地方事務所名	水稻	陸稻	小麥	大麥	燕麥	大豆	粟	高粱	包米	黍	計
北安	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
東安	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
齊哈爾	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
杜爾伯特	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
吉林	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
開通	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
奉天	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
札蘭屯	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
黑龍	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
錦州	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
興安	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
四平	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
安東	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
通化	10,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100,000
計	100,000		100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000



直營採種場經營面積並二種想收量

(昭和十九年度  
康徳十一年度)

所在地名	白 屈 子	沙 渡 所	天 崗	計	備 考
デントコーン	一一一、三三八	五、八四〇〇	一一、〇	一一一、五三八	本年度ハ採種ヲ行ハズ
ルイサローン	六〇、六九〇	四、〇〇〇	一、〇	一一一、〇九〇	
スキートクローバ	一一、〇七		一、五	一一、二二	〃
高 産	四四、五一		七、五	一一、五七	
計	一九九、一八	八四、〇〇	一〇、〇〇	二九三、一八	殆ンド母本養成トス

備考 各欄共右ノ数字ハ面積ニシテ左ノ数字ハ收量ナリ。

(ハ) 農産加工指導

昨年度決定セル地方事務所ニ於ケル専任指導擔當社員ノ技術養成ヲ更ニ反覆實施スルト共ニ、各園個々ノ醸造、精製、或ハ其他一切ノ農産加工ノ技術及加工施設ノ設置指導ニ當リツ、アリ。

又時局ノ進展ニ比例シ愈々重要性ヲ加ヘ來レル馬鈴薯ノ加工處理ニ關シテハ營農技術ノ進展段階ニ應ジ一昨年來特ニ慎重ニ考究セシ處ナルモ、昨年度ノ実績ニ鑑ミ本年度ハ北滿開拓地ニ適應セリト認メラレタル冷凍乾燥ニヨル簡易加工處理方法ヲ決定實施セシムベク所要機器ノ入手配給萬般ノ準備完了セリ。又之ヲ原料トスル粗製アルコールノ自動車燃料トシテノ重要性ニ鑑ミ本年度ヨリ之ガ緊急増産ヲ圖ルベク目下着々準備中ナリ。

二、畜産ニ關スル輔導助成

1 役畜ノ整備 昭和十九年(康徳十一年度)用役畜ノ整備ニ關シテハ前年度ト略同様ナルモ移植馬ノ入植ハ益々制限ヲ強化サレ一時中止ノ止ムナキニ至レルモ現在復活實施中ナリ。移植馬事業ニ關シテハ日本馬事會ハ釜山港到着迄ノ輸送ヲ取扱ヒ揚陸以後ノ業務ハ當社ノ分擔スルトコロナリ。

昭和二十年度(康徳二十二年度)役畜ノ整備ニ關シテハモトヨリ優秀ナル日本馬入植ヲ期待シ居ルモ本年度整備頭數ハ時局ノ關係上希望頭數ヲ充スニ足ラザル狀況ナルヲ以テ已ムラ得ズ不足分ハ在來滿馬及朝鮮牛ヲ以テ之ニ代ヘルコト、セリ。

2 飼 料 農家經營上家畜飼料ノ完全ナル自給自足ヲ計ルハ最大條件ノ一ナリ、依テ基本飼料タル野乾草ノ採取ニ關シテハ數年來特ニ力ヲ注ギ指導シ來レル處ナルガ、自然的竝ニ立地關係等ヨリシテ優良草ノ確保ハ極メテ困難ナル場合尠カラザルヲ以テ、之ガ對策ノ一トシテ昨年度ハ天候ニ支配セラレ易キ時季及場所ニ於ケル調整方法ニ付特別ノ指導竝ニ教育ヲ實施シ且ツ指導目標ヲ樹立シテ之ガ確保ニ萬全ヲ期シツ、アリ。

3 牧 野 農家經營上ヨリスルモ又飼料對策ヨリスルモ牧野ノ重要ナルハ明カナル事實ニシテ、特ニ酪農馬産等主畜型態ヲ採レル開拓園ノ設定ニ伴ヒ益々其ノ重要性ヲ加ヘ來レルニ依リ本年度ハ馬産開拓園指導員ヲ主タル對象トシテ馬政局、開拓總局ト協同主催ニヨリ索倫及ビ三河ニ於テ牧野講習會ヲ實施セリ。

4 家畜診療所

(1) 營農方法ノ進展ト共ニ家畜ノ重要性ハ愈々認識セラレ、ニ至リ之ガ管理成績モ特段ノ向上ヲ爲シツ、アルモ移植日本馬ヲ初メトシ各種家畜ノ急激ナル増加ニ伴ヒ其飼養管理ノ向上竝ニ防疫診療ハ一層重要性ヲ加フルニ至リタルヲ以テ日滿兩國政府ノ援助ト指導ニヨリ設置シタル家畜診療所ハ現下畜産技術者不足ナル折柄益々眞價ヲ認メラレツ、アリ。

昨年度ニ引續キ本年度更ニ十ヶ所ニ分所ノ設置ヲ見、合計三十個所四分所トナリ。之ガ設置概要左ノ通ナリ。

家畜診療所管轄區域一覽表

設置時期	箇所數	設 置 所
昭和十七年度	一一	興榮、千城、鶴立、永安、五道崗、寧安、五常、舒蘭、慶安、通北、甘南。
昭和十八年度	一一	綏遠、龍鎮、盤石、寶清、通河、木蘭、珠河、訥河、成吉思汗、八旗、嫩江。
昭和十九年度	一一	德都、德興、通河、勃利、虎林、鎮賚河、敦化、蒼河、鐵東、那吉屯、大秋、七星。



5 畜牛預託事業 開拓地ニ於ケル畜牛整備ニ關シテハ飼料準備其ノ他ノ關係ヨリ春耕前ノ整備ニ重點ヲ指向シ來リタルモ開拓地ノ擴張ト所要投資額數ノ急激ナル増加ニ伴ヒ所要時期ニ於ケル購買ハ困難ナル狀況ニ立到リ惹ラハ營農上支障ヲ來ス場合モ尠カラザルヲ以テ之ガ充實ノ一方法トシテ昨年ヨリ左ノ開拓團ニ對シ預託ヲ實施セリ、其ノ概要左ノ如シ。

- 一、實施頭數 二歳牛五〇〇頭
- 二、預託先 彌榮、千振、東海、東北、七虎力、香蘭、西彌榮、各開拓團

6 特殊指導開拓團

(1) 酪農指導 立地條件ニヨリ酪農經營ニ依ルニ非レバ農家經營困難ナル地域ニ對シ酪農ヲ採リ入レシメ以テ地力ノ維持増進、營農收支ノ改善、勞力配分ノ合理化及生活ノ向上等開拓農家經濟ノ安定ヲ確保シ増産ニ寄與セシメントシテ昨年二〇箇團ノ酪農團ヲ設定セルモ今年度更ニ、十二箇團ヲ設定セリ。ソノ設定概況左ノ如シ。

省別	酪農團數	設定頭數		備考
		乳牛	牛	
三東	六	二四七		
北	一三	二九〇		
龍	六	四〇四		
計	三二	一、一三一		

(2) 馬産開拓民 馬産開拓民ノ使命ハ牧野經營ヲ主トスル馬産ヲ行ヒ専ラ國防並ニ産業上不可缺ノ馬匹資源地ヲ確立シ優良馬匹ノ保有及生産ヲ爲スコトニ在リ。之ガ目的達成ヲ期スル爲内地馬産地ヨリ育成ニ經驗ヲ有スル開拓民ト優秀ナル蕃殖牡馬ヲ入植セシムルコトヲ前提トシテ昨年度六箇團本年度更ニ五箇團ヲ設定セリ。ソノ設定概況左ノ如シ。

團名	本年度指定戸數	備考
彌榮	四八	部落移行
千野	四八	"
長村	二〇	"
八木	四八	全村移行
金河	一一	"
六道	二五〇	"
四堂	五〇	部落移行
下田	八〇	"
七學	五〇	"
東龍	五〇	新設

7 利用施設 滿洲國政府助成金ノ交付ヲ受ケ之ニ協力指導シツ、アルモノニ左ノ如キモノアリ。

1 養豚模範農家ノ設定 全額政府補助ニ依リ公社之ガ取得配給ヲ實施シ入植後ノ經營輔導ニ任ズ。

年度別	配布頭數		設定箇所
	乳	計	
昭和十七年(康徳九年度)	二六〇	四〇	彌榮、千振、靜岡、茨城、瑞穂、永安、朝陽、黑雲信濃、馬蓮河、哈達河。
昭和十八年(康徳十年度)	一一五	二五	北學田、小山子、老街基、三股流、拉林。
昭和十九年(康徳十一年度)	三七五	七五	大谷、香蘭、瀋河、中川、五福堂、東黑馬劉、輝國、哈達河、南五道崗、班代。
計	七六〇	一四〇	鏡泊湖、五河林、八洲、八千代、信濃。



2 共同育雛場 政府ヨリ建設費ノ内一部補助ヲ受ケ附近開拓團ノ共同施設トシテ設置ス。  
 昭和十八年度設置個所(康徳十一年度)拾ヶ所 郡上、拉法、五福堂、上久堅、七虎力、香蘭、國礎、龍爪、樺林、德安  
 昭和十九年度設置個所(康徳十一年度)拾ヶ所 龍山、南靠山屯、柳樹河、朝陽、東光、清和、七星、馬蓮河、周家營、裕德  
 畜産獸醫技術者ノ養成

(イ) 副職者ノ養成 本養成事業ハ開拓地ノ營農狀況ノ進展ニ伴ヒ愈々重要性ヲ加フルニ至リ中央農事訓練所及呼蘭馬事技術員養成所ニ於テ開拓團員及同子弟ニ對シ養成ヲ實施中ナリ。  
 (ロ) 畜産技術者ノ養成 開拓農民ノ中堅トシテ畜産増産必成ニ挺身スベキ人物ノ養成ヲ目的トシ實務ヲ通ジテ畜産技術ヲ修得セシメンガ爲昨年度ニ引續キ公主領農事試驗場ニ於テ酪農訓練生トシテ主ニ酪農開拓團員ヲ收容養成セリ。

三、造林

(イ) 林野ノ現況 開拓地附近ニ於ケル山林ハ概ネ極度ニ亂伐セラレ加フルニ連年火災ハ山野ヲ覆ヒ幼稚樹ヲ燒盡シ到ル所禿山荒野ヲ展開シ其ノ失ハレタル結果ハ時ニ水害ヲ招キ寒風害ヲ來ス等其ノ損害尠シトセズ。而シテ偶々森林存在スルアリト雖モ遠隔ニシテ自家用薪炭材ニスラ窺乏シツ、アル現況ナリ。從ツテ開拓地綠化運動ヲ展開シツ、アリ。  
 (ロ) 造林計畫 公社ハ夙ニ開拓地薪炭ノ自給自足、耕地防風治水風致ヲ主目的トシテ二十ヶ年百萬戸ノ開拓民入植ニ對シ一戸當人工造林二陌總面積二百萬陌ヲ二十九年度ニ互リ實行セントスル造林計畫ヲ樹立シ之ガ目的達成ニ努メ來レル處、滿洲國政府ニ於テハ昭和十九年(康徳十一年)十月一日農農部訓令第四二二號ヲ以テ「開拓地造林振興要綱」、「報國農場勤勞奉仕記念林並ニ滿洲開拓青年義勇隊訓練所報恩林設定要綱」ヲ公布シ、茲ニ開拓地造林二十ヶ年計畫(實施團數自第一次至第十二次六一〇ヶ團、總面積七三五、四六七陌)ノ初年度ヲ發足スルコト、ナリ之ガ目的達成ノタメ左記事項ヲ實施セリ  
 昭和十八年(康徳十年) 度開拓地造林實績及昭和十九年(康徳十一年) 度開拓地造林計畫

昭和十八年(康徳十年)度實績	昭和十九年(康徳十一年)度計畫
團數 一面積一本	團數 一面積一本
二六八 二、四四〇陌 七、〇四五、九〇〇本	六一〇 七、三五四陌 二九、四一六、〇〇〇本
備考	備考

本計畫ハ開拓地造林振興要綱ニヨル

一、造林指導 造林樹苗ノ配給ヲ圓滑ナラシムルタメ開拓團經營苗圃ノ設置、造林豫定案ノ編成並ニ育苗一般ノ實地指導ヲ行ヒ又植栽手入保護等ノ季節ニハ隨時現地指導ヲ實施セリ。

1 造林集注指導團ノ設定 開拓地造林ノ普及促進ノ一方策トシテ開拓團中特ニ造林ニ熱意ヲ有スルモノヲ選ビ集注的ニ連年繼續シテ造林技術並ニ造林地經營指導ヲナシ開拓地ニ於テ模範的森林ヲ具現シ一般開拓民ヲ指導誘掖スルト共ニ併セテ公社指導陣ノ技術的水準ノ向上練磨ヲ圖リ適確ナル指導要領ヲ把握スルタメ左ノ開拓團ヲ選定シ、施業計畫ノ編成其ノ他造林實施ニ關スル集注指導ヲナシタリ。

造林集注指導團設定個所

地方事務所別	開拓團名	地方事務所別	開拓團名
佳木斯	第七次 七虎力	奉天	第十次 灣甸子富士
東安	第四次 城子河	札蘭屯	第十次 宮崎
牡丹江	第八次 樺林	齊齊哈爾	第七次 北學田
間島	集合 輝春高鷲	北安	第六次 老街基
吉林	第七次 四家房		第十一次 龍鎮河邊

2 造林獎勵事業 開拓地造林ノ獎勵振興ノ一助トシテ各地方事務所單位ニ各管内開拓團ノ苗圃品評會及造林共勵會等ヲ開催スルト共ニ全滿開拓地ニ於ケル優良造林地ヲ選定表彰ヲ行ヒタリ。

3 苗圃經營並ニ造林講習會ノ開催 開拓團ニ於ケル造林技術ノ向上ヲ圖ランガタメ苗圃ヲ經營シ又地方事務所毎ニ講習會ヲ開催セリ。  
 昭和十八年(康徳十年) 度開拓地苗圃實績及昭和十九年(康徳十一年) 度開拓地苗圃計畫



昭和十八年(康徳十年)度実績	面積	八五	備	考
昭和十九年(康徳十一年)度計畫	面積	二八〇	備	考
昭和十九年(康徳十一年)度実績	面積	六二〇	備	考
昭和十九年(康徳十一年)度計畫	面積	三九七	備	考

公社直營苗圃昭和十九年(康徳十一年)度現在

經營個所	面積	備	考
五ヶ所	七四	備	考

開拓地造林施行ニ際シ苗木ノ供給ノ円滑ヲ計ル目的トシ現在、東安、齊々哈爾、北安、佳木斯各地方事務所ニ設置ス、將來逐次各地方事務所一ヶ所程度ヲ開設セントス

二、造林用種苗ノ購入斡旋並ニ配給 造林ニ要スル種子並ニ苗木ノ購入斡旋及配給ヲナシ開拓地造林ノ促進ヲ計リタリ。

二、森林 伐採 開拓地森林伐採ノ目的ハ冬期間ニ於ケル餘剩勞力ヲ活用シ自國建設用材ヲ低廉且確實ニ獲得シ而モ其ノ間團員ノ共同訓練並ニ強固ナル心身ヲ鍊磨スルニアリ。尙之ガ實行ニ際シテハ現下ノ諸情勢ニ即應スル如ク現地ノ實態ニ精査檢討ヲ加ヘ就中不急建設ノ抑制ト金融ノ調整ヲ圖リ時局要請ノ國策遂行ニ邁進シツ、アリ。昭和十八年(康徳十年)度実績及昭和十九年度ノ伐採豫定計畫ヲ示セバ次表ノ如シ。

昭和十八年度(康徳十年)開拓民伐採実績

地方事務所別	總團數	伐採實行團數	總團數ニ對スル實行歩合%	伐採量		豫定ニ對スル實行歩合%	備	考
				豫定數量m³	實行數量m³			
佳木斯	七一	四七	六六	一三、一二〇	一一、四〇八	九七		
東安	七九			八、五二〇	六、三五四	八二		
牡丹江	七九	二八	三五	九、〇〇〇	一〇、二七二	九四		
哈爾濱	九六	三八	四〇	一一、〇〇〇	一〇、二七二	九四		
北安	一〇〇	六〇	六〇	五、〇〇〇	五、八九三	一一八		
吉林	九三	二八	三〇	五、四〇〇	五、七五二	一一八		

昭和十九年(康徳十一年)度開拓民伐採計畫

地方事務所別	總團數	伐採實行團數	總團數ニ對スル實行歩合%	伐採量		豫定ニ對スル實行歩合%	備	考
				豫定數量m³	實行數量m³			
佳木斯	八六	一	一一	二五〇	二五〇	一〇〇		
東安	三七	四	一一	一九一〇	一、五六四	八三		
牡丹江	九一	一九	二二	五、七〇〇	五、一〇六	九〇		
哈爾濱	三三	二一	六五	一、八七〇	一、二八三	七〇		
北安	七六	二四	三二	六一、七七〇	六一、七七〇	一〇〇		

地方事務所別	總團數	伐採實行團數	總團數ニ對スル實行歩合%	伐採豫定數量		備	考
				豫定數量	實行數量		
佳木斯	一〇五	七九	七五%	一一、三二〇	一一、三二〇		
東安	一〇五	五六	五四	六、五七〇	六、五七〇		
牡丹江	五四	二四	四四	三、五〇〇	三、五〇〇		
哈爾濱	八五	五三	六二	七、八三〇	七、八三〇		
北安	一一〇	八四	八一	七、九三〇	七、九三〇		
吉林	一〇〇	二二	二二	三、六七〇	三、六七〇		
禮敦	一七	四	二四	八四〇	八四〇		
黑龍江	三一	一一	三五	一、三九〇	一、三九〇		
通遼	二五	一四	五六	二、三三〇	二、三三〇		
合計	六八九	三六三	五三	四六、九二〇	四六、九二〇		

三、製材 開拓地建設用材ノ低廉且圓滑ナル入手ト建設ノ迅速ヲ期スル目的ヲ以テ資材獲得ノ難易配給輸送關係等ヲ考慮シ適當

團ニ對シ簡易製材所(移動式)ヲ設置シ昭和十八年(康徳十年)度ニ於テ一萬七百餘立方米ノ團建設用製材品ヲ調達シ得タリ。昭和



十八年(康徳十年)度末簡易製材所設置狀況次表ノ如シ。

昭和十八年(康徳十年)度末簡易製材所設置狀況

地方事務所別	設置圖數	原動機	大割丸鋸	小割丸鋸	其ノ他	計	備考
哈爾濱	二七	二七	三一	一五	三	四九	
佳木斯	一一	一一	一一	一三	七	三一	
牡丹江	一四	一四	九	一五	一三	三七	
東安	八	八	九	九	四	二二	
北安	三	三	四	二	一	六	
札蘭屯	一	一	一	二	一	二	
吉林	一〇	一〇	一〇	六	一	一六	
合計	七四	七四	七五	六〇	二八	一六三	

四、製炭 近時木炭ノ需要逐年増加ノ趨勢ニアリ。關係當局ニ於テモ之ガ増産獎勵ノタメ各種ノ助成施設ヲ講ジ時局下圓滑ナル需給統制ヲ企圖シツ、アルモ關係勞務者並ニ現地指導者ノ配置意ノ如クナラズ之ガ充足ヲ開拓地ニ期待シツ、アル實狀ニ鑑ミ、率先之ニ即應シ關係勞務指導要員ノ供出其ノ他生産部門ノ一翼ヲ擔フ等國家要請ノ製炭増産運動ノ目的完遂ニ協力スルト共ニ副業收入ノ増嵩ヲ計リツ、アリ。

第六款 開拓民生生活ニ關スル輔導助成

開拓地ノ保健生活其他一般厚生施設ニ關シテハ時局ニ即應對處シツ、夫々關係機關ト密接ナル聯繫ノ下ニ益々輔導助成ノ強化ヲ目指シ實行シツ、アリ。

本年度公社ニ於テ實施セル厚生輔導業務中特記事項左ノ如シ。

一 開拓地農村ノ戰時生活體制ノ確立

- 1 生活技術ノ高度化ヲ意トセル諸講習ハ農閑期ヲ利用シテ各地方別ニ開催、農畜産ノ簡易加工法、寒地衣食住ニ關スル知識或ハ民藝的技術ノ副業化ニ依ル生活内容ノ向上等ニツキ指導シツ、アリ。年間講習會回數三百回程度トス。
- 2 時局認識ノ昂揚 時局認識徹底ノ爲附近皇軍部隊トノ連繫ヲ密ニシ時宜ニ應ジテ講師ノ派遣ヲ乞ヒ講習會ノ開催或ハ畫劇ヲ利用スル等大ニ努力シツ、アリ。
- 3 保健婦ノ活用 特ニ女性指導ニ意ヲ用ヒ今春公社哈爾濱保健婦養成所ヲ卒業セル二十七名中ヨリ七名ヲ選ビ公社各地方事務所ニ配屬シ生活指導ノ各般ニ亘リテ指導強化ヲ圖リツ、アリ。
- 4 開拓同覽板及主婦讀本ノ配布 指導用印刷物トシテ月刊「同覽板」ヲ作製配布スル他主婦讀本トシテ衣食、育兒、共同炊事、托兒所等具體的ニ問題ヲ採上ゲタル小冊子三〇〇乃至六〇〇部ヲ頒布セリ。

二 住居ノ改善指導

昭和十七年以來建築指導ト共ニ住居ノ改善指導ニ關スル地方別講習ヲ實施シ住ヒ方ノ改善ヲ期シ特ニ寒地生活ノ主要部分ヲ占メル採暖保溫施設ニ意ヲ注ギ全滿各地方ニ應ジテ「輔導ノ家」ヲ十一箇所ニ設置シ實物ヲ示シツ、開拓民ノ注意喚起ニ資セリ。

三 開拓民ノ生活擁護

- 1 托兒所及共同炊事ノ實施 本年度ハ特ニ軍事援護措置ニ意ヲ用ヒ、殘留家族ニ依リ營マル、増産達成ニ支障ヲ來サル様特ニ農繁期ニ於ケル托兒所、共同炊事ヲ全面的ニ展開スベク準備セリ。本年度ニ於ケル兩者開設數二百六十ヶ所ニ達セリ。
- 2 義勇隊開拓團ノ産婆養成 義勇隊開拓團花嫁ノ妊産婦相談ニ關シテハ特ニ應召者單身主婦間ニ希望者ヲ募リ新京・奉天二病院ニ於テ産婆技術ノ短期見習制ニ依リ技術ヲ習得ヲ爲サシメ自團解決策ヲ講ジツ、アリ。
- 3 乳幼兒哺育相談 乳幼兒哺育相談ニ關シテハ保健關係事業ハ概ネ開拓保健團ノ擔當スル處トナリテ以來相互連繫ノ下ニ絶エズ側面的協力ヲ續ケ前記女子保健社員ヲシテ巡回哺育ノ相談ニ應ジツ、アリ。



4 夏期慰問隊ノ派遣 夏期現地慰問ニ關シテハ關係機關ト協力映畫、演藝隊等ノ巡回公演等ヲ實施シアリ。

四 開拓地主婦會ノ育成

開拓團ノ營農進展、増産必成ノ推進體トシテ部落實行會ノ主婦班活動ヲ活潑ナラシムル爲主婦會結成ニ意ヲ注ギ、公社各地方事務所配屬厚生擔當者ヲシテ各開拓團ニ對シ主婦會ノ實踐目標ヲ明示シテ巡回セシメ團内ニ自興的結成ノ氣運助成ニ努メツ、アリ。本年結成ヲ見タル主婦會數ハ大略二百團ニ及ブモ更ニ今冬期間中ニハ全團數ノ半數以上結成ノ目標下ニ督勵シツ、アリ。尙部落内主婦會指導者ノ養成ヲ企圖シ時局認識及生活技術等ノ下部浸透組織體トシテ中堅主婦鍊成會ヲ開催人材ノ養成ニ當リツ、アリ。

第七款 朝鮮人開拓民ニ關スル助成輔導

一 農村建設ニ關スル輔導

朝鮮人開拓民ノ入植ハ集團、集合、分散ノ型態ヲ以テ行ハレ更ニ集團ハ原則トシテ分村、分郷ノ型態ヲ行ハレコトハ日本内地人開拓民ノ場合ト相異ナルモノニ非ズ其取扱モ概ネ之ニ準ジ居ルヲ以テ開拓地ノ建設ニ關スル輔導ニ於テモ其方針ハ大略同様ナルモ具體的內容ニ於テハ若干ノ相違アリ。

即チ入植ニ關シテハ朝鮮人開拓民ハ集團ニ於テ素質優秀ナルモノニ付テハ必要ニ應ジ内地人開拓民入植ノ如ク先遣制度ニ依ルモ大部ヲ占ムル集合開拓民ハ一般ニ同時入植ナルタメ耕主建從ノ立前ヨリ入植初年度ノ建設ハ原則トシテ入植前年末迄ニ全面的ニ公社之ヲ代行スルコトニ努力シアリ。

- (1) 開 墾 朝鮮人開拓民ニ對スル耕地割當面積ハ未ダ適正規模面積ノ決定ナキタメ一應戶當畑換算六町歩ヲ標準トシ入植初年度ハ戶當耕作目標ヲ二町歩トシ内〇、五町歩ハ入植後開拓民ノ自力開墾トスルモ一、五町歩ハ請負開墾ヲナサシメアリ。
- (2) 個人家屋 滿式家屋トシ一棟五〇平方米二戶住ヒトシ初年度ハ戶當四分ノ一棟ヲ建築シ共同ニテ使用セシムルモ次年度ニ於テ二分ノ一棟トスル如ク計畫シアリ。
- (3) 井 戸 水質ノ良否水量ノ多少ハ農家ノ生活ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ之ガ調査計畫ニ慎重ヲ期スルト共ニ鑿井費等ヲモ併セ勘案シ概ネ二〇戶ニ對シ一眼ヲ標準トシテ計畫シアリ。

- (4) 附屬畜舎 朝鮮人開拓民ノ營農ハ役牛ヲ主體トスルヲ以テ農耕ノ進展ニ伴ヒ益々其増殖力必要トサル、ニ付キ牛舎ノ建築ヲ爲シツ、アリ。
  - (5) 農 具 増産上將又營農ノ合理化ヲ期スル上ニ於テ改良農法ノ急速ナル滲透ヲ圖ル必要アルニ鑑ミ鮮農ノ農法慣習技術等ヲ勘案シ一應四戶一組ノ改良農具ヲ整備セシメルコト、シ營農進度ニ應ジ其割合ヲ勘案ノ上六町歩完全耕作ノ促進ニ努メツ、アリ。
  - (6) 畜 畜 朝鮮人開拓民ノ營農ニハ畜牛ノ整備ヲ不可缺ノ條件トスルヲ以テ入植當初ノ建設期ノ勞力關係等ヲ勘案シ入植初年度ニ於テ戶當〇、五頭、一二年度ニ於テ〇、五頭、計戶當一頭ヲ整備セシムルコト、シ更ニ豚ヲ二年度ニ於テ戶當一頭計二頭ヲ整備セシメ漸次其増殖ヲ圖リ有畜農業ノ確立ニ努メツ、アリ。
  - (7) 公共共同施設 施設內容方針ニ付テハ概ネ内地人開拓民ノ場合ト同様ナルモ其規模ニ於テ相違アリ、學校ニ付テハ其管轄ヲ滿洲國政府トシ未ダ義務教育制度ヲ施行シ居ラザルモ其建築ハ開拓民ノ負擔能力ヲ考慮シ可及的補助金ノ限度ヲ以テシ逐次開拓地ノ發展充實ニ應ジ、理想的施設トナス様輔導シアリ。
- 産業施設トシテハ精穀施設トシテ自給程度ノ精穀場ヲ設ケ臺秤、倉庫ヲ施設シ畜産施設トシテ種畜、畜舎、器具、井戸ヲ施設シアリ。

朝鮮人開拓民戸口一覽表

(昭和十九年〔康德十一年〕六月末現在)

型 態	計 畫 戸 數	現 在 戸 數	人 口	備 考
集團開拓團	七、二〇八	四、七三一	二四、六五〇	
集合開拓團	六、八六三	五、三六九	二九、八九九	
開拓興農會	五、八九〇	五、二五四	三〇、四七二	
安全農村	三、一九四	二、七二八	一五、八九六	
養勇隊開拓團	一九〇	一二七	一六一	
總 計	二三、三四五	一八、二〇九	一〇一、〇七八	



昭和十八年度(康徳十年度)増産実績及昭和十九年度(康徳十一年度)豫想

省別	昭和十八年度		昭和十九年度	
	作付面積	實收面積	實收量	出荷割當量
濱江省	三、二四二	三、〇〇三	三、二〇一	四、二〇五
三江省	三、一七六	二、三二三	四、五七五	三、四一四
東安省	一、四六六	六、五二五	六、四一九	一、二〇六
龍江省	四、四九一	三、八六二	六、四四二	一、六七四
牡丹江省	一、七七七	二、一九一	三、二四九	二、〇九八
吉林省	二、三〇六	一、〇四四	一、八二八	一、二五〇
奉天省	二、五〇六	一、三二二	一、三二九	三、八八一
黑龍江省	四、三八五	四、三二九	六、二九五	二、一三三
錦州省	五、三三九	六、四二二	六、二二	三、三二二
興安省	二、三六七	二、二〇三	一、二八三	五、一九
四平省	二、二六	二、二	八	五、一五五
通化省	三、四六一	三、四九九	五、一四四	三、一五五
安東省	五、五六	四、七六	七、三八	三、一五五
計	四五、〇九八	四三、三四〇	五三、〇九三	二四、一四一

(1) 種別 朝鮮人開拓民標準資金計畫  
三〇〇戸集團(一戸當)  
二、三九〇

種別	金額
個人施設	一、九三九
共同施設	九四
公共施設	二九〇
特殊施設	六七
流通資金	一、九八三
生計費	三、一七
運賃	一、四二六
住宅費	一〇〇
移住費	一四〇
融資金	四、三七三
政府補助	五〇〇
政務費	二、〇六一
差引	一、八一二
利息	八二二
正味	二、六三五

二 開拓地經營ニ關スル輔導

集團開拓團ハ團法ニ準ズル團組織ナルヲ以テ團經營ニ付テハ日本内地人開拓團ノ場合ト異ル所ナキモ團自治能力未ダ薄弱ナルモノアルヲ以テ特ニ濃厚ナル輔導ヲ必要トシ經營計畫ノ確立、開拓民ノ輔導誘掖其他全般ノ格段ノ協力ヲナシ開拓民ノ安定並ニ福利増進ニ萬全ヲ期シツ、アリ。

而シテ朝鮮人開拓民ハ大部ヲ占ムル集合開拓地ニ付テハ公社ハ從來通り社員ヲ現地ニ配置シ經營輔導ニ遺算ナキヲ期シ開拓興農會ノ設立ニ協力スルト共ニ其健全ナル育成發展ヲ圖リツ、アリ。

尙朝鮮人開拓地中ニハ土地其他ノ自然體ノ不良乃至ハ天災、治安不良等ノタメ入植後未ダ安定ヲ見ザルモノ若干アルモ之等ノ所謂不



振開拓地ニ對シテハ其原因ノ探究、經營計畫ノ再檢討ヲ爲シ地區ノ更正ニ適切ナル處置ヲ講ジ更生ノ見透シ樹タザルモノニ付テハ部落移轉ヲ敢行スル等抜本的萬全ノ策ヲ講ジツ、アリ。

第八款 其他開拓地建設經營ニ關係アル業務

一、農場及牧場ノ經營

1 機械農場

(イ) 設置目的及設置箇所 滿洲國及公社ノ取得セル開拓用地ノ管理及利用方策ノ一環トシテ差當リ開拓民ノ入植豫定ナキ地ニ設置シ開拓民ノ移住定着ヲ容易ナラシメ、併而國家ノ増産計畫ニ即應セシメ開拓地ノ營農進展ニ對シ嚮導的經營ノ役割ヲ果サシメル爲昭和十四年寧年機械農場(龍江省富裕縣)昭和十五年札羅木得機械農場(興安總省索倫縣)昭和十七年免渡河機械農場(興安總省索倫縣)等ヲ經營セリ。

(ロ) 經營要領 一農場ノ總面積ヲ約六千陌トシ、一農場ノ作付面積ヲ一千陌、別ニ一千陌ノ休閑地ヲ設ケ機械力ヲ主トスル大農場經營法ニ依ル。作付ハ小麥、燕麥、大麥、包米、大豆、根菜及牧草等ニシテ主穀輪栽式農法ニ依リ適宜休閑ヲ行フ。家畜ヲ飼養シ畜産物ノ生産及畜力ヲ使用シ其ノ排泄物ノ利用及綠肥ノ栽培ニ依リ地力維持増進ヲ圖ル。

(1) 農場 用地面積

區分	寧年	札羅木得	免渡河	備考
耕作地	一、五〇〇陌	三、〇〇〇陌	二、〇〇〇陌	
放牧採草地	三、一〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
計	四、六〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	
本年度開墾面積	—	二七五	四〇〇	

(2) 建物施設概要一覽表

名	寧年	札羅木得	免渡河	名	寧年	札羅木得	免渡河
事務所	一棟	三棟	一棟	農具庫	三棟	三棟	二棟
社員宿舍	—	—	—	拖拉機庫	—	—	—
倉庫	—	—	—	調理場	—	—	—
食糧庫	—	—	—	油庫	—	—	—
畜舎	—	—	—				

(3) 工作物施設概要一覽表

名	寧年	札羅木得	免渡河	名	寧年	札羅木得	免渡河
井	六	五	二	貯藏庫	二	二	二
電氣	有	—	—	牧場門	有	有	有
圍籬	有	—	—	正藏	有	有	有
移動家	一	—	—	共同便所	一	—	—

(4) 主要農機具一覽表

名稱	寧年	札羅木得	免渡河	名稱	寧年	札羅木得	免渡河
トラクタ	若干	若干	若干	ツースハロー	二	五	三
ラクタ	若干	若干	若干	カルチパツカ	二	五	三
發動機	三	三	三	グレイド	二	八	四
ブラスハラ	四	八	八	ボテトブランド	一	二	二
スクラ	四	八	五	モテトブランド	一	二	二











(イ) 設置目的及設置箇所 開拓民ノ入植増加ニ伴ヒ家畜需要増大スル現況ニ鑑ミ之ガ改良増殖ヲ圖リ併而開拓民ニ對スル家畜ノ需給調整機關タラシメ優良家畜ノ安價配布ヲナス目的ヲ以テ昭和十五年太平招牧場(興安總省、開魯縣)昭和十六年五道溝牧場(通化省柳河縣)ヲ設置セリ。

(ロ) 經營要領

(1) 五道溝牧場 用地總面積一、七〇〇陌トシ、保管家畜ハ鮮牛二〇〇頭トス。生草期六ヶ月間ハ放牧シ枯草期六ヶ月間ハ舍飼トス。又飼料ハ粗飼料特ニ野干草ヲ主體トシ一部濃厚飼料ヲ給與ス。

(2) 大平招牧場 用地總面積一五、〇〇〇陌トシ、保管家畜頭數ハ次ノ如シ。

在來馬 蕃殖用基礎牝馬 若干頭 種牡馬 若干頭  
 在來牛 蕃殖用基礎牝牛 二五〇頭 種牡牛 四頭  
 種羊 四〇〇頭ニ目標ヲ置キ種牡羊ハ「メリノー」種ヲ供用ス  
 山 羊 種羊ノ一割程度トシ種羊ノ哺乳缺乏其他病畜ノ用ニ供セントス種牡山羊ハ「ザーネン」種ヲ供用ス

年間ヲ通シ全放牧トシ枯草期約二〇〇日ハ粗飼料及濃厚飼料ヲ給與ス。又家畜ヨリ生ズル堆厩肥ニ依リ地力ノ改良増進ヲ圖リ將來ハ飼料ノ自給ヲ圖ラントス。

(ハ) 本年度經營概況

(1) 主要建築物

區分	五道溝	大平招	區分	五道溝	大平招
事務所	一棟	一棟	畜舍	二棟	三棟
宿舍	一棟	一棟	牧舍	二棟	二棟
倉庫	一棟	一棟	舍	二棟	二棟

(2) 用地面積

區分	五道溝	大平招	摘	要
耕作地	一二陌	一五、〇〇〇		
放牧採草地	一、六八八	一五、〇〇〇		
計	一、七〇〇	一五、〇〇〇		

(3) 家畜頭數

區分	五道溝	大平招	計	摘	要
鮮牛	二五五	二五〇	二五五		
在來牛		一五〇	二五〇		
馬		四五〇	四五〇		
羊		四三	四三		
計	二五五	八九三	一、一四八		

四、二龍山特設修練農場ニ對スル助成

昭和十五年(康徳七年度)北安省龍鎮縣ニ創設公社ヨリ經營ヲ日本農村更生協會ニ委託シアルモノニシテ之ガ設置目的ハ日本農村更生協會ノ經營ニ係ル日本八ヶ岳修練農場ノ修練生並ニ日本全國農民道場修練生、農學校生徒等ヲ本農場ニ於テ修練スルト共ニ本農場ニ接續シテ日本八ヶ岳修練農場ヲ圍繞スル農村ヨリノ移住農家ヲ以テ組織スル理想的開拓村ヲ建設シ兩者ノ綜合的經營ヲ圖リ以テ一ハ滿洲開拓ノ促進ニ貢獻シ一ハ前記修練生ノ現地認識並ニ體驗ヲ徹底セシムルニアリ。公社ハ之ガ經營ニ關シ殊ニ施設費ノ融資ヲナシ助成ヲナシ來タリ昨年度ヲ以テ略施設ノ完了ヲ見タリ。



之ヲ融資狀況ヲ示セバ次ノ如シ。

二龍山特設農場融資一覽表

區分	昭和十五年度	昭和十六年度	昭和十七年度	昭和十八年度	計
用地	六八、四二九、九九	二六、〇六六、〇三	七五、一七五、一五	一六九、六七一、一七	
建物	一五、一四六、二九	九八、九九三、二八	六、一一六、一五	一二六、七五五、七二	
機器	三、六〇四、八四	一、五六一、五六	七四七、二〇	五、一六六、四〇	
家畜	三、八〇〇、〇〇	二、八三四、六六	三、九八〇、六七	一二、三八一、八六	
農場經營費	四二、九〇九、六五	一二三、六六四、〇一	三、九八〇、六七	一七〇、五五四、三三	
農務補助金	一三三、八九〇、七七	△八七、九二二、八〇	八六、〇一九、一七	△八七、九二二、八〇	
計		一六五、一九六、七四	一、五〇〇、〇〇	三九六、六〇六、六八	

## 第二節 金融ニ關スル業務

### 第一款 金融業務

公社金融業務ハ、開拓金融ノ特質ニ鑑ミ一般營利金融トハ本質的ニソノ運管ヲ異ニシテ、專ラ開拓國策使命ヲ達成セシムルニ充分ナル開拓村ノ建設經營ヲ目途シ、之ガ所要資金ニ對スル計畫的指導金融ヲ實施ス。

#### 一、金融ノ種別及融資條件

- (1) 基礎建設期貸付金 開拓團ガ入植後基礎建設確立ニ必要ナル資金ヲ融資スルモノナリ。金利率四分五厘、五ヶ年据置トシ、開拓協同組合ニ移行後二十五ヶ年年均等賦償還ヲ條件トス。
- (2) 特殊貸付金 開拓團體（開拓團、組合、組合聯合會、團聯合會）ガ各々ソノ立地及經濟的諸條件ニ應ジ農林、畜産、加工等ノ生産ヲ目的トスル事業資金及運管資金ヲ融資スルモノナリ。金利率六分長期貸付金十ヶ年以内ノ年賦、短期貸付金年度内償還ヲ條件トス。
- (3) 別途貸付金 政府ソノ他ノ補助金ハ年度當初ニ於テ交付セラル、事少ナキヲ以テ、公社ハ別途貸付トシテ豫メ立替融資スルモノナリ。金利率四分五厘年度内償還ヲ條件トス。
- (4) 組合貸付金 基礎建設期ヲ經タル開拓團ガ組合移行後基礎建設未了ノ場合之ニ必要ナル資金ト、組合經營上必要ナル産業施設資金、又組合農家ノ營農資金、本部運管資金、生計資金ニ對シ左ノ區分ニ依リ融資スルモノナリ。
  - 長期貸付金（施設資金）金利率五分十ヶ年以内償還
  - 短期貸付金（流通資金）金利率五分年内償還

#### 二、補助金

開拓團ニ對シテハ、日滿兩國政府ヨリ左ノ標準ニ依リ、補助金ヲ交付セラル。又別ニ滿洲國政府、省、縣ヨリ移植日本馬、厩舎等各



種ノ補助金ヲ下附セラレ、更ニ道路、警備電話、銃器及彈藥ノ現物補助アリ。

昭和十八年度(廣徳十年度)開拓民政府補助金一覽表 (一戸當)

區分	負擔箇所	一般集團		集團		義勇隊集團		分散	備考
		五〇戸地區	一〇〇戸地區	五〇戸地區	一〇〇戸地區	五〇戸地區	一〇〇戸地區		
個別補助	日本	一一二五	一一二五	一一二五	一一二五	九五〇	九五〇	七〇五	一、集團開拓團ニシテ一〇〇戸以上ノ地區ニ對シテハ夫夫五〇戸又ハ一〇〇戸ヲ増ス毎ニ上記相當額ヲ累加補助スルモノトス。 二、農工開拓民ハ一般集團ニ同ジ 三、補充、中小工業移駐工場等ハ夫々別個ノ基準ニ依ルモノトス
渡航費	日本	二五五	二五五	二五五	二五五	八〇	八〇	二〇五	
個人施設	日滿折半	八七〇	八七〇	八七〇	八七〇	八七〇	八七〇	五〇〇	
共同補助	日滿折半	一八八	一八七	一八八	一八七	一八八	一八七		
團本部施設		四六	四五	四六	四五	四六	四五		
共同產業施設		六五	六五	六五	六五	六五	六五		
地區内道路費		七七	七七	七七	七七	七七	七七		
特殊補助	日本	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇		
特殊個別補助	日本	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇		
特殊共同補助	日滿折半	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇		
輔導施設補助	日本	二三一	二三〇	二三一	二三〇				
手當	日本	三九	三八	三九	三八				
施設費補助	日本	三四	三四	三四	三四				
指導農家補助	日滿折半	一、四二三	一、四二二	一、六五四	一、六五二	一、二四八	一、二四七	七〇五	
計		一、四二三	一、四二二	一、六五四	一、六五二	一、二四八	一、二四七	七〇五	

註 右ノ中特殊補助ハ開拓團ノ交通、治安等ノ狀況ニ應ジ個々ニ協議交付セラル、モノナルモ一應標準額ヲ記載セリ。  
又在滿日本人學校組合ヨリハ開拓地ニ於ケル校舍、教員住宅ノ建築資金トシテノ補助金アリ。  
政府ソノ他ノ補助金年度當初ニ交付セラル、事少ナキヲ以テ、公社ハ豫メ立替融資ヲナシ交付セラル、ニ際シソノ返済ニ充當ス。從ツテ特殊ノ場合ヲ除キ補助金ハ公社ヲ經由シ交付セラル。

第二款 預金業務

公社ノ預金業務ハ普通預金業務トハソノ性質ヲ異ニシ、開拓民ニ對シ勤儉貯蓄ノ美風ヲ涵養セシメ、併セテ現金手持ニ依ル弊害ヲ防止シ、更ニ災害ノ場合ノ備荒貯金タラシムル爲メ左ノ預金業務ヲ行フ。

- (イ) 甲種預金 開拓協同組合及聯合會ノ諸積立金、負債償還準備金、其ノ他開拓農村ノ備荒貯金ニシテ、一年以上ノ据置貯金ナリ。金利率六分トス。
- (ロ) 乙種預金 開拓團、開拓協同組合聯合會ノ諸餘裕金ノ當座預リニシテ、隨時受拂ヲ爲シ得ルハ勿論、購入物資代金等ニモ適宜振替充當シ得ルモノニシテ金利率日歩一錢三厘トス。

第三款 經理指導並ニ監査

開拓團、開拓協同組合並ニ朝鮮人開拓民ニ對シ、建設經營ノ計畫的遂行ト其ノ基礎確立ヲ目途トシ、其ノ財政確立ト開拓資金ノ效率的運管ヲ輔導スルタメ經營指導並ニ監査ヲ實施ス。

- (1) 經理指導員養成 公社ハ關係各機關ニ協力シ、日本人開拓團經理指導員、朝鮮人開拓團經理指導員養成ノタメ、夫々哈爾濱、江密峰訓練所ニ於テ講習會ヲ開催シ經理ノ一般原則並ニ開拓團經理ノ實際ニ付指導養成シツ、アリ。
- (2) 現地經理指導 公社ハ社員ヲ派遣シテ各開拓團ヲ巡回シ、少クトモ年一回ハ現地經理指導ヲナシ、尙特ニ經理指導ヲ要スル團ニ付テハ集中的ニ指導ヲナス。
- (3) 經理講習會 地方事務所各出張所ハ主體トナリ各管内開拓團ノ經理擔當者ノ指導並ニ養成ノタメ年數回經理講習會ヲ開催ス。
- (4) 通常各團ニ付少クトモ毎年一回監査ヲ實施ス 經理月報、決算書又ハ一般聴取ニヨリ常時各團ヲ監査スルノ外、現地監査ヲ少クトモ各團ニ付年一回實施ス。

第四款 金融實績



昭和十八年度内地人開拓民ニ對スル金融ハ農産物増産資金ノ積極的融資ニ重點ヲ置キ極力不急資金ヲ抑制節用シ團組合ノ自己資金ヲ活用セシメ以テ資金ノ效率的運用ニ遺憾ナキヲ期シタリ。

又新規入植、先遣隊ニ對スル所要資金ノ繰上配布並ニ既入植團ニ對スル營農建設準備資金ノ繰上融資ヲナシ團建設ノ促進ト團負債ノ輕減ヲ計リ、尙開拓協同組合五十三、聯合會七ニ對シテハ營農施設ノ整備擴充並ニ短期營農資金及事業資金貸出ヲ計リ以テ増産態勢確立ニ積極的協力ヲナセリ。

昭和十八年度内地人開拓民ニ對スル融資実績左ノ如シ。

昭和十八年度(康徳十年度)融資実績表

融 資 種 別	前 年 度 繰 越 額	昭 和 十 八 年 度 融 資 實 績		昭 和 十 九 年 度 繰 越
		昭 和 十 八 年 度 貸 付 金	昭 和 十 八 年 度 回 收 額	
建設期貸付金	一六六、〇二二、三一九	九一、九六三、九一九	二五、五七七、六五二	二三二、三九八、五八六
特殊貸付金	六、五〇四、八一	二、三三七、七五七	一、七四一、四七〇	七、一〇一、〇九八
別途貸付金	二、一七五、〇一一	一、九四二、一四七	二、四〇八、八三二	一、七〇八、三二六
組合貸付金	二二、二八九、七七七	三、七二六、七九五	一、五三六、五四六	二四、四八〇、〇二六
計	一九六、九八一、九一八	九九、九七〇、六一八	三一、二六四、五〇〇	二六五、六八八、〇三六

昭和十八年度回收金ハ補助金ニ依ル回收二、八四一、一五四營農收入其他ニ依ル回收八、四二二、三四六。

昭和十八年度(康徳十年度)預リ金残高ハ六、〇七五、八九一圓ニシテ之ガ内譯左ノ如シ。

- 甲種預リ金 二、七一六、三五四圓
- 乙種預リ金 三、三五九、五三七圓
- 計 六、〇七五、八九一圓

第五款 朝鮮人開拓民ニ對スル金融業務

鮮系開拓民ニ對スル融資ハ從來原則トシテ凡テ個々ノ開拓民ヲ對象トセルモ昭和十五年度(康徳七年度)以降入植シタル集團、集合開拓民ニ對シテハ内地人開拓民同様開拓團法ヲ準用シ、團ヲ對象トシテ實施シツ、アリ。

開拓團法適用以外ノ開拓團ニ對シテハ政府訓令ニ基キ開拓興農會ナル自治團體ヲ組織セシメ同會ヲ經由シテ融資ス。

一、金融ノ種別及融資條件

鮮系開拓民ニ對スル融資ハ左ノ六種ニ區分セラル。

- (1) 開拓民貸付金 昭和十三年度(康徳五年度)以降新規入植セル開拓民並ニ既住鮮農ノ安定ヲ目標トシテ特定地域ニ集結シタル所謂國內集結開拓民ニ對スル建設營農資金ノ貸付ナリ。
- (2) 安全農村貸付金 滿洲事變及北滿水害ニ因ル罹災鮮農ヲ自作農トシテ安定セシムル方策トシテ朝鮮總督府補助金及舊東亞勸業株式會社ニ依リテ集團農村——之ヲ安全農村ト稱ス——ヲ建設シタルガ、其ノ所要建設營農資金及同興農會經營資金ノ貸付ナリ。尙安全農村ハ鐵嶺、榮興、三源浦、河東、興和ノ五ヶ所ニシテ既ニ建設費ノ償還ヲ開始シツ、アリ。
- (3) 自作農制定資金 舊在滿鮮農小作人ノ生活安定ノ爲、自作農タラシムルニ要スル耕地買收費ソノ他ノ貸付金ナリ。
- (4) 別途貸付金 年度内豫算ニ計上セズシテ開拓民ノ突發的事由ニ依リ融資ヲ必要トスル場合ニ於ケル一時立替貸付及ビ政府補助金ヲ引當トスル立替貸付金ニシテ凡テ年度内回收ヲ原則トス。
- (5) 共同貸付金 個人別貸付内容確定ニ到ル迄、共同施設、即チ本部施設、共同產業施設、防備施設、教育施設、地區内道路輸送費等ノ貸付金ナリ。
- (6) 雜貸付金 省縣等ノ要望ニ依リ鮮農關係事業ニ融資セルモノ、外舊東亞勸業當時ノ滿鮮農ノ事業ソノ他ニ對スル貸付金ナリ。

以上六種ノ貸付金ハ從來凡テ現金貸付ヲ建前トセシモ近時ハ物資配給ニ依ル貸付ヲ根幹トシ、現金貸出ハ開拓民ニ於テ現地調辨可能ノモノニ止ムルコト、セリ。

右貸付金ノ融資條件ハ左表ノ通りトス。



種別	償還期間	償還方法	利率	延滞率	保證方法
開拓民貸付金	五ヶ年以内	不均等又ハ均等分割償還	日歩 三、五〇銭	日歩 三、〇五	部落民全員ノ連帯保證
安全農村貸付金	一ヶ年以内	不均等又ハ均等分割償還	日歩 三、三〇	日歩 三、〇五	部落民全員ノ連帯保證
自作農創定貸付金	七ヶ年乃至十五年内	元利均等年賦償還	年 八分	四、〇五	村民全員ノ連帯保證
別途貸付金	一〇ヶ年以内	元利均等年賦償還	年 一割	四、〇	部落毎ニ債務者全員ノ連帯保證
共同貸付金	償還能力ニ應ス	随時	年 三、〇	四、〇	部落民全員ノ連帯保證
雜貸付金	五ヶ年以内	不均等又ハ均等分割償還	年 一割	四、〇〇	部落民全員ノ連帯保證
			同不定 右率	四、〇〇	二名以上ノ連帯保證

二、補助金

昭和十四年(康徳六年)以前ノ入植開拓民ニ對シテハ殆ンド補助金トシテ見ルベキモノナカリシモ、昭和十五年度(康徳七年)度以降入植者ニハ補助金交付セラル。

昭和十八年度開拓民政府補助金次ノ如シ。

(1) 個別補助(日本側單獨負擔)

(イ) 渡航費

一戸當 六五圓

(ロ) 各個施設補助

一戸當 一三〇圓

(2) 共同施設補助(次表ノ如シ)

以上ノ補助金ハ凡テ公社ヲ經由シテ交付セラル。

昭和十八年度(康徳十年度)以降入植朝鮮人開拓民共同施設費補助金表

項目	補助額	三〇〇戸地區 日滿兩國政府同額負擔					備考
		第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	
一、本部施設費	七、五五〇	七、五五〇	三、一六〇	九八〇	九八〇	六、九八〇	
二、共同產業施設費	七、五七五	四、四一五	三、一六〇	九八〇	九八〇	六、〇〇〇	
三、醫療施設	八、〇五〇	四、一三〇	九八〇	九八〇	九八〇	六、〇〇〇	
四、教育施設	五〇、一五〇	二六、一五〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	
五、地區内道路	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	
右計	七八、三二五	四七、二四五	一〇、一四〇	六、九八〇	六、九八〇	六、九八〇	
一戸當	二六一						

金融實績

昭和十八年度(康徳十年度)末鮮系開拓民貸付高ハ

長期貸付金 三三、七三八、四三四圓二七  
 短期貸付金 二五、八七三、二三二圓八七  
 ニシテ合計五九、六一、六六七圓一四ナリ。其細目次表ノ如シ。

金融實績表

(昭和十九年三月現在)  
 (康徳十一年)

種別	貸付戸數	前年度繰越額	本年度貸出額	本年度回收額	残高	一戸當
開拓民貸付金	一七、三二五	二九、二一〇、五七四、四九	一一、四九九、七六四、七九	三、八一三、七四九、八四	三七、八九六、五八九、四四	二、一八七、三九
安全農村貸付金	三、七〇四	三、六八三、〇三六、七九	二、一九五、二三八、一四	七三三、九三四、八六	六、一二八、三三九、九九	一、六五四、五一



共同貸付金	一二五	七、二二五、二九四、〇四	二、六五七、六九四、八五	九七〇、〇〇六、八八	一、七一七、三八三、四七	
養勇隊貸付金	八、六七五	五、九七〇、五一五、五七	六八、三三七、八七	一三、一〇四、〇〇	二五、五三八、三七	
自作農創定貸付金	四	三三四、三三七、一九	二、五九九、〇四三、一四	一、二七九、四八九、七九	七、二九〇、二六八、九二	八四〇、三七
別途貸付金			一六、〇〇〇、〇〇	一六、〇〇〇、〇〇		
雜貸付金			七一、四九五、八八	七七、五八〇、一四	三二八、三五二、九三	
計		四六、四二三、九五七、九八	二〇、一〇七、五七四、六七	六、九一九、八六五、五一	五九、六一一、六六七、一四	

自作農創定貸付金

貸付戸數	創定面積	貸付金額	一戸當創定面積	一戸當貸付金額	備考
九、二五八	四五、一一二反	七、二九〇、二六八、九二	四五反	七八七、四五	

第三節 土地ノ取得及管理ニ關スル業務

第一款 土地ノ取得

公社ノ開拓用地整備ハ舊東亞勸業株式會社ニ於テ買收セル舊東北商租土地約百萬陌ノ土地ヲ公社ノ前身滿洲拓植株式會社ヲ通ジテ承繼セルヲ手始メニ公社設立ト同時ニ重點的ニ促進セル土地整備業務ノ結果昭和十四年（康徳六年）頃迄ニ地價支拂ヲ完了セル約四百七十萬陌、更ニ康徳八年舊滿鮮拓植株式會社統合ニ依リ同社ノ所有セシ約三十萬陌ヲ併セ茲ニ全滿約六百萬陌ノ土地整備ヲ了シ以テ開拓民ノ入植ニ備ヘ事業遂行ニ支障ナキヲ期セリ。

而シテ現在公社ハ昭和十四年（康徳六年）決定ヲ見タル開拓政策基本要綱ニ基キ大量ノ新規整備ハ之ヲ滿洲國政府直接ノ事業ニ讓リ主トシテ用地ノ追加補充ト從前整備地區内ノ未整備地整理ニ業務ノ重點ヲ置キ之ニ政府委託ニ依ル若干ノ新規整備ヲ加ヘ土地ノ效率的利用ヲ期スルト共ニ整備地ノ權利確保ニ萬遺憾ナキヲ期シアリテ本年度豫算面ニ於テハ

追加整備	二二、七五五陌	六、五六〇、七四一圓
整理整備	二二〇、六三一陌	四、一九六、四五五圓

ヲ豫定時局下民心ノ動搖ト地價ノ暴騰等凡ユル惡條件ヲ克服シツ、業務計畫ノ完遂ニ務メツ、アリ。新クシテ昭和十九年（康徳十一年）三月末日現在ニ於ケル社有地ノ總面積（取得後分讓又ハ買收セルモノヲ含マズ）ハ約六百二十萬陌ニシテ其ノ省別、用地別面積並ニ土地代ノ總計ハ次ノ如シ。



省別	用地別	土地面積	土地代價	摘要
三 江 省	日本内地人用地	二、一五九、七七四、八七	三九、四九五、六五五、八二	
東 滿 鐵 道 省	同	一、〇四八、八八七、七四	一三、〇二七、一八一、九〇	
同	朝鮮人用地	一、三七九、六一	四二八、三〇三、八四	
同	日本内地人用地	一七、五三三、三二	一一、八一〇、四三一、九五	
同	朝鮮人用地	二六、四〇一、五七	一、六八六、一八五、三八	
同	日本内地人用地	一、一八三、四一	三三四、一四四、六一	
同	朝鮮人用地	八九、七一八、九二	三、六一七、四八八、一八	
同	小作管理用地	七、〇五五、四九	二〇三、四八三、九〇	
同	日本内地人用地	三二六、六四〇、五六	二、五八〇、九六六、〇一	
同	朝鮮人用地	四二八、五二二、二六	六、九二四、三八四、二八	
北 安 省	同	八六八、五四	二二六、〇三三、七四	
同	朝鮮人用地	三七二、一四二、六八	八、四二八、二一五、八四	
同	日本内地人用地	一、一〇一、七七	一五七、三三三、三六	
同	朝鮮人用地	九七五、七四〇、四九	三九、八二八、〇四〇、三一	
同	日本内地人用地	二五、一五九、八四	七八七、二七二、九六	
同	朝鮮人用地	二九七、五九二、八九	三六、七八〇、五五八、一四	
同	日本内地人用地	一七、一四七、九五	三、八五五、二一六、六四	
同	朝鮮人用地	二、六二六、七三	二、九二二、二九、九六	
同	小作管理用地	六九、五二二、六二	六、二七二、九七六、四二	
同	日本内地人用地	四四八、四	二二、五三七、一五	
同	朝鮮人用地	三、五一八、八五	六七三、〇三二、二九	
同	日本内地人用地	一、二七五、〇八	一、〇七七、一七九、二八	

省別	用地別	土地面積	土地代價	摘要
同	朝鮮人用地	五、二八九、一一	一、八二一、八六一、六七	
同	小作管理用地	一三、四四七、〇〇	三、八二九、九〇一、五四	
同	日本内地人用地	三、四一三、一四	二、八六〇、四八〇、二四	
同	朝鮮人用地	二六、二二三、〇二	三、〇一〇、三八一、八三	
同	小作管理用地	二二九、四	一五、〇二八、五九	
同	日本内地人用地	三、一八七、五九	二、九七〇、一八一、四三	
同	朝鮮人用地	一、九三〇、六四	六七、六一〇、三七	
同	小作管理用地	二、四四八、一九	一、二四五、六一〇、七四	
同	日本内地人用地	一、二二九、三七	四九三、九五四、一七	
同	朝鮮人用地	一、四八九、六六	一四二、二七六、五四	
同	小作管理用地	一、七二三、三九	五四、四三九、三九	
同	日本内地人用地	六、八四八、〇二	六二六、六六四、八七	
同	朝鮮人用地	四三、二八四、六八	一、五〇〇、四二九、八三	
同	小作管理用地	五、八六七、七〇三、六二	一七七、七五四、八五二、八六	
同	日本内地人用地	二〇一、四〇二、五六	一六、七三四、二三二、七九	
同	朝鮮人用地	六九、二五二、六〇	六、二八九、四八五、五二	
同	小作管理用地	六、一三八、三五八、七八	二〇〇、七七八、五七一、一七	

第二款 土地ノ管理

前述公社ガ整備セル土地ハ之ヲ權利内容ニ依リ類別シ所有權及商租權トシ商租權ハ之ヲ取得後商租權整理法ニ依リ所有權ニ轉換審決  
 テレタルモ之等ノ内容ハ建國前ノ亂脈ナル土地制度ニ由來シ權利者及範圍ニ付必ズシモ明確ヲ缺ク憾ナキヲ保シ難ク茲ニ從來該土地ニ  
 付存在セリト認メラレタル總テノ土地權利關係ヲ清算シ新クニ權利及地籍ヲ設定スル爲特ニ土地審定法ノ制定ヲ見タル所以アリ。公社



トシテモ土地權利ニ絡ム種々ノ紛争ハ事業ノ圓滿ナル遂行ニ阻害アルヲ慮リ特ニ左記計畫ニ基キ整備地ノ整理ヲ實施シ其ノ成果ヲ土地審定法ノ審決ニ利用シテ眞ニ確固タル權利ノ確保ヲ圖ルト共ニ引續キ地籍ノ維持ニ萬全ヲ盡シ社有地ノ實體ヲ把握スルコトニ努メ適地調査、團地計畫ノ實施ニ多大ノ便宜ヲ供與シツ、アリ。

- 1 實施期間 自昭和十七年(康德九年)至昭和十九年(康德十一年)三箇年
- 2 實施地域 國境接壤縣及興安各省ヲ除ク四十四縣ニ所在スル社有地。但重要林野ニ編入サレタ地域ヲ除ク
- 3 實施要領 滿洲國政府ガ康德九年三月其ノ國有開拓地ニ對シ訓令シタル「開拓用地ノ整理ニ關スル件」ニ準ジ行フモノトシ所要經費ヲ公社負擔ノ上整理業務ハ之ヲ開拓總局ニ委囑シ國有開拓用地ト併行實施シ其ノ成果ヲ地政總局ニ提出審決ヲ受クルモノトス

而シテ現在迄ノ事業實績ハ一部技術的理由ニ依リ未了ノ部分アリ、若干期間ノ繰延ヲ餘儀ナクセシメラル、箇所アルモ他ハ概ネ所期ノ成果ヲ擧グツ、アリ。

尙土地及土地取得ニ課セラルベキ租稅ハ登録稅、契稅、不動産取得捐、地稅、地稅附加捐及地稅附加費等ヲ算フルモ公社ニ對シテハ「滿洲拓植公社設立ニ關スル協定」ニ依リ右ノ中登録稅及契稅ヲ免ゼラレ更ニ財產稅タル地稅等ニ對シテモ公社ノ特殊性ニ鑑ミ「開拓用地々稅等措置法」ニ基キ其ノ未利用地ニ課稅サレザル恩典ヲ受ケツ、アリ。

土地權利保全ノ立場ヨリ觀タル土地管理ハ前述ノ通ナルモ次ニ小作管理地ヲ對象トセル土地管理業務ニ付テ之ヲ述ベン。

土地管理業務ニ於テ最モ重要ナルハ開拓民入植ニ到ル迄ノ間ニ於テ其ノ土地生産力ノ増進ヲ圖ル爲、凡有施策ニ最モ合理的ナル運營業ヲ以テシ開拓民ヲシテ容易ニ開拓ノ聖業ニ從事セシムルコトナルモ一方公社タル觀點ヨリ之ヲ觀レバ又公社ノ財政的基礎ヲ堅固ニ且強化セシムベキ緊要ナル命題アリ。

即、コレガ爲、其ノ土地生産力ノ維持増進ヲ圖リ戰時下増産ニ寄與スベク萬般ノ措置ヲ講ジ積極的ニ未利用地ノ開發ヲ企圖シ適地適應ノ方策ニ依リ原住民ノ物心兩面ノ安定ヲ基底トスル輔導育成工作ヲ實施シ廢耕ノ防止ニ全力ヲ集中シ其ノ效果見ルベキモノアリ。然シテ開拓機關ヲ打ツテ一丸トセル開拓増産綜合動員計畫ニ則リ公社管理地緊急増産計畫要綱ヲ樹立シ資金資材勞力等ノ諸隘路ノ積極的

打開ヲ圖リ所與ノ使命達成ニ邁進セル結果昭和十九年(康德十一年)七月末現在ヲ以テ七萬二千陌ノ作付ヲ終了シ計畫五萬陌ニ對スル一二〇%ノ好成績ヲ收メタルモ之ニ満足スルコトナクヨリ以上ノ實績ノ獲得ニ邁進中ナリ。

又如上ノ増産ノ一翼ヲ負擔スベク社有地ヲ一般ニ開放シ自給農場ノ設置ヲ認メ以テ熾烈ナル増産意慾ニ拍車ヲカケツ、アリ。

昭和十八年度末(康德十年度末)現在ニ於ケル小作管理面積ハ三二二、一九六陌ナリ。

一、管理狀況

管理地ハ其ノ性質上開拓團ノ入植ニ伴フ管理移讓等ニ依リ遞減ノ趨勢ニアルモ公社ニ於テハコレニ對シ未利用地ノ開發、廢耕防止等ニヨリコレガ維持擴張ヲ圖リツ、アリ。管理面積ハ次ノ通ナリ。

昭和十九年(康德十一年)三月末現在

事務所別	旱水田別		旱田		水田		合計	
	戶數	面積	戶數	面積	戶數	面積	戶數	面積
佳木斯	一六、〇六七	四、五七四	六九一	一、七五四	二、五四四	一六、七五八	四、七五〇	
東安	一一、八六七	三、三〇五	二、七七〇	一、四二九	一、九六六	一四、六三七	三、八七三	
牡丹江	八、三〇四	二、九二四	五五三	八、一五五	一、四四七	八、八五七	三、〇〇五	
哈爾濱	一一、〇〇七	六、二九五	二八六	五、一八〇	一、八一	一一、二九三	六、三、四七三	
齊齊哈爾	一、六八〇	一、三、四〇〇	三八四	八、六五〇	二、二五	二、〇六四	一、四、二六五	
吉林	二〇、三三五	六、五七二	二、一五一	三、九八七	二、二五	二二、四八六	六、九、七一三	
北安	四八三	二、六八九	一〇〇	二、四六八	二、四七	五八三	二、九、三六五	
奉天	二、五八〇	九、三七二	一、八二八	三、八九五	二、一三	四、四〇八	一三、二、六八〇	
間島	三〇七	八、三四五	七四	一、一六〇	一、五七	三八一	九、五〇五	
黑龍江	九四四	四、九八〇	三	二、四〇〇	〇、八〇	九四七	四、九、八二四	
錦州	二二五	一、四二一	三	二、四〇〇	〇、八〇	二二五	一、四、二一七	
合計	一一、四二一	三、七〇	六、三二	一、四二一	七〇	一一、四二一	三、七〇	



興	八八八	一三、〇九三	一、四七	一六一	三二五八〇	二、〇二	八八八	一三、〇九三	一、四七
安	二、三〇七	一一、四七一	四、九七	一六一	三二五八〇	二、〇二	二、四六八	一一、七九七	四、七八
平	七六、九九四	二、九四、二四〇	三、八二	九、〇〇一	一七、九五六	一、九九	八五、九九五	三、一二、一九六	三、六三
計	七六、九九四	二、九四、二四〇	三、八二	九、〇〇一	一七、九五六	一、九九	八五、九九五	三、一二、一九六	三、六三

二、小作契約

小作管理ノ小作契約締結ニ當リ現地各機關ト緊密ナル聯繫ヲ保持スルハ勿論、小作農ヲ規制スル社會經濟的諸條件ヲ勘案シ公正妥當ナル契約方式ノ下ニ公社小作人ノ共存共榮ノ實ヲ擧ゲル如ク留意シ二重小作契約ヲ排除シ直接耕作者ト契約ヲ締結シ居レリ。又立地條件其ノ他ニ依リ特ニ特定團體、特定管理人ヲ委託シ其ノ責任ニ於テ管理セシムルヲ可トスル際ハ其レ等ニ委託セシメツ、アリ。猶其ノ際ニ於ケル管理者ト耕作者トノ間ノ小作契約其ノ他ニ對シテハ充分監督指導ヲナシツ、アルハ言フ俟タザル處ナリ。次ニ小作契約ノ諸條件ニ就テ述ベン。

イ、小作料

小作料 (附當) 昭和十九年度(康德十一年度)

地方事務所別	種別	數量	百疋當單價	金額	備考
佳木斯	大豆	四一八〇	二〇五	九二五	
東安	大豆	三二五	二〇五	七三三	
牡丹江	大豆	二一五	九八	四二五	
哈爾濱	大豆	三〇一	九八	四二五	
齊齊哈爾	大豆	一五〇	九八	二一五	
計		一、一〇九	二〇五	四、一〇〇	

地方事務所別	種別	數量	百疋當單價	金額	備考
吉林	大豆	四一八〇	二〇五	九二五	
北安	大豆	三二五	二〇五	七三三	
奉天	大豆	二一五	九八	四二五	
黑龍江	大豆	三〇一	九八	四二五	
錦州	大豆	一五〇	九八	二一五	
興安	大豆	一五〇	九八	二一五	
計		一、一〇九	二〇五	四、一〇〇	

口、小作料種類

小作料ノ決定ニ際シ前項ノ主旨ニ則リ從來ノ小作慣行ヲ充分調査勘考ノ上公正妥當ナル小作料ヲ決定シ居レリ。公社ニ於ケル小作料ハ穀物建定租代金納制ニシテ猶一部地方ニ於テハ物納、金納制ノ處アルモ小作料金納化ノ趨勢ニツレ漸次金納化ニ進ミツ、アリ

ハ、諸税公課ノ負擔關係

諸税公課ノ内地税、地捐ハ原則トシテ公社之ヲ負擔シ地費、養食費水利費其他ニ關スル負擔關係ハ小作人ノ負擔能力其ノ他ヲ考慮ノ上決定シ居レリ

ニ、契約期間

一年更新ノ小作慣行ハ元來農業生産力ノ擴大發展ヲ期スル點ヨリ考察スレバ不利ナル制度ナルモ公社ニアリテハ開拓民ノ入植計畫其ノ他ヨリ現在一年更新ノ原則ニテ契約ヲ締結シツ、アリ。然レドモ開拓民ノ入植計畫其ノ他ヲ考察シタル上可能ナル範圍内ニ於テ契約ノ長期化ヲ圖リ以テ農業生産力ノ増進ト原住民ノ安定ヲ圖リ居レリ。



三、小作貸付金ノ貸付

總計		四興		錦州		黑河		間島	
計		平		安		州		河島	
合計	小計	穀包	高谷	高谷	高谷	高谷	高谷	高谷	高谷
納	納	米	子	子	子	子	子	子	子
三二一、一九六八三	二九八、九七一六四	一七、八二二二七	三〇〇、二〇〇	一三、四三〇一五	三〇、八一三〇〇	一一、一〇四四八	六、一五六六〇	二一九、三四五五四	三二五、八〇〇
六四、五六四、八六八	六四、五六四、八六八	一〇、一五三、一九七〇〇	二六、五〇五〇〇	六、八五八、九七三〇〇	六、六三三、一四〇〇〇	三、三二八、九八八〇〇	三、三二八、九八八〇〇	三六、八七〇、四一四〇〇	一一九、七四六〇〇
八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	二、〇六一、四四三〇〇	二、〇六一、四四三〇〇	二、〇六一、四四三〇〇	二、〇六一、四四三〇〇	二、〇六一、四四三〇〇	二、〇六一、四四三〇〇	五、五八八、一七九〇〇	一一七、八三六〇〇
四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	八、〇九一、七五四〇〇	八、〇九一、七五四〇〇	六、八三六、九〇九〇〇	六、四四三、七二二〇〇	二、九〇二、三九六〇〇	二、九〇二、三九六〇〇	一一九、七四六〇〇	二七、五〇五〇〇
五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	三、三二八、九八八〇〇	二七、五〇五〇〇
三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	二、七八四、六二二〇〇	六、八、四一五〇〇
三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	二、九三、八〇二〇〇	二、九三、八〇二〇〇

奉天		北安		吉林		齊齊		哈爾		牡丹		東安		佳木斯	
天		安		林		哈		濱		江		安		斯	
金	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀	穀
納	納	納	納	納	納	納	納	納	納	納	納	納	納	納	納
二、三、五八〇、九七九	三、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九	二、三、五八〇、九七九
五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇
八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八	八、四一〇、五五八
四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇	四、六一二、七七〇
五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇	五、六一二、七七〇
三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇	三、一七四、四〇〇
三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇	三〇、五八〇、二〇〇

本、小作契約状況

小作契約ノ状況ハ別表ノ通りナルモ災害ノ減免ニ付テハ常ニ災害ノ防止ニ盡力セシムルモ眞ニ已ムヲ得ザルモノニシテ且不測ナルモノニ對シ其ノ災害ノ七〇%ニ及ブ場合ニ其ノ災害割合ニ應ジ減免ノ處置ヲ講ジ居レリ。

小作契約状況

昭和十九年(康德十一年)三月末現在



小作貸付金ノ貸付ニ付キテハ農家經濟ノ實態ヲ把握シ之ニ對シ適正ナル貸付ヲナシツ、アリ。

イ、貸出標準  
 短期農耕貸付金 附當 旱田 三〇圓 水田 五〇圓程度  
 長期農耕貸付金 實費又ハ現物貸與

ロ、貸付條件  
 村屯又ハ組ノ相互連帶保證

ハ、償還方法  
 短期農耕貸付金 一ヶ年全額償還  
 長期農耕貸付金 三ヶ年以上十ヶ年以内ノ年賦償還

ニ、利率  
 長短期共月利一分

猶昭和十九年(康徳十一年)三月末現在ニ於ケル貸出並ニ回收狀況ハ左ノ通ナリ。

小作貸付金貸當並回收

昭和十九年(康徳十一年)三月末現在

事務所別	長期	短期	貸付年額		計	十年年度回收額	十年年度殘額	十年年度回收額	十年年度實額	未回收額	回收率
			九年度	十年度							
佳木斯	長期	短期	七、七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	八、七〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	五、三〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	100%
東安	長期	短期	一、六〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、六〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	100%
牡丹江	長期	短期	二、八〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	100%

事務所別	長期	短期	貸付年額		計	十年年度回收額	十年年度殘額	十年年度回收額	十年年度實額	未回收額	回收率
			九年度	十年度							
間島	長期	短期	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	100%
吉林	長期	短期	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	100%
奉天	長期	短期	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	100%
齊安	長期	短期	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	100%
北安	長期	短期	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	100%
黑河	長期	短期	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	100%
四平	長期	短期	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	100%
本埠	長期	短期	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	100%
合計	長期	短期	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	100%



四、土地管理收支状況

昭和十八年度(康徳十年度)土地管理收支状況ハ左ノ通ナリ。

土地管理收支決算表

昭和十八年度(康徳十年度)

事務所別	收			支			計	差引純益
	小作料収入	諸収入	計	間接費	直接費	償除却費		
佳木	1,111,000	9,450	1,120,450	1,177,875	579,600	1,011,275	109,175	697,080
東安	1,111,000	1,110	1,112,110	1,177,875	39,966	6,187	1,223,928	110,818
丹江	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
間島	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
吉州	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
錦州	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
奉天	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
哈爾濱	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
齊安	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
北河	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
黑平	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
四社	777,777	777	778,554	6,187	291,777	2,177	901,131	122,577
本計	9,110,100	11,110	9,121,210	1,010,100	3,110,100	1,110,100	4,230,300	5,380,910

五、緊急増産

戦時下農産物増産ノ必要ナルハ言ヲ俟タザル處ニシテ公社ニ於テハ夙ニ開拓用地緊急水田造成要綱ヲ策定、之ガ實施ニ移シ來レルモ

戦局ノ進展ニ伴ヒ益々其ノ必要性ヲ痛感セラレ、ニ至リ昭和十八年(康徳十年)十二月開拓増産綜合動員計畫ノ策定ヲ見、コレニ呼  
應シ公社ニ於テハ滿拓公社管理地緊急増産計畫ノ樹立ヲ見、管理地ノ實態ニ應ジ招致農、小作農疎散者、勤奉隊等ニ依ル凡有機能ト  
總力ヲ結集シ増産ニ邁進シツ、アリ。

昭和十九年(康徳十一年)七月末ニ於ケル作付実績ハ左ノ通ナリ。

公社管理地緊急増産計畫ニ依ル作付実績

昭和十九年(康徳十一年)七月末現在

事務所別	早水田別		計	摘	要
	早	田			
佳木	1,330,600	1,011,000	1,431,700		
東安	3,053,000	3,538,000	6,591,000		
丹江	5,249,000	1,860,000	5,435,000		
哈爾濱	1,672,200	408,000	1,713,000		
齊安	2,520,000	798,000	3,318,000		
北河	1,446,000	798,000	2,244,000		
奉天	3,385,000	852,000	4,237,000		
間島	5,920,000	852,000	6,772,000		
黑平	5,200,000	770,000	5,970,000		
興安	1,000,000	845,000	1,845,000		
四平	3,133,000	845,000	3,978,000		
通化	3,133,000	845,000	3,978,000		
總計	64,885,000	7,155,000	72,040,000		

備考 當初ノ計畫ハ五萬陌ナリ



六、營林事業

社營造林事業ハ戰時下政府ノ要請スル全國緊急造林事業ニ對應スルト共ニ開拓地ニ對スル木材供給對策、農地保護對策或ハ未利用地開發、公社財産ノ造成等社有地管理方策ノ一環トシテモ其ノ緊要性益々加重セラレツ、アルニ鑑ミ社營造林、特設農場造林、特定開拓園造林等夫々ノ特殊性ニ即應シ之ガ目的達成ニ遺憾ナキヲ期シツ、アリ。

尙地籍整理ノ進捗ニ伴ヒ社有開拓用地内ニ於ケル林野ノ歸屬明確トナリタルモノニ對シテハ綜合的ニ社有林野ノ經營ヲ行ハンガタメ從來ノ人工造林タル社營造林事業ノミナラズ積極的ニ天然生林ノ保護撫育造成ニ努メ、是ガ保護ニ遺憾ナカラシムル等昭和十九年度(康德十一年度)ヨリ本格的營林事業ニ着手セリ。

1、事業種別

イ、社有地造林

滿洲國綜合立地計畫ニ基ク開拓民配置方針ト照應シ社有地中ノ開拓民未入植地區ニ於ケル農耕不適地ノ利用開發計畫瘦薄農耕地ノ改良計畫及風害甚シキ地區ノ保護計畫ニ適應セシメントスルモノナリ。

ロ、特設農場

公社特設農場地區内ニ於ケル農場耕地防風林造成ヲ行フモノナリ。

ハ、特定開拓園造林

開拓團入植地ニシテ地味瘦薄又ハ風害甚シキ地區或ハ森林適地廣大ナル地區ニシテ團ノ自力ニテ造林困難ナル土地利用計畫ニ適應スル如ク團ト協力實施シツ、アリ。

二、造林事業実績

(昭和十九年 康德十一年 三月三十一日現在)

事業種別ニヨル実績左表ノ如シ。

事業種別	事務所別	地區別	樹種	計		實		活着本數	比率	
				面積	植栽數量	面積	植栽數量			
社有地造林	佳木斯	鐵嶺山	カラマツ、ド	一五〇	四五〇、〇〇〇	一五〇	四四九、四〇〇	三八一、九九〇	八五%	
	同	日生	ド、ロ、ニ	一〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇〇	四五〇、〇〇〇	三三七、五〇〇	七五%	
	東安	向陽	カラマツ、ド	一五〇	五〇〇、〇〇〇	八七	三五〇、〇〇〇	三一五、〇〇〇	九〇%	
	吉林	神甸	カラマツ、ド、ハンノキ	一〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇〇	二四六、〇〇〇	一一五、六二〇	四七%	
	奉天	五道溝	カラマツ、クロマツ	二〇〇	六〇〇、〇〇〇	一八八	五三二、〇〇〇	二五五、三六〇	四八%	
	同	藍山	カラマツ、クロマツ	二〇〇	六〇〇、〇〇〇	一七四	五一〇、〇〇〇	一七八、五〇〇	三五%	
	四平	長嶺	ド	一五〇	三〇〇、〇〇〇	一五〇	一〇六、五〇〇	一〇六、五〇〇	一〇〇%	
	小計			一、〇五〇	三、〇九〇、〇〇〇	八四九	二、六四三、九〇〇	一、六九〇、四七〇	六四%	
	特設農場造林	齊々哈爾	寧年	ド、ロ、ニ	二〇〇	七六五、〇〇〇	二四〇	七二〇、〇〇〇	五九七、六〇〇	八三%
		札蘭屯	札蘭木得	ド、ロ、ニ	一〇〇	六三、〇〇〇	八	三三、〇〇〇	一九、八〇〇	六〇%
同		免渡河	ド	一〇〇	四、五〇〇	四	一〇、〇〇〇	五、六〇〇	五六%	
小計				二二〇	八七三、〇〇〇	二五二	七六三、〇〇〇	六二三、〇〇〇	八二%	
特定開拓園造林		佳木斯	千振	カラマツ、ニ	六〇	二二五、〇〇〇	六〇	一七九、四〇〇	一四八、九〇二	八三%
		齊々哈爾	大崗	ニ	七五	二七〇、〇〇〇	九	八一、〇〇〇	六四、八〇〇	八〇%
		同	幸昭	ド、ロ、ニ	七五	二七〇、〇〇〇	二七	二七〇、〇〇〇	二四三、〇〇〇	九〇%
		札蘭屯	佛立	ド、ロ、ニ	二八五	一、〇三五、〇〇〇	一七三	七九九、四〇〇	七一二、二五二	八九%
		小計			一、五五五	四、九九八、〇〇〇	一、二七四	四、二〇六、三〇〇	三、〇二五、七二二	七二%

第三款 土地ノ處分

社有地ノ分譲ハ其ノ使用目的ニ從ヒ本來ノ開拓民用地トシテ使用セラル、場合ノ分譲ト開拓民用地以外ニ使用セラル、場合ノ分譲ト



ノ二種ニ分タル、モ前者ニ付テハ開拓政策基本要綱ニ於テ會社ノ所有スル土地ヲ開拓團又ハ開拓民ニ配分スル場合ハ國ニ收容措置スルモノトセル基本原則樹立セラレ更ニ開拓農場法ニ依リ之ガ成文化ヲ見、直接之ヲ實施セズ必要ノ都度國ニ讓渡スルコト、決定セラレタルモノニシテ開拓民ニ對スル國ノ分讓方針未決定ノ現在ハ正式ニ所有權ヲ讓渡スルニ至ラズ暫行のニ開拓團ニ對スル管理移讓處理要領ヲ策定實施シ、開拓團入植地ノ適正移讓ト其ノ境界確認ノ目的ヲ果シツ、專ラ國ノ分讓基本方針策定ニ關シ資材ノ提供、意見具申等積極的ニ之ガ調査ニ參劃シアリ。

尙社有地ハ全滿ニ涉リ廣大ナル面積ニ及ブ爲諸般ノ事由ニ依リ開拓民用地以外ノ目的ニ使用セラル、必要ヲ生ジ來ルハ蓋シ已ムヲ得ザル處ニシテ公社ハ之等諸用地ガ既入植開拓民ノ營農計畫及將來ノ入植計畫ニ支障ナキ限リ時價ヲ基準トシテ分讓シ其ノ要請ニ應ヘツツアリテ昭和十八年度(康徳十年度)末ニ於ケル之等諸用地ノ既分讓面積ハ七三、六九〇陌二六、土地代三、四一三、一二七圓五八ニ及ベリ。

#### 第四節 需品ニ關スル業務

##### 第一款 業務ノ運營

(一) 公社ハ開拓民ノ輔導助成ノ一翼トシテ、ソノ建設、營農、生計ニ必要ナル物資ノ取得配給ヲ需品部及地方事務所需品課其他ニ依リ施行シツ、アリ。貯蔵品ノ取扱品目ヲ開拓團ノ建設經營上ノ重點的物資ニ限定シ一定ノ計畫ノ下ニ需給ノ圓滑ヲ期シ直接的物資ハ重要ナルモノ、ミニ止メ以テ效率的運營ヲ計ルコト、セリ。

##### 第二款 主要物資需給狀況

(一) 昭和十九年度主要物資員計畫樹立ニ當リテハ當局ヨリ需要量ノ枠ヲ指示セラレ之ニ基キ開拓部其ノ他ト協力シテ諸資料ヲ檢討シ公社事業計畫ヲ遂行シ得ルガ如ク確定計畫案ヲ樹立セリ。

(二) 之ガ制當量ハ要請量ニ對シ鋼材五五%、セメント八二%、木材八五%ニシテ當初計畫ノ遂行期シ難キヲ以テ制當量ト在庫量ヲ勘案シ重點集中的配給ノ計畫ヲ樹立シ效率的運營ヲ圖ルコト、爲シタリ。

(三) 主要物資制當狀況及重點事業ニ對スル配給計畫左ノ如シ。

主要物資制當狀況 昭和十九年度(康徳十一年度)

資材名	指 示 量	要 請 量	制 當 量	要請量ニ對スル割合
鋼材	五、〇〇〇噸	五、一五七噸	二、八五〇噸	五五%
セメント	三〇、〇〇〇噸	三一、二七四噸	二六、〇〇〇噸	八二%
木材	三三〇、〇〇〇m <sup>3</sup>	二四九、三一〇m <sup>3</sup>	二一三、〇〇〇m <sup>3</sup>	八五%

主要物資配給計畫 昭和十九年度(康徳十一年度)

資材名	緊急農地甘南地區	一般拓地工事	團 建 設
鋼材	八一噸	七二噸	一、一六噸
セメント	一一、五〇〇噸	四、八四四噸	五、九四六噸
木材	五、二四五m <sup>3</sup>	一六、三四七m <sup>3</sup>	一八七、一九〇m <sup>3</sup>

(四) 物動物資制當ハ取得ニ當リ相當ノ削減ヲ免レズ、尙四半期ノ制當決定シ月別ノ荷捌指圖ヲ受ケタルモノト雖モ往々ニシテ入手不能ノ虞ナシトセズ實行計畫ニ支障ヲ來スヲ免レザル狀況ナリ。從テ之ガ現物化ニ當リ鋼材ニ付テハ現地山麓タル鞍山ニ駐在員ヲ置キ、セメントニ付テハ制當ノ都度各七メント工場ニ社員ヲ派遣シ出荷管轄ニ萬全ヲ期シツ、アリ。木材ノ取得ハ統制材、開拓團自家伐採(六八千餘立方米)及公社直營伐採ニシテ統制材ハ滿洲國ニ於ケル生産ガ不圓滑ナル爲之ガ配給ニ依存スルハ甚ダ危險ナルヲ以テ政府特認ノ下ニ重點ヲ公社直營伐採(一四四千餘立方米)ニ置キ資金ノ前貸、所要資材ノ轉換等ノ便宜ヲ供與シ極力之ガ現物取得ニ努力シツ、アリ。

##### 第三款 一般物資ノ需給狀況



各種物資ノ需給關係ハ益々窮屈化シ殆ンド一切ノ物資ハ擧ゲテ統制ニ附セラレ之ニ對應シ豫メ需要量ヲ十分調査ノ上物動需給計畫ヲ樹立シテ配給ニ齟齬ナカラシメンコトヲ期シタリ。

一五四

(一)(二)(三)

中央統制物資ニ關シテハ需品部資材課、地方統制物資ニ關シテハ地方事務所需品課之ニ當レリ。  
對日期待物資ニ關シテハ東京支社ニ於テ調辨スルモ拓地工業用機器類ノ發註ニ際シテハ努メテ之ヲ國內期待ニ切換フルコト、セリ。  
農機具類 開拓民用農具ニ關シテハ政府ノ策定セル物動ニ基キ統制組合ヨリ製品ノ配給ヲ受クルモノナルモ耕耘機具、一聯改良農具並小農具類ニ就テハ二十二ノ小移駐工場概ネ工場施設完備セルヲ以テ一括公社ト直接ニ連結シ公社名義ヲ以テ統制組合ヨリ資材ノ配給ヲ受ケ公社自體ノ計畫ニ基キ生産セシメアリ。

(四)

本年度農機具整備計畫ハプラオ類約二〇、〇〇〇臺、ハロー類約一六、〇〇〇臺、カルチベーター約一五、〇〇〇臺、畦立器約一〇、〇〇〇臺ナリ。  
尙農機具不足ニ對處セシガ爲移動修理班ヲ開拓地ニ巡回セシメ修理ニ當ラセ又使用不能死藏農具、破損不良農機具ヲ買上ゲ移駐工場ヲシテ修理加工更正セシメ以テ農機具ノ整備ニ資セントス。  
被服及身週品類並材料 被服ハ製品トシテ年間割當ヲ受クルモノニシテ本年度割當ハ内地人開拓民用トシテ三十三種目九十九萬點(原反換算三四〇萬平方碼)既入植朝鮮人開拓民用トシテ本年度ヨリ中央物動ニテ配給ヲ受クルコト、ナリ數量ハ約四〇萬平方碼ナリ。新入植用トシテハ昨年度同様日本物動、朝鮮物動ニ各々捐上割當ヲ受ケタリ。

(五)(六)

被服材料中毛皮、卸等ノ副材料ハ公社ニ於テ取得供給スルコト、ナリ居レリ。  
食糧品ヲ主トスル地方統制物資ノ取得ハ地方事務所需品課之ニ當リ概ネ充足シツ、アリ。  
牲畜類 開拓地ニ於ケル用役畜ノ需要ハ年々増加シ之ガ取得ニ就テハ滿洲國政府ノ割當ヲ受クルモノナルガ滿馬ヲ除キテハ何レモ朝鮮及ビ日本内地ニ期待シ本年度計畫數ハ朝鮮牛五、六〇〇頭、滿馬六、六〇〇頭、乳牛一、〇〇〇頭、綿羊一、六〇〇頭、種豚一八〇〇頭ナリ。尙コノ外種雞、初雞、中雞、蜜蜂ノ取得配給ヲ爲シツ、アリ。  
昭和十九年(康德十一年度)物資需給計畫ヲ示セバ次ノ如シ。

物資需給計畫表

昭和十九年度(康德十一年度)

備考	備	次年度へノ越高	本年度配給高	本年度購入高	前年度ヨリノ越高	新 京		東 京		哈 爾 濱	
						計	家畜	計	家畜	計	家畜
		一、八〇三、二一一	三、一八八、三〇四	三、四二〇、五九七	一、五七〇、九一八	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材
		二八、九八三	二二〇、二九〇	二三一、七五〇	三五、五二三	木 材	木 材	木 材	木 材	木 材	木 材
		一、二三九、三五一	三、七四五、五二四	三、六四〇、九九二	一、三四三、八八三	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材
		二、六一三、六一九	七、六〇九、四五七	七、六九二、九四六	二、五三〇、一三〇	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材
		五、六八五、一六四	四、〇五九、三〇〇	四、〇五九、三〇〇	五、四八〇、四五四	計	計	計	計	計	計
			一八、八二二、八七五	一九、〇四五、五八五		建設資材	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材
		二四、九〇〇	八五五、〇〇〇	八五五、〇〇〇	二四、九〇〇	木 材	木 材	木 材	木 材	木 材	木 材
		一一〇、二七三	二、〇八七、七六三	二、〇八七、七六三	一一〇、二七三	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材
		一四五、一七三	二、九四二、七六三	二、九四二、七六三	一四五、一七三	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材
		四四九、四四一	六一六、六七五	四六八、八六四	五九七、二五二	計	計	計	計	計	計
		九二、〇三九	一、八八九、九二〇	一、八一五、三八五	一六六、五七四	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材	建設資材
		一、〇四七、一四九	三、七四二、九五四	三、〇五六、一六六	一、七三三、九三七	木 材	木 材	木 材	木 材	木 材	木 材
		二、〇八二、〇一六	一、九〇四、六〇九	二、〇七五、五〇三	一、九一一、一二二	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材	生計資材
		三、六七〇、六四五	八、九六四、五五八	八、二二六、三一八	四、四〇八、八八五	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材	營業資材
		二五四、六四九	五六八、八二九	四六五、三七六	三五八、一〇二	計	計	計	計	計	計



木 建設 費材	奉 天				吉 林				牡 丹 江				計
	家 計	營 業 費材	生 計 費材	木 建設 費材	家 計	營 業 費材	生 計 費材	木 建設 費材	家 計	營 業 費材	生 計 費材	木 建設 費材	
三三九、七五二 三三〇、九六七	八、〇七八、七九六	一、四八九、九九八	六、三〇〇、六九八	一、五九二、三三八 一二八、八七一	一、八九一、六八二	七、八三、八六七	八〇一、五七八	一、四九七、七五七	一、八三一、二九〇	五、八〇、五九九	六五〇、八一九	二、四八七、五〇九	二、四八七、五〇九
八八七、三六〇	二、三、一二六、四〇一	四、六四八、七七三	一、六、五六三、三四八	五、八八、〇九〇 九五〇、九四〇	五、五八七、七七八	一、二六〇、〇〇〇	一、〇八二、六三七	一、四九一、七八〇	五、二五三、六三九	九〇六、一六八	一、〇二二、七五四	五、八五七、八七二	五、八五七、八七二
八五八、七八〇	一九、九八二、一三三	四、七五六、二九八	一、三、三〇六、〇六四	七、一四、〇二一 八三〇、五〇〇	五、六三五、六〇一	一、二六〇、〇〇〇	一、一三〇、五八一	一、四〇九、六八〇	五、三六〇、六四〇	八七三、〇八九	一、〇八二、五二七	六、〇六四、一五二	六、〇六四、一五二
三三九、七五二 三三〇、九六七	一、一、二二三、〇六四	一、三、八二、四六四	九、五五七、九八二	三三、三〇七 二四九、三一	一、八四三、八五九	七、一一、四一〇	七、五三、六三四	二、三一、八五七	一、七二四、二八九	六、八三、六七八	五、二一、〇四六	二、二八一、二二九	二、二八一、二二九

家 營 生 木 建設 費材	齊 魯 哈 爾 濱				東 安				北 安				佳 木 斯			
	家 計	營 業 費材	生 計 費材	木 建設 費材	家 計	營 業 費材	生 計 費材	木 建設 費材	家 計	營 業 費材	生 計 費材	木 建設 費材	家 計	營 業 費材	生 計 費材	木 建設 費材
五九五、六六七	二、一四〇、八一三	六、三八、八七五	五九五、〇七三	三三六、一七三 五一三、五七〇	三、〇四七、〇五四	八二一、二五五	一、二六四、五九五	三、九八、八〇〇 五六二、四〇三	二、九六八、七九三	二、二八、八〇八	一、二八〇、四六〇	一、二一〇、四六〇	一、二一〇、四六〇	一、二八〇、四六〇	一、二八〇、四六〇	一、二八〇、四六〇
八五五、〇〇〇	二、二六、八二六	二、一八、四九四	二、二七二、三六〇	一、六五九、六八〇 二、〇〇五、三〇三	九、八一八、七八七	一、四六三、一〇〇	三、一五七、五六〇	二、七二五、〇七五 三、一五七、五六〇	一、五、八二、八五八	二、八三一、七五〇	二、六九一、六二七	二、六九一、六二七	八、四二六、三〇〇	二、八三一、七五〇	二、六九一、六二七	二、六九一、六二七
八五五、〇〇〇	三、七六、四八四	一、九二二、七四六	一、二七二、三六〇	一、五六〇、五四〇 二、〇七〇、三一五	四、五五、六九九	一、四六三、一〇〇	三、〇五〇、三六〇	四、四、三六三 二、七三、四〇〇	一、五、三六七、三八九	二、六四三、四〇〇	二、九六五、四三二	二、九六五、四三二	七、七八〇、八五三	二、六四三、四〇〇	二、九六五、四三二	二、九六五、四三二
五〇四、九一七	二、二一、〇三九	八、三四、六二三	一、二七二、三六〇	九七七、〇九一 一、二〇一、八一三	九、七〇〇、六九二	一、四六三、一〇〇	二、二九八、六四六	二、七三、四〇〇 二、七三、四〇〇	三、四二五、三三二	二、七二〇、一七〇	六六七、九二〇	六六七、九二〇	二、七二〇、一七〇	二、七二〇、一七〇	二、七二〇、一七〇	二、七二〇、一七〇



合 計	四 平	興 安	建設資材					生計資材					營業資材					家計									
			木	生	營	家	木	生	營	家	木	生	營	家	木	生	營	家	木	生	營	家					
九、六三六		二〇七、〇九五	四、四九六	三、二二八	一一三、七二五	九、六三六	七、四二九	二六五、四五〇	四七七、九一五	四四〇、一〇〇	一、五七九、四八五	七五、六七三	二九〇、二三四	四四九、六〇二	二八〇、一二五	四四〇、一〇〇	一、五三五、七三四	一三、七九二	一六、七一一	六〇、五五一	一五九、七九一	二五〇、八四六	一三、七九二	一六、七一一	六〇、五五一	一五九、七九一	二五〇、八四六
四、七四三、四一四			七、四五八、〇三七	二六、四一八、九四〇	四一、九五八、九八七	七、四五八、〇三七	八、一八二、〇一〇	二四、九八七、八一九	四〇、三九三、七六六	三二、七一一、一四七	一六、四五二、六二四	八、一八二、〇一〇	二四、九八七、八一九	四〇、三九三、七六六	三二、七一一、一四七	一六、四五二、六二四	一、三三八、四一八	四、〇一九、四四一	四、〇一九、四四一	四、六四三、三三二	一八、二六五、九五八	一一、一五〇、七六二	四、〇一九、四四一	四、六四三、三三二	一八、二六五、九五八	一一、一五〇、七六二	三九、〇七九、四九三
三六、七六三、一七二			一一五、〇四三、六八七	一六、四五二、六二四	三二、七五五、〇九九	一一五、〇四三、六八七	一六、四五二、六二四	三二、七五五、〇九九	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇	一、三三八、四一八	五二、一三〇、〇

錦 州	黒 河	閩 島	札 蘭 屯	建設資材					生計資材					營業資材					家計							
				木	生	營	家	木	生	營	家	木	生	營	家	木	生	營	家	木	生	營	家			
八、一〇三	四、四六五	六一、三一五	六四三、〇八七	五〇四、五七六	一、〇〇六、五五〇	一、七二二、七五四	一、八四九、七五三	六四四、四八二	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五
六、一〇三	三、四三三、九八九	七六〇、九四四	六六七、二九〇	一、〇〇六、五五〇	一、七二二、七五四	一、八四九、七五三	六四四、四八二	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五
六一、三一五	一、一九二、〇五	三三一、二八六	六四三、〇八七	一、〇〇六、五五〇	一、七二二、七五四	一、八四九、七五三	六四四、四八二	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五	五、七二八、一一五

(一) 鐵道輸送 現下ノ鐵道輸送ハ益々其ノ緊迫度ヲ加ヘ統制ヲ強化サレ交通部ノ公社配當貨車數モ極度ニ削減セラル、現状ニ鑑ミ的確ナル輸送計畫ヲ樹立シ輸送機關ト緊密ナル連絡ヲ爲シ輸送計畫遂行ニ齟齬ナキヲ期シ居レリ。

第四款 物資ノ輸送



(二)

船舶輸送 (イ)海上輸送ニ關シテハ年間ヲ四半期ニ分テ毎月ノ計畫ヲ所定ノ日時ニ交通部ニ提出シ査定ヲ受ケ居レリ。(ロ)松花江沿岸ノ地ニ輸送スル場合ハ四月中旬ヨリ十月中旬迄ノ水運ヲ利用シ居レリ。松花江ハ北滿江運局ノ管理ニ屬シ居リ之ガ輸送手續ハ貨車運送ノ場合ト同様ナリ。

一六〇

第五款 物資ノ貯藏並ニ配給方針

(一)

各地方事務所需品課ハ管轄區域ノ需要量及殘存貯藏量ヲ勘案シ物資ノ貯藏補給並ニ配給計畫ヲ樹立シ需品部ニ提出ス。需品部ハ之ヲ檢討シ地方事務所ノ需品課ニ對シ補給スベキ當該品種及數量ヲ指示ス。

(二)

貯藏品ニ重點ヲ置ク結果中央、地方ヲ通ジ倉庫設備ヲ充實スル必要アリ。資材、資金關係ニ於テ困難アリタルモ之ガ施設ハ昭和十九年末ニ於テ三七、二九三平方米(内假倉庫一、五三七平方米、借上倉庫一、七八三平方米ヲ含ム)ノ建設ヲ完了セントシツ、アルモ需品取扱數量ヲ基準トシテ算出セル倉庫面積ニ比較スルトキハ尙相當量ノ收容力不足ヲ告ゲ居ル現狀ナリ。

第五節 工務ニ關スル業務

第一款 工務ノ業務

一、工務業務

開拓地ノ建設ニ伴ヒ公社自體施工部面ト開拓團自體施工部面ノ輔導トニ一定ノ計畫性ヲ有セシムル爲公社ハ主管箇所トシテ工務部ヲ設ケ其ノ效率的運營、業績ノ向上ヲ計リアリ。

二、開墾作業

開拓團入植地區ノ未墾地ニシテ急速ニ開墾シ開拓團營農計畫ヲ確立シ以テ増産遂行ニ支障無カラシムル爲、公社ニ於テハ能率的ナル「トラクター開墾」ヲ實施シアリ。而テ現在保有臺數ノ關係並燃料油類ノ配給事情等ヨリ開墾機能ヲ最高度ニ發揮セシムル爲トラクター一臺一五〇陌ノ完全開墾ヲ目標トシ從テ一團地一五〇陌以上ニ限リ之ヲ實施シ其ノ他小面積地區ニ關シテハ極力團自力又ハ畜力開墾ヲ實施セシメアリ。尙本年度ヨリ國家ノ要請ニ基キ着手セラレタル「緊急農地造成地區」ニ於ケル大規模開墾ニモ相當臺數ヲ配當シトラクター開墾ヲ實施シアリ。

本年度實施中ノ作業面積ハ概ネ次ノ如シ。

耕起	地區數	開墾面積	摘	要
耕起	一〇七	一七、五〇〇 陌	緊急農地造成地區水田開墾五地區計七〇〇〇陌ヲ含ム	
土	一〇二	二五、〇〇〇		



三、給水

開拓地ノ日常生活ノ根幹ヲ爲ス飲料水ニ關シテハ一應事前調査ヲ了シ完壁ヲ期シ居ルモ特ニ採水困難或ハ水質劣惡等ノ地區ニ付テハ再調査ノ上政府ノ負擔ニ於テ特殊給水施設ヲ實施シ以テ飲料水ノ確保ニ努メルト共ニ一般地區ニ付テハ之ガ鑿井指導等ヲ爲スノ外灌溉用井戸工事ヲモ調査實施セリ。

本年度實績ハ開拓團特殊井戸工事ハ簡易水道二十五箇所、特殊井戸百二十九箇所、灌溉井戸十三箇所ニシテ給水調査ハ十七箇所實施セリ。

四、地區内道路及電話

開拓團本部ニ至ル警備電話並ニ道路ハ何レモ政府負擔ニテ實施スル處ナルモ部落相互間連絡ニ付テハ最小限度ヲ公社ニテ代行シ或ハ團自體施行ヲ指導ス。代行ニ在リテハ特ニ施行上困難ヲ豫想セラル、濕地帶又ハ渡河等ノ特殊工事ヲ含ムモノニ限ル。

五、團地計畫及農地配分

開拓農場法ニ基ク開拓團ノ境界、土地利用區分及部落設定等ノ團地計畫ハ政府ノ施行ニ屬スルモ公社之ヲ受託シ農地配分業務ト併セ一貫施行ヲ企圖セリ。

農地配分ハ團地計畫ニ基キ農家ノ耕作スベキ農地ヲ當該基準面積ニ依リ配分スル業務ニシテ、農家ハ完全ニ自己ノ土地ト結合シ得ルト共ニ其ノ愛土心ヲ鼓舞シ以テ營農ノ基礎ヲ確立シ愈々増産ニ寄與スルコト、ナル。

昭和十八年度(康徳十年)度) 未迄ニ完了セル團、戸數ハ一一一團二二、九一五戸(一六%) 昭和十九年度(康徳十一年)度) 計畫ハ二〇六團四〇、七八〇戸(二九%) 殘量未施行ハ四六三團七九、一九八戸(五五%) ナリ。

1、實績一覽

團所名	完		十一年度計畫數		殘未施行量		摘
	團數	戶數	團數	戶數	團數	戶數	
哈爾濱	九	二,一〇〇	三	五,五一〇	三	六,一三〇	
佳木斯	一五	三,六五〇	二五	六,二五〇	六〇	九,六五〇	
北安	一三	三,一九〇	二四	六,〇八〇	八三	一七,〇七〇	
東安	一九	四,一三〇	一六	三,五〇〇	五七	一一,八三五	
齊齊哈爾	二二	二,八〇〇	二五	七,〇〇〇	一八	二,〇五〇	
牡丹江	四	九五〇	一九	二,一七〇	二一	四,九一〇	
吉林	二	一,八五〇	三〇	四,一一〇	五〇	七,〇〇六	
奉天	八	一,一〇〇	八	一,二三〇	二七	三,〇五七	含安東、通化、四平
札蘭屯	一	二,四〇〇	一〇	二,一五〇	九	一,六五〇	
開通	六	五九〇	七	一,二〇〇	九	八二〇	
錦州	一	六〇	一	一,五八〇	七	二,五六〇	
興安	一	五五	一	一,五八〇	七	一,四六〇	
黑河	一	二二,九一五	一	四〇,七八〇	三	一〇,〇〇〇	
計	一一一	二二,九一五	二〇六	四〇,七八〇	四三六	七九,一九八	

六、建築

開拓團ノ建築ハ入植初年度ニ於テハ團自體ニテ建築實施ハ至難ナルヲ以テ全面的ニ公社ニテ代行シ、開拓團ニ對シテハ所謂現物融資ノ形ヲ以テシ、二年度以降ニ於テハ資材ノ斡旋並ニ技術ノ輔導程度ニ止メ團自體ニテ建築可能ナルガ如ク計畫セリ。建築ハ個人人家、共同建物、公共建物其他等ナリ。就中個人人家ハ建設量最モ大ナル爲一定規格材ノ使用ヲ可能ナラシムルガ如キ施工ノ簡易化ヲ圖リ其ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期シタリ。家屋ノ改造補修、採煖設備ノ改善等積極的輔導ヲ爲スト共ニ建設資材輸送用自動車ヲ整備シ



之ガ應援ニ供セリ。

本年度工事実績左ノ如シ。

1、公社全體工事

區別	棟數	建築面積	摘	要
個人施設	六〇七五	一九一、七一四	内買収家屋	七一棟
營農施設	二二五	二一、三一八	"	八四棟
公共施設	一三五	五、四二五	"	一三棟
計	六、四三五	二一八、四五七		

2、受託建築工事

種別	箇所	棟數	工事費
開拓保健園診療所		二七	二八八、六〇〇
" " 保健婦養成所		一	二五五、〇〇〇
" " 綜合病院		一	二五〇、〇〇〇
在滿國民學校校舍		二五	二、〇二四、九五二
報國農場建物		二二	一、二六一、三七九
家畜診療所		二二	二〇〇、〇〇〇
計			四、二七九、九三一

第二款 業務ノ実績

本年度ニ於ケル開拓團其他ニ對スル業務ノ實施方針及実績左ノ如シ。

一、開拓地造成事業

- 1、開拓地ノ土地造成事業ハ大ニシテハ國土計畫ニ基ク全體開發ヲ根據トシ、未耕地ノ開田、開畑及既耕地ノ改良ヲ對象トスル増産ノ一翼ヲ擔フ基礎的事業ナリ。
- イ、本年度工事実績ハ基礎施設ハ一九三地區、造成面積田四三、〇一五陌、畑二七、七二三陌、豫算額三〇、二三七、〇二三圓ナリ。
- ロ、土地造成ノ爲メ調査実績ハ六四地區、調査面積水田二七、二〇一陌、畑二一、三七〇陌、計四八、五七一陌、豫算額五八六、三八二圓ナリ。
- ハ、昭和十八年度(康徳十年度)迄工事実績左ノ如シ。

年度別	工事費	造成面積		計
		水田	畑	
昭和十六年度(康徳八年度)	一一、五二九、九八四	七、六六一	一	七、六六一
昭和十七年度(康徳九年度)	二〇、三四四、六一三	一四、〇五一	九、八〇八	二三、八五九
昭和十八年度(康徳十年度)	一九、七八三、七〇〇	一六、四一三	一四、五〇五	三〇、九一八
計	五二、六五八、二九七	三三、一二五	二四、三一三	六二、四三八

2、土地造成事業ニ對スル輔導部面ハ特ニ開拓團自體施行ヲ得策トスル程度、即チ自家勞力ニ依ル小規模又ハ技術的ニ簡易ナルモノニ限り設計施設ノ指導ヲ爲ス。

3、本年度滿洲國政府委託土地造成事業ハ緊急農地造成地區トシテ龍江省甘南縣ニ於ケル造成事業外三地區ニシテ工事実績左ノ如シ。

省名	地區名	工事費	面積	
			水田	畑
江	甘南	三六、七六二、六五〇	一一、八九〇	一一八、一七一



東	三、六〇〇、〇〇〇	七、三〇〇
奉	四六二、〇〇〇	四、七五〇
錦	一、一五、〇〇〇	三〇、二二一
計	四、九三九、六五〇	一一、二一〇
安		
天		
州		
新		
立		
家		
山		
屯		
臺		

右ノ内甘南緊急農地造成事業ハ第九次開拓團十ヶ團ニ對スル七、〇〇〇陌ノ水田及之ニ隣接セル一八、〇〇〇陌、計二五、〇〇〇陌ノ水田ノ造成計畫ニシテ内水田一二、〇〇〇陌、畑一八、一〇〇〇陌ヲ造成セムトスルモノニシテ本年度ハ水田七、〇〇〇陌ヲ完成シ明年度作付ノ豫定ナリ。

第三款 資材及勞務

1、資材 工事資材ハ公社ノ需品機構ヲ通ジテ入手スルヲ建前トシアリ。

公社工事資材ノ物動割當狀況ハ鋼材ヲ除キ他ハ稍々良好ノ成績ナルモ現物取得狀況ハ概シテ良好ナリトハ言ヒ難ク殊ニ第二、四半期以降ヨリ國內復舊工事資材ノ需要輻輳等ニ依リ其現物化ハ鋼材銑鐵ハ愈々至難ノ状態トナリコレガ將來ノ見透シニ關シテハ全ク逆踏シ難キモノアリ。一部工事ニ關シテハ半成又ハ繰越ニ至ルノ止ムナキモノアリ。

尙昭和十八年度(康德十年)度)半成又ハ繰越ノ既計畫ト昭和十九年度(康德十一年度)新規計畫工事トニ配給消費ハ昭和十九年度(康德十一年度)割宛量ニ對シ鋼材七〇%、洋灰四六%、木材六五%トナリ工事所要量ノ四〇%乃至五五%ノ現狀ナリ。

2、勞務 公社ニ於ケル動員勞工ハ主ニ滿(支)系ニシテ一部特殊工事ニ在リテハ鮮系ヲモ對象トセリ。昭和十九年度(康德十一年度)開拓關係勞務ノ割宛ハ七七、〇〇〇名ニシテ之ガ内譯ハ國內六三、〇〇〇名、國外一〇、〇〇〇名勤奉隊四、〇〇〇名ノ計畫ナリシモ時局ノ進展ニ伴フ國內諸事業ノ所要勞力増加ハ總ユル方面ニ影響シ開拓事業亦募集難ニ遭遇セリ。就中國內募集ニ在リテハ他事業隊トノ競合多ク其ノ過半數ヲモ獲得シ能ハサル状態ニ至リ、茲ニ於テ事業ノ重要性ニ鑑ミ特ニ關係當局ノ援助ニヨリ緊急供出或ハ準緊急供出等ノ方式ニ依リ勞工確保ニ努メタル結果工事着手當時國內三〇、〇〇〇名、國外六、四〇〇名、勤奉隊四、〇〇〇名、供出二、〇〇〇名、計四二、四〇〇名ヲ保有シ重要工事ノ進捗ヲ圖レリ。

一面勞務管理ニ於テハ社員ノ現場指導ヲ強力ニ實施シ出勤率ノ向上ニ努メ以テ能率増進ヲ圖リ人員不足ノ缺陷ヲ補ヒタリ。勞需物資中食糧ハ政府ノ策定ニヨリ配給稍々圓滑ニ實施セラレ大ナル支障ヲ來サザリシモ其ノ他ノ勞需物資ハ地域的不足ノ箇所多ク勞工離散ノ素因トナル事實多ク統制品外ノ物資獲得其他萬策ヲ講シ盡シテ配給セル實狀ナリ。之ヲ要スルニ主食物ノ確實配給ニ依リ異動者前年度ニ比シ減少シ現場管理ノ徹底ハ出勤率ヲ昂メ全般ヲ通ジ勞力獲得難ニ比シ工事進捗狀況稍々良好ニ經過セリ。



## 第七章 投資事業

公社ハ社外投資トシテ定款第二條ニ基キ開拓民ノ輔導助成ニ必要ナル事業ニ夫々出資協力シアリソノ狀況ニツキテハ別表ノ如シ。  
其ノ主ナル事業會社ノ業務ヲ示セバ左ノ如シ。

- 滿拓農産工業株式會社 開拓地ニ副業ヲ獎勵シテ酒精製造ヲ行フ
- 滿洲酪農株式會社 開拓地ニ於ケル酪農普及製品ノ製作販賣ヲ行フ
- 滿拓農機株式會社 開拓地用農機具ノ製作販賣ヲ行フ
- 滿拓特殊工事株式會社 開拓地ニ於ケル拓地、開墾、建築ヲ實施ス

株式投資一覽表

種別	總資本金	拂込済額	總株數	公社所有株數及金額		創立年月日
				株數	金額	
滿洲畜産公社	二五、〇〇〇、〇〇〇圓	二五、〇〇〇、〇〇〇圓	五〇〇、〇〇〇株	四五、〇〇〇株	二、二五〇、〇〇〇圓	昭和十二年九月一日
滿洲木材加工株式會社	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	一七五、〇〇〇	昭和十五年十二月一日
滿洲開拓被服株式會社	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、八〇〇	三四〇、〇〇〇	昭和十八年二月二十七日
康徳産業株式會社	二、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	昭和十九年二月一日
滿拓農産工業株式會社	五、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	同 四月二十六日

滿洲酪農株式會社	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇	二、二五〇、〇〇〇	同 五月二十三日
滿拓農機株式會社	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	同 七月一日
滿洲畜産株式會社	二、〇〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三八、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	同 八月九日
滿拓特殊工事株式會社	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	一二、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	同 九月八日



45-784E







